

サノ部

▲材木商

易居町 合名會社淺田商會
 生産町 土木請負業
 小川町 二五外山貞次郎
 榮町 一〇六井之口平次郎
 易居町 五三吉元與四郎
 山下町 九六田中藤兵衛
 同 一 下前平右衛門
 同 一 猪谷雄三
 東千石町 三六大河平隆芳
 易居町 五九戸高榮之助
 西千石町 一 富原與右衛門

六日町 一 藤田清太郎
 堀江町 六九大重誠二
 西千石町 一 海江田喜三次
 堀江町 一 有馬善助
 山之口町 一 永田ハナ
 下龍尾町 石材、金物、油類
 同 土木請負業
 樋之口町 土木請負業
 西千石町 一 山田春美
 樋之口町 一 厚地利平
 一 木下喜太郎
 吳服町 一 永田千秋
 一 木場彦兵衛
 潮見町 仲買商、雜貨商、
 金錢貸付業
 一 海江田金次郎

▲砂糖商

泉町 雜貨商、金錢貸付業、倉庫業
 潮見町 穀物商、醬油、味噌
 築町 池盛、穀物、茶
 同 金錢貸付業
 同 雜貨、陶磁器製造業
 吳服町 雜貨、鹽商
 住吉町 荒物商
 沙見町 二七吉田得藏
 泉町 雜貨商 二八大坪岩次郎
 堀江町 油製造業 二九若松吉次
 築町 乾物、石油商 三〇交慶田政太郎
 泉町 池盛、雜貨商 三一立山祐右衛門
 中町 雜貨商 三二柳元勝藏
 泉町 池盛、雜貨商 三三服部與次郎
 金生町 雜貨商 三四矢野彦兵衛
 一四藤井吉次郎
 一四飛岡吉次郎
 一四藤井吉次郎

沙見町 金錢貸付業
 下龍尾町 荒物商
 小川町 酒類、荒物商
 東千石町 荒物商
 山之口町 荒物、雜貨商
 金生町 雜貨商
 加治屋町
 住吉町 荒物商
 榮町 荒物商
 春日町 雜貨商
 車町 荒物商
 金生町 穀物商
 平之町 穀物商
 樋之口町 質屋業

三野上佐太郎
 空三村山直右衛門
 八六江口新兵衛
 一山下モト
 五五岩元愛次郎
 三三福崎直太郎
 空元平郡宏明
 空三濱田休兵衛
 一竹之内恒太郎
 一瀬戸山製炭太郎
 一中馬吉藏
 一山下卯八郎
 一宮下愛吉
 一中村武右衛門

泉 町 饅節商

六五萩原直次郎

▲雜貨商

中 町

一 黒木善藏

住吉町 紙商

平之町 穀物商

一 宮下愛吉

山之口町 砂糖商

五登岩元愛次郎

金生町

金生町 砂糖商

一 福崎直太郎

同

春日町 砂糖商

一 瀬戸山袈裟太郎

同

金生町 砂糖商

一 益藤井吉次郎

同

中 町 砂糖商

一 山之内善之助

大黒町

泉 町 砂糖商

二四 中馬辰次郎

吳服町

泉 町 砂糖商

三〇 矢野彦兵衛

キノ部

泉 町 砂糖商

九飛岡吉次郎

泉 町 砂糖商

二七 吉田得藏

▲器械商

海江田金次郎

六慶田政太郎

三立山祐右衛門

三鮫島武八郎

九久板村穂之助

一 大津勇熊

一 佐藤喜兵衛

一 山野彌吉

一 中島甚助

中 町

五久永吉之助

山下町

東千石町

一 寺師盛次

同

同

一 吉元喜八

山之口町

山下町 土木請負業

一 折田助市

東千石町

中 町 書籍文具商

三〇 吉田幸兵衛

山下町

易居町 精米業

一 五代友憲

山之口町

▲牛乳商

山下町

山下町

一 宮本政太郎

同

新屋敷町

五元安田榮助

東千石町

加治屋町

三四 肝付郷十郎

沙見町

同

鹽屋村

同

▲金錢貸付業

中 町

四三 山元次兵衛

新屋敷町

五六土師甚右衛門

一 坂元己義

一 大橋太平次

一 有川二之助

一 松元直助

一 邦永萬吉

五七吉元喜藏

四九山下平藏

五九太原十助

一 森

一 吉田清親

七五黒岩伊八郎

一 宅間孫右衛門

鹽屋村	易居町	平之町	清水町	日之口町	鼓川町	鹽屋村	山之口町	下龍尾町	山下町	車町	樋之口町	春日町	荒田村
下龍尾町	新屋敷町	山下町	清水町	新町	平之町	荒田村	同	山之口町	新屋敷町	東千石町	柳町	中町	住吉町
北郷久政	石塚榮次郎	立山吉左衛門	美代清元	三渡邊優藏	竹下善次郎	福迫新太郎	村上求吉	石井元貞	村松新八郎	黒木直助	池田喜之助	奥穴吉井善藏	柳澤源四郎
下龍尾町	新屋敷町	山下町	清水町	新町	平之町	荒田村	同	山之口町	新屋敷町	東千石町	柳町	中町	住吉町
下龍尾町	新屋敷町	山下町	清水町	新町	平之町	荒田村	同	山之口町	新屋敷町	東千石町	柳町	中町	住吉町
下龍尾町	新屋敷町	山下町	清水町	新町	平之町	荒田村	同	山之口町	新屋敷町	東千石町	柳町	中町	住吉町

泉町	泉町	住吉町	西千石町	中町	住吉町	沙見町	松原町	中町	堀江町	中町	小川町	山之口町	樋之口町
鯉節商	鯉節商	同	菓子商	紙商	仲買業	仲買業	藥種商	古物商	同	鶏卵商	穀物商	藍玉商、染物商	質屋業
西田町	金生町	柳町	金生町	吳服町	泉町	中町	中町	東千石町	榮町	中町	沙見町	築町	泉町
質屋業	酒類商	酒類商	荒物商	酒類商	仕出料理業	骨董商	吳服商	吳服商	吳服商	小間物商	砂糖商	砂糖商	砂糖業
五登有馬祐太郎	二七西元周藏	四三相良安之助	一鮫島幸太郎	九三久保綱太郎	五〇谷山熊次郎	一重野藤太郎	三是枝新次郎	丸見有村善吉	一玉利金助	三登藤武喜助	三野上佐太郎	一三若松吉次	二七吉田得藏
西田町	金生町	柳町	金生町	吳服町	泉町	中町	中町	東千石町	榮町	中町	沙見町	築町	泉町
西田町	金生町	柳町	金生町	吳服町	泉町	中町	中町	東千石町	榮町	中町	沙見町	築町	泉町

汎見町 砂糖商

吾海江田 金次郎

山下町 火藥、自轉車

一矣横山 辰次郎

▲魚類商

山之口町 火藥商

吾田中 宗太郎

中町 荒物商

八七下川 三次郎

▲鹽類

同 荒物商

六二波江野清右衛門

山下町

三三林 平兵衛

住吉町

五石塚休右衛門

鹽屋村

一横山 虎之助

同

一岩重 千

易居町

一眩黑 伊太郎

▲生糸商

車町 荒物商

一田中 陽一

金生町

三三大重 利助

吳服町 砂糖商

三三立山 祐右衛門

シノ部

▲銃器商

新照院町

三三和 田仁右衛門

平之町

三三川 畑直太郎

同 醬油商

五五田上 彌市

加治屋町 穀物商

一六久保 新太郎

新照院町 仕出料理業

一久保 太吉

樋之口町 質屋業

一中 村武右衛門

山下町 穀物商

四六竹之内 伊太郎

吳服町 燒酎業

一南谷 善太郎

荒田町 穀物商

七三原田 治助

小川町 砂糖商

八〇江口 新兵衛

東千石町 穀物商

四六山下 幸右衛門

山下町 獸肉類商

一石川 友藏

生産町 穀物商

四三川久保 傳助

中町 菓子商

四三高岡 ツル

小川町 穀物商

一別府 直次郎

金生町 古着、金銭貸付業

二七西元 周藏

高麗町 穀物商

一遠矢 英輔

泉町

一遠藤 久次郎

西千石町 穀物商

一太田 吉之助

柳町 金銭貸付業

四三相良 安之助

高麗町 穀物商

一齋之平 助太郎

中町

二四日高 善之助

平之町 穀物商

一黒岩 吉次郎

吳服町

一三酒匂 善次郎

平之町 綿商

一山口 虎吉

泉町

三三小玉 三郎兵衛

平之町 穀物商

一宮下 愛吉

惠美須町

一河野 藤八郎

新町 穀物商

一和田 伸太郎

中町

一熊谷 三作

市商工業者之部

沙見町	長瀬下ヲ	東千石町	田中末吉
金生町	三三社 菊松	堀江町	鏗節商
吳服町	九三久保 綱太郎		吾西福留宗吉
榮町	吾西相良 仲右衛門		
中町	吉貞江原 善四郎	▲書籍文具商	
樋之口町	小正市助	中町	代辯業、機械商
山之口町	三免内村 彌之助	中町	文具商
船津町	川添嘉吉	東千石町	同
吳服町	森山小吉	同	同
樋之口町	松久保 助太郎	平之町	文具商
東千石町	福元末吉	山下町	文具商
下龍尾町	倉園岩助		
東千石町	三シ小賣業	▲燒酎業	
	三免繼田 直行	松原町	味噌、醬油、荒物商
			山下エイ

平之町	新福 直太郎	新町	山下 榮次郎
吳服町	南谷 善太郎	金生町	三岩元 清次郎
山下町	北野 市太郎	東千石町	七〇山下 榮助
小川町	中俣 榮吉	堀江町	山口 彦兵衛
住吉町	川井田 龜吉	荒田町	池田 政右衛門
新町	梅 佐太郎	船津町	古着商
		新屋敷町	古着商
		新屋敷町	古着商
		新屋敷町	古着商
			三七藤田 覺兵衛
			一重久 常助
			一黑岩 幸之助

▲質屋業

中町	岩元 源藏	▲寫眞業	
西田町	金錢貸付業		
樋之口町	穀物、砂糖、酒類 金錢貸付業	山下町	三益杉元 大吉
堀江町		山下町	吾西田島 晴雄
平之町		山下町	一濱田 良太郎
車町		山下町	一川 畑新吉

市商工業者之部

東千石町
東千石町

一日高 菊次郎
山下 德之助

吳服町
金生町

四只熊 谷政助

七二江 口常次郎

八〇三竹之内 勇左工門

八五井 上辰次郎

八五坂 元真之助

一細野 イッ

一吉川 賢資

八五永 野市之進

▲自轉車業

吳服町 同修繕

新町 同修繕

六日町 同修繕

東千石町 同修繕

堀江町 同修繕

東千石町 藍玉

山下町 銃器商

▲漆器商

吳服町 諸油類商

六〇濱田 龜次郎

泉町 金錢貸付業

中町 吳服町

▲仕立料理業

五〇谷山 熊次郎

三〇愛甲 新太郎

七七岩 重新之助

一 大山 新之助

吳服町
新照院町 酒類商

一百合 九藏
一久保 太吉

▲醬油味噌商

山之口町 穀物商

和泉屋町

三〇田 中徳太郎

一池田 兼高

中町

六日町

東千石町

中町

山之口町 硝子商

▲食料品

中町

東千石町

吳服町 酒類商

四五緒方 清

一有村 直五郎

一森山 小吉

新照院町 穀物商

市商工業者之部

加治屋町 穀物商
松原町 燒酎業
平之町 酒類商
沙見町 砂糖商

一 大久保 新太郎
一 山下 エイ
三 荒田 上 彌市
三 大坪 岩次郎

▲諸公債株券

平之町 穀物商
金生町
船津町
吳服町

中 町

三 和田 仁右衛門
一 大西 康之助
三 五野 村 惠太郎
一 大坪 伊太郎
三 荒岩 重 爲次郎

▲薪炭商

平之町 穀物商

三 和田 仁右衛門

築 町

一 鳥 丸 喜太郎

易居町

一 松田 正八郎

平之町 穀物商

一 辰 巳 貞次郎

新 町 穀物商

一 宮下 愛吉

新照院町 穀物商

一 和田 仲太郎

西千石町 穀物商

一 今村 助八

西千石町 穀物商

一 八重倉 敏吉

▲獸肉類商

中 町

山下町 酒、豚肉商

山下町 皮、骨商

金生町

和泉屋町 豚肉商

一 石川 友藏
一 別府 已之助
一 山下 祇助
一 福山 ユキ
一 藤山 マサ

七ノ部

▲肥料商

小川町

一 鹿兒島 肥料合資會社

住吉町

三 濱 平 正一

築 町 仲買業

一 野口 幸之助

濱 町

三 佐々木 才吉

小川町

三 佐藤 平右衛門

住吉町

三 矢野 仲次郎

堀江町

三 川添 榮之丞

住吉町 倉庫業

三 釜稻 松 熊吉

沙見町 饅節商

三 坂元 直兵衛

▲石材商

山下町 土木請負業

清水町 土木請負業

平之町

下龍尾町 材木商

一 青木 嘉一郎

一 中尾 新左衛門

一 持益 三次郎

一 八元橋 口七郎

▲精米業

稻荷町 素麵製造仲買業

稻荷町

稻荷町

稻荷町

易居町 精米器販賣

三 齒竹之内 諭 輔

三 中島 勘次郎

三 九川 邊 サヲ

一 岡野 龜次郎

一 五代 友憲

七ノ部

中町 三三 濱田 ヲカ
 中町 八二 紫雲館 濱崎 徳市
 中町 三四 吉田屋 吉田 英助
 住吉町 一五 山下 淺太郎
 中町 八三 服部 誠之助
 生産町 望 都旅館 有田 次助
 東千石町 五 右田 右田 ミツ
 東千石町 八三 本田 本田 ハナ
 吳服町 三三 大道 大道 熊太郎

營業場所

氏名
 渡瀬 傳吉
 大小田 八郎
 原田 虎助

二ノ部

肉類商

出口 幸一

◎郡部商工業者ノ部

口ノ部

▲土木請負業

鹿兒島郡谷山村
 川邊郡加世田村
 鹿兒島郡伊敷村

濱平 藤太郎
 二由 松兵衛
 島中三左衛門

▲勞力請負業

始良郡横川村
 日置郡東市來村
 鹿兒島郡谷山村
 日置郡下伊集院村
 鹿兒島郡吉野村
 鹿兒島郡谷山村
 日置郡下伊集院村
 肝屬郡大根石村
 始良郡牧園村
 鹿兒島郡谷山村
 薩摩郡入來村
 川邊郡川邊村
 贈嶽郡松山村

園田 助太郎

力ノ部

▲金物商

馬場 矢次郎

鮫島 藤兵衛

▲貸席

福留 興次郎
 岩崎 榮二
 榊原 佐助
 精松 岩熊
 外山 宗市
 樋口 四右衛門
 海江田 豊之助
 山元 喜助
 羽月 十右衛門
 桐原 兵袈裟
 森園 重義
 天辰 熊次郎
 増山 仲之助

始良郡牧園村

贈嶽郡大崎村
 大島郡名瀬村
 鹿兒島郡東櫻島村
 薩摩郡高城村
 薩摩郡入來村

堀切 武兵衛
 小倉 幸雄
 野田 藤作
 奈良迫 熊太郎
 竹之内 五郎
 遠矢 布夫
 森園 重義

郡部商工業者之部

日置郡伊作村

中島 夕 永

ヨノ部

▲倉庫業

始良郡福山村

川井田 重助

▲洋服商

同

木山 十右衛門

鹿兒島郡伊敷村

園田 金次郎

ナノ部

▲仲立業

鹿兒島郡谷山村

八色 直太郎

タノ部

▲煙草商

肝屬郡鹿屋村

柳村 佐一郎

同

伊牟田 爲平

指宿郡指宿村

指宿煙草元寶
組合名合社

同

是枝 壽兵衛

薩摩郡隈城村

川内煙草元寶
組合名合社

ウノ部

運送業

川邊郡東加世田村

森田 七左衛門

ソノ部

熊毛郡北種子村

薩摩郡鶴山村

熊毛郡北種子村

徳村 十七吉

肝屬郡花岡村

ヤノ部

▲藥種商

肝屬郡花岡村

始良郡加治木村

小杉 恒右衛門

始良郡敷根村

フノ部

▲物品販賣業(雜)

大島郡東方村

川邊郡東加世田町

吉峰 長作

始良郡福山村

薩摩郡隈城村

上野 藤左衛門

大島郡名瀬村

川邊郡東加世田村

森田 七左衛門

始良郡福山村

薩摩郡隈城村

鮫 島 壯平次

肝屬郡花岡村

始良郡西園分村

森 安之助

肝屬郡内三浦村

始良郡福山村

立元 喜助

郡商工業者之部

鹿兒島郡谷山村
始良郡西園分村
大島郡東方村
始良郡牧園村
薩摩郡隈城村
薩摩郡鶴田村
始良郡福山村
鹿兒島郡谷山村
始良郡牧園村
同
伊佐郡大口村
大島郡名瀬村
川邊郡東加世田村
始良郡加治木村

崎山 森吉 薩摩郡隈城村
林 覺兵衛 始良郡加治木村
黑岩 伊八郎 始良郡横川村
堀切 武兵衛 薩摩郡平佐村
兒玉 吉藏 始良郡東園分村
末松 金四郎 始良郡園分村
川井田源右衛門 始良郡加治木村
伊牟田 良之助 鹿兒島郡西櫻島村
小倉 幸雄 伊佐郡山野村
野田 藤作 始良郡福山村
平山 新助 始良郡牧園村
池畑 末吉 鹿兒島郡谷山村
森田 尚之 指宿郡指宿村
美坂 金助 大島郡名瀬村

新原 安二
金澤 清次
園田 助太郎
小山田卯右衛門
赤塚直右衛門
徳田助右衛門
正村 仁兵衛
須田 清太郎
山口 佐次郎
立元 嘉兵衛
奈良迫 熊太郎
古川 幸太郎
猪俣 新太郎
緒方 辰四郎

始良郡東園分村
鹿兒島郡西櫻島村
薩摩郡隈城村
始良郡福山村
薩摩郡隈城村
薩摩郡平佐村
鹿兒島郡谷山村
薩摩郡平佐村
始良郡園分村
指宿郡指宿村
薩摩郡宮城村
薩摩郡鶴田村
同
始良郡梁野村

中村 善兵衛 鹿兒島郡谷山村
川原 正助 大島郡東方村
田代 袈裟七 同
立山 彌市 始良郡東園分村
石原 直次郎 鹿兒島郡谷山村
慶田 齊次 始良郡加治木村
岩崎 榮二 薩摩郡東水引村
小牧 徳之助 日置郡阿多村
林 柳右衛門 指宿郡指宿村
今林 傳太郎 薩摩郡山崎村
萩原 惣藏 鹿兒島郡谷山村
久木田 伊兵衛 薩摩郡隈城村
川端 龍太郎 薩摩郡山崎村
林 安五郎 指宿郡指宿村

田原 藤八
中田 文七
富山村 美要
加藤 和次郎
是枝 龍之助
酒匂 萬次郎
相良 十次郎
花房 幸之進
野口 幸太郎
前田 吉熊
是枝 定右衛門
渡邊 清七
山口 幸太郎
中俣 茂助

大島郡東方村	猪谷 壯吉	鹿兒島郡谷山村
伊佐郡山野村	山下 佐吉	鹿兒島郡谷山村
薩摩郡宮城村	若松 平助	始良郡帖佐村
始良郡加治木村	川畑 平八郎	始良郡加治木村
指宿郡指宿村	大山 甚七	指宿郡指宿村
始良郡西襲山村	重吉 熊右衛門	始良郡西國分村
薩摩郡宮城村	手塚 爲次郎	肝屬郡垂水村
川邊郡東南方	山之内 嘉也	指宿郡指宿村
始良郡東國分	林 嘉兵衛	薩摩郡下飯村
薩摩郡東出羽村	永井 シミ	肝屬郡垂水村
川邊郡東南方村	山下 龍吉	薩摩郡人來村
伊佐郡大口村	上野市右衛門	始良郡帖佐村
川邊郡東南方村	森田 伸太郎	始良郡横川村
川邊郡川邊村	下野 平吉	屬肝郡始良村

宮崎 龍之助
肝付 喜一郎
村田 喜之助
新名 平左衛門
大小田 八郎
鶴木 正雄
山下 敬助
黒岩 治助
小川 傳太郎
兒玉 丑之助
森園 重義
黒木 龜吉
池田 喜左衛門
齋藤 袈裟吉

コノ部

▲穀物商

噺喉郡岩川村	中山 嘉兵衛	伊佐郡東太良村
肝屬郡鹿屋村	濱平 淺助	肝屬郡垂水村
同	吉井 善藏	始良郡栗野村
噺喉郡末吉村	中島 德藏	鹿兒島郡谷山村
肝屬郡垂水村	中山 嘉兵衛	伊佐郡葵刈村
伊佐郡東太良村	窪田 金太郎	同
噺喉郡財部村	山元 惣五郎	肝屬郡東太良村
始良郡加治木村	美坂 銀次郎	伊佐郡西太良村
伊佐郡葵刈村	中山 喜三次	始良郡加治木村
伊佐郡大口村	竹之内 彌助	同
同	安樂 太助	鹿兒島郡伊敷村

郡部商工業者之部

宮元 邦資
山下 喜二
林 休助
山角 春右衛門
友重 直彦
楠元 才次郎
古川 深藏
中村 熊次郎
古川 庄助
永島 松次郎
中村 休助
杉田 平一郎
杉田 誠助
川原 庄之助

伊佐郡菱刈村
 鹿兒島郡西武田村
 始良郡加治木村
 肝屬郡高山村
 鹿兒島郡伊敷村
 肝屬郡垂水村
 大島郡名瀬村
 薩摩郡隈城村

▲吳服商

千々岩 平助
 中村 伊太郎
 森山 安千代
 濱崎 袈裟次郎
 福林 善四郎
 友重 昌吉
 横山 新左衛門
 天野 庄治

大島郡名瀬村
 同
 出水郡上出水村
 薩摩郡東志布志村
 大島郡名瀬村
 始良郡横川村
 熊毛郡北種子村
 出水郡上出水村
 熊毛郡北種子村
 鹿兒島郡谷山村
 熊毛郡上屋久村
 大島郡名瀬村
 肝屬郡大根占村

大山 格兵衛
 藤田 正太郎
 井料 庄八
 又木 友太郎
 岩元 清兵衛
 林 岩吉
 田中 善兵衛
 木上新助
 小山田 善次郎
 古川 深藏
 河野 庄之助
 矢野 吉次郎
 白石 格太郎
 野口 榮藏

出水郡中出水村

大島郡名瀬村

始良郡横川村

日置郡中伊集院村

熊毛郡中種子村

肝屬郡高山村

▲小間物商

大島郡名瀬村

同

同

同

崎元 幸兵衛

山崎 善次郎

春園 庄次郎

安樂 藤太郎

上川 源次郎

永田 長之助

▲鐵工場

鹿兒島郡吉野村

アノ部

▲荒物商

肝屬郡鹿屋村

鹿兒島郡谷山村

肝屬郡高山村

肝屬郡垂水村

肝屬郡鹿屋村

伊佐郡大口村

島津家磯集成館

山之内 彌兵衛

古川 深藏

松岡 徳太郎

龜澤 武次

中津留金左衛門

二木 淺太郎

テノ部

郡部商工業者之部

サノ部

▲砂糖

大島郡名瀬村
同
大島郡東方村
大島郡和泊村
大島郡名瀬村
同
大島郡和泊村
大島郡與論村
同
大島郡名瀬村
大島郡龜津村
同

竹之内 才次郎
川井田半左衛門
竹之内 諭輔
田中 徳藏
大山 格兵衛
藤田 庄太郎
菊谷 宗次郎
田原 藤兵衛
橋口 宗太郎
白石 格太郎
鮫島 茂吉
森 新左衛門

▲材木商

大島郡龜津村
大島郡名瀬村
鹿兒島郡西武田村
大島郡與論村
大島郡龜津村

宮田 平市
山崎 善次郎
中村 伊太郎
中村 シヅ
小野 梅吉

伊佐那大口村
薩摩郡隈城村

斐田 平吉
天野 庄治

大島郡名瀬村
大島郡名瀬村
大島郡龜津村
熊毛郡上原久村

川井田半左衛門
大山 格兵衛
計屋 謙藏

▲雜貨商

大島郡名瀬村
同
同
熊毛郡北種子村

藤田 正太郎
白石 格太郎
山崎 善次郎
徳丸 十七吉

川邊郡東南方村
川邊郡東加世田村
出水郡阿久根村
薩摩郡山崎村
薩摩郡隈城村
日置郡東市來村
薩摩郡山崎村

キノ部

▲金錢貸付業

出水郡阿久根村
同
薩摩郡平佐村
大島郡龜津村
薩摩郡隈城村
鹿兒島郡谷山村
伊佐那東太良村

中山 友太郎
白石 徳太郎
神崎 榮次
野上 佐太郎
上野 藤左衛門
濱平 藤太郎
永峰 莊熊

薩摩郡岩川村
始良郡西國分村
始良郡福山村
大島郡東方村
指宿郡額姓村
肝屬郡鹿屋村
薩摩郡上東郷村

郡部商工業者之部

有川 誠助
森田 七左衛門
加藤 喬樹
肝付 兼乘
鮫島 壯平次
海江田 平治
酒匂 基彦
中山 嘉兵衛
森 安之助
立元 吉助
黒岩 伊八郎
武郷 八
岩元 吉太郎
木脇 一丸

鹿兒島縣案內

薩摩郡隈城村	小山田右左衛門	鹿兒島郡西櫻島村
川邊郡東南方村	有川末治	肝屬郡垂水村
薩摩郡隈城村	兒玉吉藏	薩摩郡隈城村
薩摩郡鶴田村	末松金四郎	始其郡福山村
薩摩郡東水引村	横山尙二	肝屬郡内ノ浦村
始其郡福山村	川井田源右衛門	始其郡加治木村
鹿兒島郡谷山村	伊牟田良之助	日置郡串木野村
薩摩郡上東郷村	柳彌吉	薩摩郡隈城村
出水郡阿久根村	中村典義	肝屬郡鹿屋村
大島郡名瀬村	池畑末吉	指宿郡指宿村
肝屬郡内ノ浦村	池田盛右衛門	薩摩郡上東郷村
川邊郡東加世田村	森田尙之	鹿兒島郡西櫻島村
肝屬郡垂水村	楡山助右衛門	始其郡福山村
始其郡東園分村	赤塚直右衛門	始其郡東園分村

須田清太郎
川畑銀藏
井上友志
立元嘉兵衛
峰崎次兵衛
美坂銀次郎
宮原重
長濱幾郎
前原壯太郎
猪俣新太郎
川添多加
川原正助
立山彌市
鶴木靜太郎

鹿兒島縣商工人名錄

始其郡重富村	川田和助	出水郡高尾野村
薩摩郡平佐村	小牧徳之助	薩摩郡東水引村
鹿兒島郡吉野村	精松岩熊	熊毛郡北種子村
指宿郡指宿村	今林傳太郎	薩摩郡上東郷村
肝屬郡垂水村	島津貴暢	指宿郡指宿村
薩摩郡鶴田村	久木田伊兵衛	薩摩郡隈城村
薩摩郡鶴田村	川端龍兵衛	同
肝屬郡高山村	黒木正義	大島郡東方村
始其郡國分村	林嘉助	薩摩郡宮城村
鹿兒島郡谷山村	田原藤八	熊毛郡北種子村
肝屬郡垂水村	川井田善左衛門	始其郡西園分村
大島郡東方村	中田文七	指宿郡指宿村
同	富山村美要	川邊郡東南方村
始其郡加治木村	酒匂萬次郎	出水郡阿久根村

梅木淺次郎
相良十次郎
小山田善次郎
相原與市
野口幸太郎
松元徳太郎
渡邊清七
猪谷壯吉
若松平助
深川伍一
山内慶治
大山甚七
鮫島宗行
郡山良介

薩摩郡宮城村
薩摩郡東水引村
肝屬郡垂水村
始良郡西園分村
出水郡野田村
肝屬郡垂水村
出水郡上出水村
始良郡加治木村
薩摩郡高城村
伊佐郡菱刈村
日置郡東市來村
大島郡天城村
薩摩郡宮城村
始良郡西園分村

手塚 爲次郎
永井 シミ
町田 一平
池田 傳右衛門
來仙 平太郎
奥 藤之進
二宮 國安
新名 平左衛門
遠矢 布夫
嶽崎 種好
元山 藤兵衛
林 爲良
小牧 伊勢吉
鶴木 正雄

指宿郡指宿村
薩摩郡下飯村
薩摩郡山崎村
指宿郡指宿村
薩摩郡殿城村
始良郡加治木村
出水郡中出水村
熊毛郡上屋久村

上山 利助
小川 傳太郎
谷口 十郎
濱田 金之助
鬼塚 和計

▲生糸商

緒方 壯吉
井上 四郎太

シノ部

▲椎茸製造

計屋 謙藏

▲樟腦製造

鹿兒島郡吉野村

野田 源五

▲鹽商

出水郡阿久根村
肝屬郡垂水村
川邊郡東南方村

丹宗 徳藏
川井田 榮吉
島野 平次郎

▲酒類

出水郡阿久根村
出水郡上出水村
同
出水郡中出水村
同
同
鹿兒島郡伊敷村
鹿兒島郡西武田村
日置郡西市來村

鹿兒島縣商工人名錄

中山 友太郎
西 次助
新屋 太助
奈良 國藏
崎元 幸兵衛
寶來 岩五郎
川原 庄之助
中村 伊太郎
若松 清次郎

ヒノ部

▲肥料

出水郡上出水村
指宿郡喜入村
鹿兒島郡谷山村
出水郡久根村
出水郡中出水村

神田 甚介
指宿 資合肥料社
崎山 森吉
丹宗 徳藏
奈良 國藏

指宿郡喜入村

川邊郡東加世田村

鹿兒島郡伊敷村

出水郡高尾野村

鹿兒島郡伊敷村

伊佐郡東太良村

鹿兒島郡伊敷村

南 吉太郎

平川 徳兵衛

脇 仲右衛門

梅木 一郎

林 休助

林 徳次郎

野元 伊平次

薩摩郡龜田村

始良郡福山村

鹿兒島郡谷山村

始良郡加治木村

薩摩郡隈城村

始良郡加治木村

薩摩郡平佐村

始良郡國分村

始良郡加治木村

鹿兒島郡西櫻島村

肝屬郡大始良村

薩摩郡隈城村

鹿兒島郡谷山村

末松 金四郎

川井田源右衛門

伊牟田 良之助

美坂 金助

新原 安二

金澤 清次

小山田卯右衛門

徳田 助左衛門

正村 仁兵衛

須田 清太郎

黒木 龜吉

長濱 幾郎

古川 幸太郎

福留 彦七

七ノ部

▲製造業(雜)

薩摩郡隈城村

薩摩郡山崎村

薩摩郡隈城村

同

上野 藤左衛門

肝付 兼乘

鮫島 壯平次

兒玉 吉藏

同

始良郡敷根村

大島郡名瀬村

始良郡西國分村

始良郡東國分村

薩摩郡宮城村

薩摩郡岩川村

始良郡重富村

薩摩郡平佐村

鹿兒島郡國分村

薩摩郡宮城村

薩摩郡龜田村

肝屬郡大始良村

始良郡加治木村

山口 勇吉

緒方 辰四郎

中村 喜兵衛

鶴木 靜太郎

中村 吉太郎

中山 嘉兵衛

川田 和助

小牧 徳之助

林 柳右衛門

山下 喜二

萩原 惣藏

久木田 伊兵衛

濱平 淺助

濱田 彦藏

川邊郡東加世田村

始良郡西國分村

薩摩郡上東郷村

肝屬郡垂水村

薩摩郡山崎村

肝屬郡垂水村

鹿兒島郡谷山村

薩摩郡山崎村

指宿郡指宿村

指宿郡指宿村

始良郡西櫻島村

薩摩郡佐志村

始良郡西國分村

肝屬郡鹿屋村

小田原 彌兵衛

加藤 和次郎

相原 與市

川原 喜三郎

前田 吉熊

濱田 八次郎

是枝 定右衛門

山口 幸太郎

中俣 茂助

大山 甚七

重吉 能右衛門

陳之内 徳藏

森 嘉兵衛

上原 虎松

同

薩摩郡隈城村
川邊郡川邊村
鹿兒島郡伊敷村
鹿兒島郡谷山村
日置郡西市來村
始良郡帖佐村
肝屬郡大始良村
指宿郡指宿村
始良郡蒲生村
薩摩郡山崎村
始良郡帖佐村
日置郡串野木村

▲精米

池田傳右衛門
浦島正兵衛
下野平吉
川原庄之助
宮崎龍之助
若松清次郎
村田喜之助
濱田太兵衛
黒岩治助
原口利三次
谷口十郎
黒木龜吉
大久保嘉市

鹿兒島郡伊敷村
同

▲旅人宿業

始良郡牧園村
同
同
大島郡名瀬村
始良郡牧園村
薩摩郡隈城村
指宿郡指宿村
伊佐郡大口村

脇 仲右衛門
野元 伊平次
堀切 武兵衛
小倉 幸雄
野田 藤作
池畑 末吉
奈良迫 熊太郎
奥村 源太郎
前之園 四郎太
竹之内 十八

薩摩郡隈城村
出水郡中出水村
同
薩摩郡隈城村

中山アイ
永溝紋治
赤城直
鬼塚和計

薩摩郡隈城村
鹿兒島郡谷山村
大島郡名瀬村
鹿兒島郡谷山村
薩摩郡隈城村
日置郡伊作村
出水郡上出水村
薩摩郡東志布志村

宇都宮 伊吉
早田 ハル
黒石 休兵衛
黒木 ミコ
横峰 長次郎
石川 吉次郎
松島 ミツ
中山 金作

▲料理屋業

薩摩郡平佐村
伊佐郡大口村
大島郡名瀬村
出水郡上出水村
同
肝屬郡鹿屋村
出水郡上出水村
肝屬郡大根占村

渡邊 七左衛門
永野 吉次郎
三宅 七五郎
澁田 松次
柏木 ユキ
淵野 奥太郎
藤元 山松
長濱 シモ



第六編 官衙、團體

鹿兒島縣廳(山下町)鹿兒島郡役所(長田町)鹿兒島市役所(山下町)專賣局鹿兒島支局(長田町)專賣局鹿兒島製造所(長田町)鹿兒島稅務監督局(易居町)鹿兒島稅務署(易居町)第三十六旅團司令部(鹿兒島郡伊敷村)歩兵第四十五聯隊(同郡同村)鹿兒島聯隊區司令部(山下町)鹿兒島憲兵分隊(山下町)鹿兒島地方裁判所(山下町)鹿兒島區裁判所(山下町)鹿兒島監獄(鹿兒島郡伊敷村)鹿兒島警察署(泉町)鹿兒島地林區署(長田町)鹿兒島郵便局(山下町)鹿兒島海務署(山下町)鐵道院鹿兒島出張所(濱町)鹿兒島港務所(生産町)鹿兒島測候所(鹿兒島郡吉野村)鹿兒島縣立農事試驗場(鹿兒島市荒田村)鹿兒島縣物産陳列所(山下町)專賣局鹿兒島試驗場(始良郡帖佐村)鹿兒島種馬所(始良郡牧園村)鹿兒島縣立種畜場(始良郡敷根村)鹿兒島縣立水産試驗場(川邊郡西加世田村)糖業改良事務局大島出張所(大島郡名瀬村)鹿兒島縣米穀検査所(山下町)鹿兒島縣代用感化院錦江學院(樂師町)私立鹿兒島縣教育會(山下町)鹿兒島縣農會(山下町)鹿兒島縣產馬組合聯合會(山下町)鹿兒島縣鯉節水産組合(山下町)鹿兒島茶業組合聯合會議所(易居町)鹿兒島縣米商同業組合聯合會(易居町)鹿兒島商業會議所(築町)鹿兒島糖商組合(沙見町)鹿兒島生絲同業組合検査所(易居町)鹿兒島縣授産社(荒田町)日本赤十字社鹿兒島支部(山下町)大日本武徳

會鹿兒島支部(山下町)愛國婦人會鹿兒島支部(山下町)

▲新聞雜誌

鹿兒島新聞	日刊	鹿兒島市山下町	鹿兒島新聞社
鹿兒島實業新聞社	日刊	鹿兒島市六日町	鹿兒島實業新聞社
鹿兒島教育	月刊		鹿兒島縣教育會
家庭雜誌	月刊	鹿兒島市荒田町	家庭雜誌社

第七編 名所舊蹟

第一章 鹿兒島市

▲磯島津邸

吉野村磯にあり、舊藩主の邸臺にして山を負ひ、海に臨み、春の花は言はずもあれ夏の風松に響き、秋の紅葉錦を綴り、冬の雪は殊に又佳なり、その邸内は桑多く茂りて水湧き、邸外は、櫻島軒を歴して自然の盆石を靜かなる海に泛べたらんに似たり、又の名を『仙巖園』と呼ぶ、島津家十九代光久公の萬治年間に經營せられ、寛文中一亭を新築し落成の式を舉ぐるや、双鶴來り亭

上に止まりて去らず、因て喜鶴亭と名付く。園の中央望嶽樓は支那古代の擬屋、王羲之の筆に成る額を掲ぐ。その傍に砲二門あり。之れ天正の昔、島津義久公、豊後の大友氏と日向の耳川に戦ひ、葡萄牙國より大友義鎮に贈りたるものを捕獲したるもの、木馬は朝鮮の役に持ち歸りたるもの、邸後の孟宗竹は元文元年五月、吉貴公未だ我國に傳らざるを琉球に求めて移植し、今は到る處に擴まれるなりと傳ふ。我が東宮殿下をはじめ奉り英國皇甥コンノート殿下、曾てこの邸を以てその旅館に充て給ひたる等來歴の貴紳にして足をこの邸に入れざるの人なく、山紫水明、眞に天下の絶勝と讃せらる。

▲南洲翁誕生碑 加治屋町甲突川の東涯にあり。碑は石壁を繞らして約一反、芝生の圓き壇上に建て、文學博士重野安釋氏の撰文を彫り、紀念樹多し。

西郷君以文政十年丁亥十二月七日於鹿兒島城下加治屋町此處即君之宅趾也我輩君同郷里得其風采德音於見聞之際景仰欽慕不能目止恐歲月之久遺跡或湮滅於是相謀建一碑以傳永遠庶幾後之生長此郷者有所感發興起焉

明治二十二年三月二十日建

▲甲東翁誕生碑 加治屋町猫藥小路にあり。南洲翁の碑と同時に工を起し、もの、その誕生は南

洲翁に後る、こと三年、即ち天保元年八月十日なり。

▲岩崎谷の洞窟 明治丁丑の役、薩隅日三州の健兒壹萬五千を率ひ、早春二月熊本城を圍みたるも軍終に破れ、七百の旗下を提げて奮闘血路を開き、歸山籠城の趾にして、翁は常にこの洞窟に起臥し、胸中戦塵を忘れて悠々棋響に親しむ。死後洞中に詩あり。今は窟前に碑を建て、この詩を刻す。

百戰無功半歲間 首邱幸得返家山

笑儂向死如仙客 盡日洞中棋響閑

猶洞中にありし翁の壁書に曰く

籌策未成穴中夢 八洲民庶懷秋風

▲南洲翁終焉地 山下町岩崎谷入口にあり。孤軍城山を守れども劍すでに折れ、彈正に盡く。而して曠日の苦戦多くの愛弟子を失ふ。多情なる南洲のたふる所にあらず。終に意を決して岩崎谷の洞窟を出づ。あはれ秋風蕭殺たる夕。流彈一飛英雄翁又立たず。別府晋介涙を揮つて其頭を刎ぬ。實に之れ明治十年九月二十四日、後有志此處に終焉の碑を建つ。

▲高野山別院 山下町にあり。眞言宗新義派に屬して最大乗院といふ。今の地は明治十二三年の頃、前住職草家大仙の再興したるもの、獅吼窟内泉地あり、幽石を配し花卉を植う。昔時の大乘院は

島津貴久公、天文年中稻荷川の畔に創建せられたる大寺にして新義派に属し、開祖は俊盛法師也。今は門前の橋を残すのみ。

▲南洲翁等之墓 上龍尾町浄光明寺にあり。同寺は元時宗にして開山は宣阿彌とて高祖忠久公鎌倉より伴ふて入薩しこの寺を建立せしめられたり。後明治の初年廢寺に際し此の寺のみは僅かに難を免れしも規模を縮小せられて今はその面影を止めず。昔は松峰山とも呼びて松樹多く茂りたる由にて詩歌に見ゆ。東京上野公園に建てたる南洲翁銅像の模型たりし木像を安置し、屋後に翁以下桐野、篠原、村田等丁丑役薩軍勇士の墓並あり。地高くして鹿城を下瞰す。

遊行四十四世尊通

ひろめ行く法のしるしに植ゑ置きし松も昔を思ひ出づらん

赤塚 一 途

十かへりの半は過ぎてまださかぬ花をばまつの峯の古寺

▲月照上人墓 松原町南洲寺前にあり。墓面に『静溪院鑿水清月比丘』と刻し、裏に行年四十六歳と彫る。上人は京都清水寺の住職たりしが勤王の志を抱いて夙に南洲翁等の志士と結び、安政の大獄起るや身を以て遁れ、馬關、博多を経て苦惨の餘入薩して南洲翁に倚りたるも、幕府の捕追急にし

て行くに處なく、安政五年十一月十六日の黎明、南洲翁と相擁して三船崎の沖合に投ず。南洲漸く蘇生せしも上人終に歸らず。辭世の歌あり。

曇りなき心の月の薩摩潟

沖の波間にやがて入りぬる

大君のためには何か惜からん

薩摩の瀬戸に身は沈むとも

墓前に二基の石燈籠あり。幾星霜今は水莖の跡も豊東なければど

長らへば兎に角命あるものを

すきにし人の心短かき

長らふも死ぬるも同じ大君の

御國のためにつくす心は

筑前の志士平野次郎の詠にして其の建立に属す、明治五年南洲翁冠を懸けて故山に歸り墓參感慨の詩あり。

相約投淵無後先 豊圖波上再生縁

名所恋歌

回頭十有餘年夢 空隔幽明哭墓前

▲**照國神社** 城山の南麓山下町にあり。島津家第廿八代の英主齊彬公の靈祠にして、境内廣く樹多く、一小公園の觀ありて社頭の老松數百年綠益々深し。公は嘉永安政の交、國事多端の時に際して封を嗣ぎ外國の長を探りて國防に、大砲の鑄造に、寫眞術、電信機、瓦斯燈、紅色硝子製造等理化學工藝の獎勵に、一意專念日本に於ける始祖をなし、西洋文物の輸入に力を傾け給ひ、その歿後、文久三年英艦來寇の時水雷二個を布設したりといふも實に公志業の遺物として誇るべきなり。而してまた別に外國式の操練を採用し、勤王の大義を説いて人心を率ゐ、士道の振作を圖りて名分を明にし、學校を興して人材を養ふ等絶倫の卓見一世を抜きたれば、朝野の文武歸するが如く其の重鎮として仰がれしも、不幸天公に年を假さず安政五年七月二十日を以て御本丸に薨す。享年五十有一、文久三年十二月公生前尊王の誠忠を嘉賞し、贈中納言從三位の宣命あり。次で近衛忠熙公之れに照國大明神と命名す。明治二年十一月又贈位一位の宣命あり。超えて同十五年十二月別格官幣社に列す。

▲**松原神社** 松原町南林寺趾にして寺は島津家第十五代貴久公の建立に係れるも、今は松原神社と稱して貴久公の靈を祭る。公は三州麻の如く亂れて島津家の基礎動もすれば揺がんとするとき、伊作家島津氏より入りて藩主の嗣となり、父日新公と共に萬艱を排して三洲の風雲を統一し、徳政を

施いて島津家中興の業を樹てたる稀世の英主なり。

▲**横山安武之墓** 池之上町福昌寺境内にあり。故文相森有禮氏の令兄、當地府學教授横山安容氏の養嗣子たり。當年朝廷百官の遊蕩驕奢事を諷る者多きを慨し、明治三年七月二十一日朝、集議院に至り十箇條の建白書を其の門扉に掲げ悠々として自及に伏したる血性男兒なり。朝廷氏の至誠を諒し祭料百圓を賜ふ。遺骸は東京大圓寺に葬り遺髪を此處に埋む。碑文は南洲翁の撰也。

▲**福昌寺** 池之上町にあり。齊彬公、久光公以前數代の墓地にして昔は玉龍山福昌寺とて、島津家七代の主元久公應永元年有名なる石屋眞梁和尚を招きて建てしめられたる曹洞宗の壯宏なる寺院なりしが今は其の趾存するのみ境内は景趣に富み、十二年の景致を選んで支那僧高泉に詩を賦せしめたる事もあり。

▲**大龍寺趾** 今龍尾町大龍小學校のある所にして天文十九年十二月貴久公清水城より此城に移られし以來三代の居城たりしが、家久公慶長年間鶴丸城に轉せられしより、城趾に一寺を建立して大龍寺と號し、名僧文之を住持としたり。大龍の二字は大中公と龍伯公との一字を取りて命名したるなり。

▲**東福寺城趾** 今は田之浦公園にして島津家第六代氏久公、曆應四年四月大隅肝付の一族を退けて當城に入り居城と定む。これ島津家鹿兒島居城の最初なり。其子元久公父の志を繼ぎ近く清水城を

築きて之れに轉ず。その中腹には文久三年薩英戰爭當時の東福ヶ盜臺場の殘礎あり。

▲孝行橋趾 現鹿兒島停車場に近く、昔は行屋路とて永安橋より今の停車場の前面を通過する大堀ありて此間に四つの石橋を架したるがその一也。今は堀を埋めて人家となりたれど、安永五年その橋側に一石碑を建つ。此れに孝行正右衛門の經歷を彫りて今猶存す。

▲俊寛堀 中町お着屋に在り、堀は先年埋められて一基の記念石碑を建つ。此邊昔は有島と呼び或は王の湊と唱へ、甲突川の河口に當りて帆檣林立したりしが、平氏の怒に觸れて鬼界ヶ島に流されし俊寛僧都の船出せしは此處也。

▲祇園之洲 稻荷川の下流にして、磯吹く風に松華亂れ落つる處、明治丁丑役官軍戰病死者を葬れる墓累累として並び建つ。此れより先き文久三年英艦七艘來寇するや、藩兵巧みに應戰して、敵の旗艦以下五十餘名の死傷者を出しに引換へ、味方は僅かに一名の戰死者ありしのみ。中にも敵の一艦はこの砲臺前の淺洲に乗り揚げて狼狽の態一方ならず。時に薩軍の砲門既に多く放射して用ゐるに堪へず、爲めに辛くも彼れは滿潮に乗じて遁れ去りたり。戰後この臺場より砲彈七十二個の多數を發見したるより見るも、以て激戰の程相像に餘るべし。

▲天保山 市の南甲突川の河口にあり。廣さ拾數町、天保の末年甲突川凌濤に際し、この川砂

を以て築き立てたる埋立地にして、島津齋彬公外國式の練兵を採川せらるゝや、此處を以て練兵場となし、海岸近く砲臺を築きて防備に供し置きしが、文久三年の英艦來寇には、正面に敵を得て大に彼れを腦ましたる殘礎今に存するを見るべし。今は第四十五聯隊の練兵場となり、市内學校運動會又多く此處に行はれ、且つ市民園を偷んで清遊を試みるもの少なからず、松嶺、濤聲、自然の音樂を聞くが如し。

▲城山公園 城山公園は舊鶴丸城の一部にして舊領土を奉還せられしより陸軍省管轄地に編入せられ、一時個人の有に歸し、も後縣有となり、今は又市有となりて漸次園内を擴張し、遊覽に便ならしむるの計畫既に成れり。春は櫻多く夏は若葉の風薫り、秋は紅葉にみなり、つぎぬ眺めのなかにも雪を戴く櫻島、暮雲はるかに迷ふ大隅山の冬景色こそ取分けて面白けれ。旗亭あり、茗を啜るべく、酒を命ずべし。園内山上東宮殿下御休憩所あり。その麓には碑多く英國皇甥、露國皇太子等の來歴を紀念す。

▲田之浦公園 永吉氏個人の有なれど公開して遊樂園と稱す。眼下は錦江の水漾々として鹽水の如く、白帆飛び、汽船走る。日向の霧島、大隅の櫻島、薩摩の開聞、三州の天地に踞踞して相呼應す。而して其の背景をなすは高隈の連山なり。城山公園は座環に座して自然を味ふべく此處は自然に

席して座環を見るべし。

▲鹿兒島八景 景勝の地、古來多く八景の撰を見る。鹿兒島又その數に洩れず、正徳享保の頃の詠草なりとて傳ふものあり。左に録す。

南林晚鐘

日野正三位中納言輝光卿

かねの音も波にそ響く暮れ深き

この山寺は海近くして

洲崎落雁

相國寺前龍山天啓和尚

無限長洲眼界寬

青松笹碧映波濶

數方雁々落來處

恰做天書雲笈看

開闢暮雪

東園從三位中納言基長卿

山いく重かさなる上にあらはれて

夕べさやけき峰の白雪

南浦歸帆

前等持院觀溪西堂承順

茅屋成村南浦磯

日沈烟浪片帆飛

漁翁亦是知其止

釣得遠山佳景歸

櫻島秋月

樋口從三位康熙朝臣

秋毎の光りを花と月やすむ

島は櫻の名にたてれとも

大磯夕照

卽宗院龍昌西堂

江山鐘愛大磯浦

映帶殘江勝畫圖

若使蘇仙人竝地

賞心須是換西湖

田浦夜雨

烏丸從五位下右少辨光榮卿

打ちよする磯邊の波も静にて

夕へさひしき田の浦の雨

多賀晴嵐

卽宗院龍楚西堂

雲散晴嵐明蕩波

日光相映海山阿

宮前滿目好風景

不盡家珍雅興多

第二章 鹿兒島郡

▲櫻島 海上二里鹿兒島郡に属すれども、鹿城山水の生命にして、雲のた、すまひ、緑のよそはひ四季折々に眺め飽かず變りて賞すべく愛すべく、曾て「昨夜天降れる天女の置き忘れけん様の櫻島」と絶賞せる獨逸大使の言も過ぎたりとはいふべからず。今日本山嶽志に依れば元明天皇和銅元年、即ち紀元第三百六十八年櫻島湧出すとあり。島に關する古今人の詩歌多き中より

しにしへに誰れか言ひけん櫻島つくしの海に富士を浮かして
細川 幽齋

夏ながら時雨れて見ゆる櫻島波のぬれ衣きてやはすらん
西行法師

春にこそ櫻島とはいひつらめ時雨るけふは紅葉ならまし
龍伯公

櫻島さかぬ絶えまも名に愛て花とこそ見れ岸のしら雲
小森一山

釋 桂 庵

一二三山千萬峰 浮空積翠暮光濃

島陰絶景債誰畫 浦々烟枯船入松

頼 山 陽

櫻山突立海灣間 一碧琉璃聲聳巖

鹿子城中家幾萬 無窓不納紫屏顔

▲櫻島の温泉 有村、古里、黒神の三温泉あり、何れも松風の聲、波濤の響枕に近く鮮魚又膳に上りて風光の美と共に賞すべし。山に登り、潮を浴びつ、避暑に可、三冬避寒又可也。

▲桂菴禪師之碑 伊敷村歩兵第四十五聯隊を右に見て北に行くこと七八町。一茅屋の背後に石を繞らしたる中に苔蒸したる古碑あり。此れ日本に於て最早く朱子の經學を唱道せし桂菴禪師の碑なり。地を梅が淵と呼び禪師が老を養ひし東歸菴の故址なりとぞ。

桂菴禪師碑銘

室町氏之季、文學掃地、摺紳博士邁世衰替、而浮屠氏、專乘文柄、是以證明之便、率在五山何徒、且當時博士家嚴守漢語、不許濫用新說、則世欲講程朱之學者、必避入鄉流、畏其顯、而儒其學者、往々而有之、在昔薩摩國有一禪師、曰桂菴字芝樹號島

名所舊蹟

陰、本貫周防山口村人、不詳俗族、童童往洛龍山從龜桂和尚受內外學、嘉吉二年師歸十六削髮登戒壇、儒書則依遠宋說、時聞東山惟正慧山景名並講四書、禪律往學得益不尠、又能文詩、應仁紀元、師中選使明國、入見憲宗宴賓頗渾、居凡七年遊蘇杭間親從、鍾儒攻朱氏經學、最遠述蔡氏傳、其於詩章則與彼士文士相頡頏、每一詞出藝林傳誦、稱其有盛唐之風、文明五年歸報使事當是時京師兵燹廢墟不能諳學、於是暫避跡石州、亡幾又赴四州、是時東肥菊府新置賓館崇儒學、師往而客之既而薩摩國龍雲玉洞禪師愛國老數輩、薦師於國主公、公乃原師、十年二月師送來薩摩、始謁公於市來、公一見服其雅量特加禮敬、明年命報一寺於鹿府、住師於此、因號其寺曰島院、曰桂樹、十三年夏師又與國老伊地左衛門尉重貞符議、如刊大學章句於鹿府、實皇國印行新註之嚆矢也、長享二年遷寺於城西、爲今城北射園殿地、初寺瀕海岸善爲風潮所墮、至是更地、稱呼如故十月奉命適日州依肥蕙安國席、先是明商貨船多舶依肥、公道族人忠廉鎮其土、使師兼掌簡牘自後數行數遊、弟子益衆時新刻大學盛行、板亦漫漶至延德四年、師再築路桂樹禪院、明應九年如洛、欽奉鈞帖主進仁寺、尋轉南禪寺、未幾辭職明年師歸、特請訂國讀以授其徒、至是別著一書辨經漢宋之同異、尚依宋說又以國字解朱註例定國讀式、皆梓行之既乃築方丈於伊敷村、名曰東歸菴而自老焉、以水正五年六月之說、澄然示寂於東歸菴壽八十二、掩骸於菴地所著書有島陰流唱及文集雜若干卷、澁者薩藩士伊地知小十郎季安、遠寄其所著禪師傳、且明、桂菴雖浮屠而於吾藩則爲儒學之宗矣、星霜已久、人莫能知其由因與同志者相謀、將戮力樹一碑以傳其跡、碑記之筆敢以爲辭、願余不爲請願余不文固宜辭、而詞意懇款、遠方原屬不容峻拒、乃漫擬其一二經緯之、余嘗爲禪師像贊今復書之於此、以代銘、曰、

吾道一貫 無聲乎用 身披袈裟 心服闡里 洛派東漸 寔自師始 心月千古 桂影遙被

天保十三歲次壬寅七月下泮

昌平學教官 佐藤坦撰文

▲慈眼寺跡

谷山村にあり。鹿兒島市より縣道二里、夏の山水捨て難けれども秋の紅葉は高雄よりの移植、飛泉のほとり、巖の上、老るたる稚き楓樹の數多く殊に愛すべく觀賞の客常に少なからず清水到る處に湧き中にも波平の靈水を尤となすべし。彼の太平記に畑六郎左衛門が刀は浪平の名刀なる由を載せたるが、此れこの地の名匠の手に成りたるにて、日本に有名なる京都三條小鍛冶宗近も天元二年當國に流罪に遭ひ、この地の鍛冶波の平正國に練法を學びて歸洛したるなりと傳ふ。波の平の名叙上の靈水を用ゐたるに因るとかや。

慈眼寺橋落葉

光 久 公

山水に散りて流れぬ紅葉はしからみかくる橋の上かな

同

諏 訪 兼 利

はし姫の瀧の白糸くりかけて紅葉のにしき波や織りけん

▲錫山

谷山村下福元にあり。島津家の所有にして採掘は明歴元年に始まり、嘉永安政の頃最も多くを産し、近時猶産額減せず質良好にして鹿兒島名産錫器の原料は悉くこの鑛山の産なり。

名所舊蹟

第三章 揖宿郡

▲山川港

山川村にあり、鹿兒島灣の入口にある瓢形の港灣にして水深く、船改番所、異國船番所等ありし所にして、慶長十四年島津家琉球征伐策源地として特に船出せしも此處にして爾來琉球との交通貿易港たり。現今毎日汽船の寄港あり、慶長の頃藤原惺窩明國に渡らんと欲し、洋中風に遭ひこの地に來りて正龍寺に僧桂菴禪師の家法和點及び文之の四書朱註訓點を得て歸りたりと傳ふ。その寺今は存せず。

木からしの波路わけくる唐人の

中納言 家久 公

船も入江やたのむやま川

▲開聞嶽

穎娃村にあり。西南はその脚を大洋の波に洗ひ容姿圓錐、形態富士に似たり。されば昔より鴨着島、空穂島、筑紫富士、金盞山、薩芙蓉などいろくの名を得、彦火火出見尊の『沖つ島鴨つく島にわがいねし、いもはわすらしよのことくも』と歌ひたまへるは此の處なりと傳ふ。高さ三千餘尺、紀元百八十四年の湧出、日出、日没、雪を頂き、雲を佩ひ、その景趣變化の妙飽かず。陸りも佳、海よりは更に又佳なり。

近衛 信輔 卿

さつまかた波の上なるうつは島これや筑紫の不二といふらん

二宮 政勝

さつま湯之の郡なるうつは島うつゝにみれど夢かと思ふ

俗 謠

穎娃の海門さんな美しお嶽 雲の帯して鹿子の小袖 伊達をこぎやるな薄化粧

題海門山

兒 玉 壽

天南一岳白雲封 風雨往來毎淡濃

神氣豪然終不變 長傳筑紫小芙蓉

▲牧聞神社

開聞嶽の北麓十丁にあり。祭神は大日靈命にして國幣小社なり。祭神に説あれど定まらず、史に貞觀年中に海門噴火せしことわりと記す。而して之れこの神の怒りを發せられしなりとて封土を増されたりなど見ゆ。社殿は老樹森々たる中に朱色鮮やかに頗る莊嚴なり。

▲池田湖

今和泉村池田にあり。周圍四里二十九町、縣内第一の大湖にして水深百五十尋に及び

名所舊蹟

往古開闢嶽噴出の時に陥没したるなりと傳ふ。彼の壽永中源頼朝より佐々木四郎高綱に與へたる駿馬池月はこの地の産なりと舊記に見ゆ、兎に角昔は産馬地として名を知られたるらし。

▲指宿の温泉 掛宿村にて數多き温泉の中に彌次ヶ湯、二月田、村の湯、摺ヶ濱、柴立等は場所設備共によく浴客も多し。大概は鹽類を含み砂蒸もありて僕麻屑等に効顯ありといふ。鹿兒島市よりは毎日灣内汽船來往す。

▲利右衛門之墓 山川村兒ヶ水にあり。甘藷の渡來に關し舊記に寶永二年兒ヶ水の漁夫前田利右衛門といふもの琉球より持ち來りて近郷の人々に植ゑしむと載す。これ種子島に渡來せしより後七年の事なりとか、享保四年利右衛門再び遠洋に航し颶風に逢ひて復回らず郷人之れを悲しむ。享保十七年大饑饉に際し、本藩のみ所謂唐芋の爲めに餓えず。後人利右衛門の徳を大なりとなし、墓碑を建て又別に徳光神社を興して其の徳を頌す。

第四章 川邊郡

▲枕崎 薩南の名邑にして東南方村にあり。俗に鹿籠の枕崎と呼ぶ。商賈多き漁村にして頗る繁昌し、鯉鱒等の好漁地として縣下屈指の稱あり。元祿年中近衛信輔卿坊の津に來り給へる時、この浦より上陸し和田濱に泊りて詠み給へる歌

薩摩瀧和田の崎なるひとつ松霧の中より船よはふらん
はるか沖一里の海中に『立神巖』あり、高さ三十間、周り八十間波の上はるかにそゝりたつ。八田知紀翁の歌あり

わたつみの浪間に立てる立神はつはさやすむる巖なるらん

▲坊の津 西南方村に屬し枕崎より西二里の地、筑前の博多津、伊勢の安濃津と共に本邦の三津と稱せられ、昔は支那に渡航する要港にして『唐の湊』又は『舞鶴浦』ともいふ、附近には古趾、勝景多く鶴ヶ崎、八坂神社、深浦、中島などの外、此處より遠からず双劍石あり。舟行一里にして秋月洞あり。近衛信輔卿及びその門弟日高爲春の撰定せし八景あり。曰く中島晴嵐、深浦夜雨、松山晚鐘龜浦歸帆、鶴崎暮雪、綱代夕照、御崎秋月、田代落雁皆歌あり。その一を録す。

中島晴嵐

松原やふもといついく中島のあらしにはる、峰の白雲

▲武田神社 加世田村にあり島津相摸守忠良公を祀る。この地舊日新寺にして公の靈を納め近くその墓ありしを、明治二年廢寺に際し地名に因みて武田神社と號す。公は島津家十五代の主貴久公の

實父にして初め伊作城にあり。干戈を撤めて徳化を施さ、和歌に巧みにして信仰厚く、いろは歌の如き後世薩摩武士修道の根源たり。島津家中興の力與つて公に多し。

わたつみのいさを波に運はせて風のなしたる山のあやしき

▲一乗院址 最初如意山龍巖寺と號し敏達天皇の十二年、百濟國の日羅、來朝の時此處に來りて創建したる寺にして、後僧成國之れを中興したり。應永十五年鳥羽院の願所根來寺の別院となり、天文十五年後奈良院の勅願所となり靈翰下賜、西海金剛峰寺と號す。近衛公流謫の時手書の經文を寄贈し自彫の天神像を鎮護の神に崇められしとか、今この址は小學校となり、門前の仁王當年を語るのみ

▲近衛屋敷 坊之津にあり、文錄三年近衛信輔卿この地に配流せられて慶長元年に歸洛し給ふ傳説に卿は曾て朝鮮國に往かんことを乞ひ、關白太閤此れを不可とし天朝に奏して薩摩に謫すと言ひ、或は太閤近衛姓を冒さんことを卿に請へども許されず、爲に事を構へ朝廷に奏して配謫すとも謂ふ。卿は近衛家十八世關白前久卿の男、天正十三年左大臣に任せらる。左遷の時京地建仁寺の永雄和尙

道すがら車にあらて大臣を乗する鹿兒島荷ふ坊の津

及びなき雲の上まで昇る月の影をしまれてぬる、袖かなの和歌を送りて別れを惜しみにしに卿の返し

人目のみ繁き浦はに墨染の袖にはをしき名残なりけり

歸洛後慶長十三年關白に任じ同十九年五十歳にして薨す。配所の址今は人家の中にあり。『近衛藤』として當年手植の藤猶ゆかりの色に花咲くも床し。

▲笠狹碕 西加世田村にあり。かささのみさとは古名にして野間岬是なり。天孫瓊々杵尊の登臨在任の靈蹤にて野間神社を祭る。神代記に到吾田笠狹之碕、遂登長屋之竹島とある竹島は野間嶽にして笠狹碕は野間の嘴の事なり。

▲鹿籠の金山 枕崎の北一里半の所にあり、寛文の頃より採掘して遂に藩廳の經營に移り、年々一千貫餘を産出し、天和年中には最も盛大を極めたりと傳ふ、今は個人の有なり。

第五章 日置郡

▲吹上の濱 日置郡の西方海に濱して長汀拾數里西北の風不斷に白砂を吹き上げて松林此れが爲に埋もれ、雪の如く波の如き一帯の沙漠に亂立する 態言ふべからず美し、近年は大林區署の經營に

係る防砂林、數十町の間井然として植ゑられ、風光頗る壯觀を極む。ここの濱の少女及び八田翁の詠
じけん歌あり。

吹上の松は真砂に埋もれて老木ながらの小松原かな

八田知紀

わたつみのいさを波に運せて風のなしたる山の怪しさ

▲吉利の里 吉利は元小松家の領有、山水景勝の地、府下某の撰べる十二の品題に、平松宰相時

章卿の詠あり、曰く森川螢火、尾上白雨、尾立秋月、町日落雁、境川千鳥、黒岩暮雪、吹上晴風、野
崎夕照、園林晚鐘、上濱歸帆、向原朝霞、南谷櫻花、その一

野崎夕照

平松宰相

賤かすむ里は野崎に影らすき入口をまねく風のむら竹

▲羽島 文祿元年五月二十三日島津義久公征韓役に従ふべく名古屋に赴く途次、此處諏訪神社に樂
を奏して順風を禱り一首の歌あり。

夕涼み御山おろしにこそはれてつなきし船のいつる湊江

慶應元年三月町田久成、寺島宗則、五代友厚等に伴はれて藩士森有禮、吉田清成、以下八人の俊才慕

府の嫌疑を恐れ此處に宿ること三十有餘日、待ちたる英國汽船オースタリン號に搭して私かに英國
留學の途に上りたる、實にこの羽島なり。途上諸俊秀の披撫したる襟懐は今猶當時一行の宿れる藤崎
氏に藏す。

▲照島 島平港の前に泛べる一小島なれど奇礁怪岩の間に、松枝を鳴らして濤聲と和す、寛政二年
三月には藩主島津齋宣公の來遊あり。迥かに野間嶽、金峰山雲と流れて澎湃たる沖つ波間に甌島を臨
む。海樓の一夜鮮肴村釀又親むべし。

▲島平港 串木野村にして市來港を距る約半里醉の尾より西に入ること七町餘の處にあり。亂れ
て植うる磯馴松の趣言ふばかりなく、突出せる長崎は西に、照島又前面に横はりて錨を投ぐべく、水
産に富み海水浴に適す。長崎三角行の汽船隔日に寄港して水路の便あり。

▲串木野町 國道に沿ふ豊富なる一大漁村を控へたるのみならず、二萬の村民に物資を供給する
事として常に繁昌しつゝあり。

▲市來溫泉 國道より南に入ること三四丁にして皮膚病に適し、浴場數ヶ所にありて客多し。そ
の東南に造れる人工を加へたる百勝園は浴客の遊園地として晩涼を趁ふに妙なり。

▲金峰山 田布施村にあり、絶頂は東、北、本の三嶽に分れ、本嶽上に藏王權現を祀る、推古天

皇の二年、日羅、大和の金峰山に擬りて建立せりと傳ふ。日新、貴久兩公の産るゝや、母堂この社の靈夢に感應したりと、日新公の歌あり。

淺からぬ頼みをかけて幾たびものはる御嶽の神よ憐れめ

▲芥ヶ野金山 明暦四年藩の事業として經營せしも久しからずして産金減じたれば天和三年に中止し、更に元祿十一年に再探掘を試みしも依然産金少なくて再び中止し、維新前後三たび業を起して今に至り、現申木野各礦山中の尤と稱せられ、規模を擴大して發電所を設け、去る三十八年度の産額約拾九萬圓を唱ふ。

芥ヶ野金山再開く

八 田 知 紀

あきらけき此大御代の光より

さらに黄金の花は咲きけん

▲徳重神社 中伊集院村徳重にあり。妙圓寺の舊址にして島津義弘公を祀れり。古來舊九月十四日の夜鹿兒島の健兒、甲冑に身を鎧ふて夕刻より勢揃ひをなして隊伍堂々と各學舎を繰出し徒歩して所謂妙圓寺に詣でその夜中には歸處す。事は慶長五年九月十五日關ヶ原の役に薩摩勢が難戰苦闘の後僅かに血路を開いて退陣せし屈辱を紀念し併せて公の勇武を敬仰せんが爲めにして、この事薩摩士風の振作に對して寄與すること蓋し多少にあらざるなり。

▲苗代川陶器 薩藩最古の陶器は帖佐と苗代川にして、慶長四年島津義弘公朝鮮より凱旋の時歸降の韓人二十二姓男女八十餘人を率ゐ來り申木野村島平港に上陸、同村下名に住居せしめしを、慶長八年の冬に至り申木野より苗代川に移して陶業を起さしむ、以後代々其業を繼承し來りしが、天保の交

朴正記なる者出でて敏腕を揮ひ、製品を精巧にし錦彩を美麗にし、世に所謂錦襦袢様を出すに至れり、正記の子正官、藩主齋彬公より召されて田の浦窑の工長となり、程なく職を辭して再び故郷に歸りしより、諸般の事に改良を加へ爲めに苗代川の錦襦袢様に一新生面を開き、精工麗彩目を眩せしむるが如く一般に販賣したり。然るに維新後に至り豎野窑等と同じく衰頽せしかば、鹿兒島縣に於て薩摩焼の面目を維持せんが爲め、玉山陶工場を設けしが、明治七年に至り沈壽官縣廳より此玉山陶工場を譲り受け、同八年工場を苗代川の藤の尾に移して王光山陶工場と稱し、多年業を廢して四方に離散せし陶工を集めて薩摩焼を再興したり。沈壽官は往昔歸化せし沈常吉の裔なり、壽官殊に透彫を能くし、わけ竹籠式様の物最得意なりき、維新後衰頽せし薩摩焼を再興して多少の輸出をも試み、薩摩陶器の聲譽を宣揚せしは全く壽官の功といふも不可なかるべし。

薩摩詞

頼 山 陽

路遇朝鮮俘獲孫 密陶爲活別成村
可憐埴得扶桑土 造出當年高麗盆

第六章 薩摩郡

▲新田神社 東水引村にあり。國幣中社にして天津彦火瓊杵尊を祀る。舊半腹にありしも承安三年炎焼し、山頂に假殿を營み安元二年宣言を得て此處に遷す。降來橋を渡りて石階を拾ふこと數十にして平地あり。舊殿の遺趾、更に登る七十餘間にして現社前に達す。老楠巨杉森々として神寂びたり。中に抱圍四丈の巨樟は阿多長壽院文祿征韓の役に出發する時、佛像を刻ましめしと傳ふ。仔細に點檢すれば刀痕今猶匂ふ。

▲可愛山陵 東水引村にあり。日本書記に載せたる「天津彦火瓊杵尊崩、因葬築紫日向可愛之山陵」とは即ち此處なり。境は新田社殿の後、寂として神代に座するの感あり。

可愛山陵に詣て

伏拜むみさゝぎ山の神風は身に吹きとほす心地こそすれ

八 田 知 紀

▲恭平寺跡 川内大小路にあり。一塊の石俗に「降參石」と稱して現存するのみ。眞言宗にして

舊鹿兒島大乘院の末寺、一時廢墟に歸せしを應永十五年再興、三たびの開山有海建立したる天正十五年豊太閤殺到し來れる時、營を此の寺に敷き、義久公又薙髮してこの寺に太閤に謁す。太閤凱陣の途次、北政所に送りし書に「今度の陣に年よりはやく白髮多くでき申候て抜き申事もいり申さず候」との嘆聲を發せしめし當時の風貌果して奈何。惜むべし寛政七年四月二十四日火を失して寺堂鳥有に歸す山陽并てこの地をすぎ一篇を成す。

石曼子行

頼 山 陽

石曼子、樹下兒、 安辨孰雄孰雌、
蠶食九洲如風雨、 何事此處忽降旗、
巨川滔々扼海口、 回看疊嶺衝北斗、
如此山河棄不守、 全國峰納豎子手、
城下鷄豕真深怨、 海外鷹犬何獨奮、
逆枝之際偏樹思、 脚報何暇懷悲忿、
混一有機驅除先、 寺名太平豈偶然、
君不見西南由來淵藪苑、 人傳個裡匿老佛。

▲川内川 其の源遠く日向肥後の山中に發し滔々として大隅を貫き薩摩に入れるの間百川を會して水勢次第に大に、薩摩郡を穿つて到頭海に注ぐ、長さ凡そ四十五里幅員八町に餘り、舟運十數里に及ぶ。大平橋は川内町の中央國道を繋ぐ一大鐵橋にして去る三十二年の起工に屬す。陰曆七月十六日夜は遊船の行事あり、熊裝して船中歡聲滿つ、縣下第一の大河なり。

度千臺川

山 川 君 豹

長江望斷暮雲愁、兩岸春風送峰舟、
一片雄心猶未已、酣歌擊楫度中流、

下千臺川

同

隔岸青山近、沿流綠樹浮、一曲酣歌發、十里下河流、

▲川内町 瓊々杵尊日向に天降の後、一時笠狹に居給ひし後またこの地に空城を構へ千臺を築きて皇居となし給へるより、千臺の名ありと言へどいかにや、町は坦々たる國道に沿ふて川内川を挾み、川の南に向田、白和の兩町あり。川の北に大小路あり。水上の船舶、陸上の車馬頗る頻繁にして商賈多く、鹿兒島市に亞くの都邑なり。

▲藤川天神の梅

東郷村より二里藤川にあり。道真公幸府に在り難を恐れて入薩を企て山水幽

閑隱棲に適するを愛して長く此處に住みて薨し給へりと傳ふれど信するに足らず。思ふに後人公の遺徳を追仰して建設せし天神ならんか、神苑に一株の老梅あり。枝、根となり、根、枝となり、四方に踞して根幹容易に辨すべからず。日向の月知梅、大隅の寺師梅と共に三州の三梅と稱す。天保八年の藤川紀行中の歌

八 田 知 紀

谷の戸は梅の勾ひにとちはて、今はといてん方なかりけり

松竹もおよばぬ千代の影見えてかみさびわたる神垣のうめ

▲皿山窑

平佐村にあり、安永三年肥前有田の工人を聘して平佐城主此處に磁器を創製せしめ、弘化の初めには錦様、龜甲燒等を出して附近に供給し同時に南京の製法をも傳へたりと覺しく、支那焼に擬ふが如きもの今も往々市坊に見る事あり。

▲紫尾山

伊佐薩摩出水の三郡に跨る高峰にして海拔五千尺、綿々たる山又山の内にて最も秀づるを上宮嶽となす、その頂さに上宮神社あり。斧鉞を加へざる森林良材に富む。宮之城街道又其の中腹を貫いて出水に達す。

▲宮之城町

祁答院十ヶ村の中央にして川内川に沿ふ名邑なり。麻芋の産に富みて蠶業製糸又た

盛なり。

▲蘭牟田池

蘭牟田村にあり、周圍二十三町四周丘陵にして草莽影を浸して池中又多く蘭を生ず

▲西方濱

高城村の海岸にして國道に沿ふ。奇巖を岸に點し、青松を磯に亂し、遠淺にして沖つ島山雲かとはかり、海水浴には詠向の地なり。

▲高城温泉

高城村の山手にあり。數ヶ所の浴槽は僕麻質斯に特効ありとて遠近の客少なからず。

▲入來温泉

入來村副田にあり、湯は八ヶ所に湧き金瘡等に特効ありとて浴客多くして設備又遺憾なし。

▲砂石温泉

蘭牟田村にあり。清溪を挾んで進り出る湯は極めて透明なり。

▲市比野温泉

樋脇村にあり、湯勢豊かにして清く澄み腸胃及び脚氣に奇効を奏すといふ。

第七章 出水郡

▲阿久根

國道に沿ふ驛所にして、五色の濱、光る礁の奇蹟等名あり。大島小島は約一里の海上に浮び舊三月村人船を舩して島に渡りて清興す。

阿 嶺 嶺

賴 山 陽

危礁亂立大濤間 決皆西南不見山

帆影低迷鴈影沒 水連天處是臺灣

▲木牟禮城址

國道に近く野田村にあり。島津家の始祖忠久公建久七年入薩の時、初めて此處に城を卜したるより以下五代の居城にして、六代氏久公より鹿兒島に移轉せられたるなり。城址の東南四五町にして産地と稱する地あり。忠久公以下藩主の居住せし館址なりと傳ふ。察するに昔時猶木牟禮城の廓内なりしなるべし。

▲黒の瀬戸

下出水村と東西長島村との間に横はる海狹を稱す。一名を薩摩の湍門、或は倭人の迫門とも呼ぶ。狭き所は二三町廣さも四五町、急潮の狂奔する動もすれば船を呑み楫を折らんとす賴山陽が薩州重陽詩の中に『濁浪玄門渡炭沙白水關』と言へる玄門の波は即ちこの瀬戸なり。

萬葉集に

長 田 王

はや人のさつまの湍門を雲をなす遠くも我れは今日見つるかも

夫木集に

公 朝

薩摩瀉せとはやみの潮さるはたい漕さすさよ錨おろさて

名所舊蹟

▲出水驛 出水郡中最も繁昌したる町にして上出水村にあり。廣瀬川平良川に臨み出水城趾を負ひ宮之城、大口、川内、肥後に通ずる縣道四通して交通頗る便利の地なり。近く出水城趾あり。

▲米の津港 往年縣費拾萬を投じて築港したる北薩の要津にして、毎日二回肥後三角へ往來の汽船發着し、一帶の風光頗る賞すべく、後に矢筈嶽を負ひ、前に近くは長島、遠くは天草島を望む。米の津八景あり曰く米津夜雨。箭筈晴嵐。幸善晚鐘。名護歸帆。江灣秋月。高洲落雁。紫尾暮雪。瀬崎夕照にして向井滄浪の詩あり。その一

米津夜雨

薄暮松聲喧。相呼收魚網。旅客夢未成。驛雨高波響。

▲野間關趾 國道に近き舊道の肥後堺にあり舊藩時代北薩唯一の要關にして曾て高山彦九郎關守等に拒まれて『薩摩人いかにやいかに刈萱の關もとさゝぬ御代と知らすや』と歌ひ、頼山陽をして『暗行至關下、關吏肆呵嘯』と詠せしめたる所なり。

▲湯川内溫泉 出水驛より一里程、境高くして幽趣に富み不知火の海一帶の風光一眸に集まり、溫泉又透麗なれば避暑の地として申分なかるべし。

第八章 伊佐郡

▲大口驛 伊佐郡中に於て最も賑ふ土地にして鹿兒島より肥後水俣及出水に來往する人々の要路なり。その附近に鑛山あるありて更に繁昌を加へつゝあり。

▲曾木の瀧 川内川の上流にして大口驛より里餘、幅員百間に餘り一面の盤石壘を敷きたるが如く、水はその上を甜めて落下數條一、二、三と三つの飛泉を懸く。近時日本窒素肥料會社の發電所に水を添はれて水勢昔の如くならずと雖、泉石の勾配猶北薩の一名瀑たるを失はざるべし。

▲忠元神社と墓 新納忠元は島津義久、義弘、家久公の三代に歷任して智勇絶倫薩摩武士の典型と稱せられたり。天正十五年豊太閤大平寺に於て島津氏の降を納れ軍を還して此處を過ぎんとするや、忠元大口城に依りその歸路を邀撃せんとす、義久公これを聞き苦諭すること再三、漸くにして止む。太閤その殺氣を稱して薙刀を與ふ。社は大口驛より遠からず、墓は舊祥雲寺の跡にあり。

▲大口牛尾兩鑛山 大口鑛山は大口驛の北一里の處にあり、口碑に依れば慶長年間の發見に係るといふ、特許面積三萬千五百坪にして故堀之内庄右衛門氏の所有なり。牛尾鑛山は大口金山の上隣にあり大小二坑區六十九萬餘坪にして株式會社なり。

第九章 始良郡

▲霧島山 東襲山村にして、隔日二州に跨り東峰は高千穂と稱し、西峰は西霧島又は韓國嶽と呼び、高さ五千一百尺にして大浪池に影を倒したる靈容東峰高千穂に相對す。高千穂は今猶絶えず煙を吐き、山上天の逆錐あり。山中處々に溫泉湧き且つ史蹟に富み神祕的奇蹟又多し。

▲栗野岳溫泉 栗野岳の半腹海拔二千尺の處にあり。近年改修を加へたれば好個の避暑地たり。

▲霧島神宮 霧島山の西麓、東襲山村にあり。官幣大社にして正殿には瓊々杵尊、彥火々出見尊、葺不合命、盤余彥命の四柱を奉祀し、東殿には國常立命外三柱を、南殿には大汝命外六柱を分祭す。彼の國寶三種の神器を授かりて天の八重雲を排分けつ天降り給ひたる靈地は此の處にして、最初の社殿は人皇三十代欽明天皇の御宇瀬戸尾を下して、仙人慶胤の造營に係るも神火に焼け、村上帝の時性空上人來りこの地に住すること四年、現在の地を畫して堂宇を建てしも、此れ又焼け、その後數度の建立を見たるも皆災危に遇ふて滅び、現社殿は正徳五年乙未第二十二代島津吉貴公の再建に係り、建築壯美にして朱色金光、千早振る神代ながらの森に囲まれて輝き渡る心地す。

釋觀惠の霧島紀行に曰く『望金剛門願櫻花而問、往時丹波少將成經七日七夜參籠自栽櫻梅、今何處

之有乎。老僧對曰梅則不知櫻則是花、指路頭數圍古木、實可經五百年春乎、今遇開花之候憶昔之情深矣。』觀惠は文祿年中鹿兒島大乘院の住持なり。

▲鹽浸溫泉 牧園村にあり。交通差して不便ならず、數町にして鶴の湯、半里にして山之湯、日の出、ラムネ溫泉等附近に散在す。中にも鹽浸は他に比して溫泉宿多く、殊に溪流の奇なると夏の夜半鳴く河鹿の聲涼しきに於て勝れり。

▲霧島溫泉 霧島山の西海拔二千尺の半腹にあり。展望の廣闊、風光の雄大、眼下北隅の山河に臨み、天南はるかに櫻島、開闢等を認むべく、酷暑といへども猶華氏八十度を上ることなく、暑を避け氣を養ふ、九州に於ける最好の曲境として推すべく榮之尾、硫黃谷、明礬の三溫泉を併稱して霧島溫泉といふ。附近には神祕的古蹟多く霧島山の七不思議等悠遊一日の閑を割いて探ぐるも又一興なり。

栗原信光

山涌仙液化溫泉 泉有神能使快眠

夢裡南柯封爵貴 地名榮尾酒如川

白尾國柱

夏しらぬ山のかひある出湯には身のいたつきも洗ひすてけん

名所巡覽

▲高屋山陵 溝邊村にあり。山陵のある地は俗に神淵岡と稱し、高さ六十間ばかり、小松簇生して鳥居より一直に細徑僅に通じ頂上は圓くして十坪あまり柵を繞らし碑を建つ。麓には山陵の河原あり。村民衆樂園あり。陵は彦火々出見尊の靈を祀る。

▲山ヶ野金山 伊佐郡と始良郡との境を接したる中央にあり、島津公爵家の所有に属す。寛永十七年三月二十三日内山某宮之城の溪間に砂金を認め、その領主島津久通人をして之を探らしめ、廻ること五里永野山中に至り石菖蒲の根に金許多あるを發見し、當時の藩主光久公これを將軍家光公に告ぐるや、同年四月二十五日阿部對馬守、伊勢國老に命じ地を穿ち金の有無を試みしめたるに、目にその量を増し九百兩を得て將軍に献ず。同二十年台命を以て採鑛中止を命せられしが、明治二年再び許しを得て採掘し多量を得たりと傳ふ。嬉遊笑覽卷の九に箕山大鑑を引て日本國內遊女町二十五ヶ所の内に此處をその一に擧げたり。昔時の殷賑推して知るべし。而して採鑛既に二百七十餘年猶益々産金の饒なる海内屈指の富坑と稱すべく、規模頗る宏壯なり。

▲鹿兒島神宮 西國分村宮内にあり。官幣大社にして彦火々出見尊を奉祀す世に所謂國分八幡とは是れ也。傳に此處は高千穂宮の趾にして宮は神武天皇の御創建に係る所なりといふ。古より一の宮として明治四年國幣中社に、同七年官幣中社に、同二十八年官幣大社に昇格す。寶物として尊の海神

より得られしと傳ふ千珠滿珠あり。滿珠は蒼色にして千珠は白色なり。境高くして山幽に樹木茂りて神殿の古色莊嚴なり。

永祿二年庚申十二月十三日

正八幡遷宮の時

日新公

千早振神代にはいさ玉こかね延みかきたるこの殿つくり

月も日も光を添へて家々の千代の榮えは神のまに

天文十年九月十二日甫詣大隅

正八幡宮謹武小詩以代青詞

桂

菴

千年廟食古祠深 家國競傾崇仰忱

不甲周人論戰栗 宮前松柏翠森々

▲隼人塚 國分村停車場に近く五重の石塔、四天王の石像等建つ、塚は千百九十餘年前、天明帝の御宇に建てたるものにて熊襲梟帥の靈其他隼人の靈を合祀したるもの車窓よりこれを望むべし。

▲奈牙木杜 國分村八幡山の麓にあり。神代祀に蛭兒既に三歳を経れども脚猶立ず、故に之れを天の磐樟船に載せ風に順ひて棄つとなり。社殿の畔にある一巨樟は漂着せるその船より芽をさざした

るなりと傳ふ。杜附近に茂れる金筋竹は、當年命の釣竿なりとか、蛭兒は伊非諾伊非丹命の御子也。

いかにせん奈牙木杜は茂れども木の間の月の隠れなき世に

橘 俊 宗 女

古のなけきの杜の名もつらし我かねきことを神のみつ垣

後 鳥 羽 院

あはれとも思ひやも知る我戀をなけきの杜の神にいのらん

權 大 夫

古をしのはさらめや今とても道をなけきの森のことの葉

權中納言 家 久

▲國分と濱之市

國分は古大隅國府の城址にして濱之市はその津頭なり。義久公、富隈城より、新城に移り鹿兒島に歸らるゝや、新城は季女持朋君の居住となり、兩地の間には櫻を植ゑたるが花咲く春の晨は、白雲と見擬ふばかりなるに歌あり

海山のすだれの中に巻きこめてながめについゝ花の色かな

此の邊攝州、難波の景に似たりとて、昔より難波の別名ありとかや

▲氣色杜

國分村濱の市の北、昔は小村濱之市の海邊は氣色の杜の海邊なりとて、氣色の濱の名を得たり。古來詠まれたる和歌に富み眺望頗る佳なり。

太 上 天 皇

瀧波を梢にかけて山ふかきけしきの杜の蟬のもる聲

從二位 成 實

夕涼み身にしむばかり成にけりあきのけしきの杜の下風

兵 部 郷 有 教

うつり行氣色の杜の下紅葉秋さにけりと見ゆる色かな

西 行 法 師

音にきくけしきの杜に来て見れば立ちそふものは哀れなりけり

中 務

なか／＼に木の葉がくれは哀なりあきのけしきの杜の月影

素 然

をり／＼の心寫して眺むるやかはる氣色のもりの春秋

▲**日當山温泉** 西國分村にあり木房、明治、東郷の三温泉を併稱して日當山温泉と呼ぶ。新川を隔て、姫木城趾を望み、遊樂の地又乏しからず。南州翁歸山して放浪の生活に入るや。獵犬を具して狩り暮しつ、この温泉に親むこと多かりしと。

▲**安樂温泉** 牧園村安樂にあり。馬車の便を有し、道は溪流に沿ふ。一帶の山姿水態旅情を慰むべく、誠にその實名に反かざるなり。

辛亥小春入浴於安樂境

南

浦

屢入温湯臥又偃 日自早朝出及晚

地名安樂堂虛名 解衣盤礴樂張本

▲**和氣公遺趾** 犬飼瀑布の畔にあり。和名鈔に桑原郡稻積とあるは此の邊にして、和氣清麿千四百四十年前此の地に謫さるゝや、稻積と呼べる父老清麿の徒然を勞はしつゝたまゝ里人連日霖雨の時、河伯祭りとして美しき少女を川に沈むる習慣あるを物語るを聞き、清麿左る事世にあるべきにあらずとて邪惡なる巫女を沈め河水を曳いて民田に注ぎその習慣を廢せしめたりと傳ふ。今老松の下に清麿の碑を建つ。近く和氣温泉もありて當年を偲ぶ古松の風颯々たり。

▲**犬飼瀑** 牧園村中津川にあり。安樂温泉より遠からず、瀧は大小二條に分れ、高さ三十間、幅

十間餘、懸崖を掩ふ樹木の間より煙の如く吐き出す飛沫は結んで露となり、落下の深淵雪を碎いて霧を起し、轟々たる響は遠雷に似ておどろく、と、道往く人の足を止めしむ。恐らく瀧としては縣下屈指の名瀑と謂ふべく、舊記にも三國第一の大瀧なりと載す。

▲**加治木** 鐵道開通後町の賑ひ稍々衰へたりとの事なれども猶北隅第一として推すべし。此處は舊主島津義弘公終焉の地にして、公は關ヶ原役の後、帖佐より轉じて來り住み、花を愛で月を賞して老を樂しみ、元和五年八十五歳の高齡を以て薨す。花を贈られし本誓寺の開山雲興上人に贈れる公の歌あり。

月雪のはかなき色もわすれしの心の花をかさしてや見む

▲**龍門瀧** 加治木日本山、藏王山の西北にあり。高さ三十餘尋、橋南谿西遊記に「昔唐人加治木に入船せし頃、甚此の瀑布を愛して常に此處に遊び唐土の龍門瀧を見る心地せりとして此の瀧をも龍門と名付けけるとぞ。」昔時は其の水勢今よりは多く、近時人に知られて盛夏清遊の客少なからず、

島津錦水公

萬丈懸泉匹練開 銀河疑自九霄回

龍門真有廬山色 愧不謫仙飄逸才

名所遊賦

▲**文之和尚之墓** 文之和尚の墓は加治木大平山安國寺跡にあり。和尚は一翁の弟子にして、一翁は桂庵禪師の高足月渚の門人なり。島津義久公、その儒學に精しきを聞き國分の正覺寺及び此の安國寺に住持たらしむ、慶長四年公に従ふて上洛し藩邸にあり。たま／＼後水尾帝の詔によりて宮中に四書新註を講ずるの榮譽を得たる人、南浦文集、聖蹟同和鈔、日州平治記、砭愚論、決勝記等の著あり。元和六年鹿兒島の大龍門にて病を得、歸山途上に遷化して遺骸をこの寺に埋葬す、行年六拾六歳

▲**黒川崎** 加治木と西國分の界、源を溝邊村に發する黒川の河口にあり。古は櫻多くして櫻川とも唱へ、川の東岸に黒川山、その山嘴に黒川崎、景共に賞すべし。椿窓寺の開山鳳山和尚嘗て鳳山軒を結び、家久公時々此處に遊んで歌あり。

浪の織りかくる錦は磯山の梢にさらす花の色かな

この歌よりして近海を錦江と呼びしが、後年鹿兒島灣一帯を廣き意味に錦江と稱するに至れりとぞ。

▲**心岳寺** 平松神社にして重富村龍ヶ水なる心岳寺跡にあり。島津歳久公を祀る。例年舊七月十八日は祭日にして參拜者踵を接し社前に鐵道假停車場を設置するなど非常の賑なり。公は義弘義久の二兄と提携して千軍萬馬の間に出入し、その勇略九州諸侯をして震駭せしめたるが、大閑入薩の時容易に之れと和せず、爲めに後梅北の讒に會ひ、死を賜ふて此處に自刃す。辭世の歌あり。

晴装めが靈のありかを人間はばいさ白雲のうへと答へよ

晴装は公の號なり、秀吉之れを聽いて大に感み公の領地祁答院を兄義久公に與ふ。境は高く山を負ひ海に臨んで景趣佳なり。社は慶長四年義久公の建立にして、同十二年此處に集れる人々の歌あり

義久公

岩木まで影ふる寺を來てみれば雪の深山を思ひやらるゝ

家久公

とふ袖はけふ松ヶ枝に咲く藤の花の波よる池の下水

細川幽齋

御佛を頼むものゆる袖に散る霜の玉をは中向にやせん

▲**米山薬師** 帖佐村小學校に近く突兀たる一崗巒にして頂上に薬師堂を起つ。堂前に立てば薩隅の山水双眸に入りて白帆走り白鷗飛ぶ。俗歌あり

帖佐で名所は米山薬師沖に白帆のはしり船

この地は恰も越後米山の薬師本尊に似たりとて米山薬師の名あり。

▲**古帖佐屋敷** 重富村宇土義弘公居住の趾にあり。文祿四年島津義弘公、朝鮮より歸朝せらるゝ

や、朝鮮人金海を伴ひ歸られたり。金氏は世々朝鮮星山を有し陶工の事を司りしにより公、氏名を星山仲次と更めさせ士に列す。その栗野より帖佐に移らるゝや、星山又從ふて帖佐に來りしに、公居室及び細工所竈屋等を造立し種々の瓷器を製作せしめ、其の能く成れる者には特に御判を爲して焼かしめ愛玩し玉ひけるとぞ、世に所謂古薩摩、古帖佐、御判手等の瓷器是れなり。慶長十二年冬義弘公加治木に移れるに金氏又之れに従ひ、その裔今に龍門司焼を製す。

▲寺師の梅 帖佐村にあり、田圃に近き人家の庭にある白梅にして、一株なれど枝を張り幹を横へて一反歩ばかりに擴がり雪を凌いで花咲く頃は杖を曳く遠近の客多く薩摩藤川の梅、日州高岡の月知梅と共に三州三梅の稱あり。

第十章 贈嶽郡

▲有明灣 志布志村の濱にして白砂青松の長汀之れを抱き、東は日州福島の浦、土肥の岬はるか横に開け南は内之浦火崎の一角さながら龍海に入るに似たり。西は高隈嶽雲を曳き、灣中に檳榔島あり。冬に至れば島影に於て第一艦隊の演習を見る事あり。

檳榔島

天徳南源

檳榔島湧寺南隅 常有仙翁採蓬來

何處鳴狼明月夜 漁人得得意潮回

▲大慈寺趾 今は昔志布志の大慈寺は世に知られし名刹にして、茲に十境と八景とを撰題して支那僧の詩あり。近衛公と共に來志の阿蘇玄與の日記に

文祿五年七月二十五日志布志に御着相成大慈寺といへる寺御旅宿になる、彼寺の坊主參りたる折

波の聲まつに入江の秋の海

玄 興

又御出船を祝侍りて

追風もわりあけの月船出哉

杉

第十一章 肝屬郡

▲吾平山陵 始良村上石に在る大巖窟の中なり。洞窟は奥行き八間、横十三間あまり、その入口三間程の處までは高さ一丈餘、左右と後とは屋形様に次第に低く、各四五尺許の高さとなり、前には小川流れ、飛泉懸り、池水漾ふなど神靈幽清の境、此れ鷗鷺草葺不合尊の陵なり。后妃玉依姬の陵はその右に、目洗の靈水はその左にあり。櫻、紅葉又佳也。

▲天子山 内之浦の北にあり。景行天皇紀に「十二年秋七月熊襲反而不朝貢、八月乙未朔己酉幸筑紫……十一月到日向國、起行宮居々之、是謂高屋宮」この山高屋行宮の址なりと傳ふれどいかにや

▲古江の浦 花岡村の海岸にして南隅の要津、小邑をなして近く築港を見んとす。錦江を隔て、薩の山水を望み後の山に懸る白瀧の飛泉は海上より木の間に見えて美し。

寛政二年春大隅の國古江の里に旅泊せしに雨ふり 古 月

春雨のふる江の里は波もなし治まれる世のしるしとそさく

幾千代かふる江の里の草の庵に夢おとろかず波風もなし

▲雄川瀑布 小根占村に流る、川にあり。瀧の高さ三十三尋、廣さ十五間、水勢常に多く激して天に震ふ。勝海舟翁が「大隅山の狩倉に真如の月の影清く、無念無想を觀すらん」と謠へる南洲翁狩倉の趾もこの邊なり。

▲花瀬川 田代村川原を流る、幅濶けれども、長からず、春より初夏にかけ兩岸の櫻、藤、躑躅など咲きはこりて美し。

しけりあふ藤や躑躅の花瀬川咲く頃いかに水の白波

小 森 一 山

▲小根占 大根占村の南にして古來密柑の産地なるが、慶長十五年藩主家久公の私歌あり。

法 師 龍 伯

時ならぬ冬まで残る木の下はこれやとこ世の宿の楯

▲佐多岬 九州の最南端にして佐多の岬角、燈臺の白觸光芒暗を縫ふこと二十有一海里、舟航の生命とす。岬畔の黒潮東に走るや、激する大潮は澎湃として渦捲き、奔放して斷岩に碎け、船上遙かに之れを望む眞に壯觀を極む。この地大泊浦より山路二里の間蘇鐵多く、珍らしき樹木又多く茂るを見るべし。

第十二章 熊毛郡

▲西の表と鐵砲 西の表は鹿兒島より六十二海里種子島唯一の要港にして汽船は多く此處に寄航し、鹿兒島内地との交通運輸に任ず。天文十二年八月二十七日南蠻の船主牟良叔舎鐵砲を持ち來り銃藥の法を種子島家臣篠川小四郎に傳ふ。翌十三年再渡來船中の鐵匠島民金兵衛にその技を教ふ。曾陰逸史に曰く「天文十三年西洋杜瓦爾國の商船泊大隅海上種島始傳鐵砲、島主時堯獲其術、云々」又某氏の兵録に「中國原無鳥銃、傳自倭夷得之與各種兵器不同、利能洞甲射能中弓矢勿及」此れ銃砲渡來

の最初にして、本邦武術界に一新紀元を開きたるもの、種子島銃は爾來多くこの西の表に於て製作せられたるなり。

清人 邱 仁 瑞

赤尾嶼頭水月灣 兩邊巖石列方端

山居自得義人趣 堪晒遑々名利鑽

▲熊野の浦 青松白砂の長浦にして此種子村に属す。浦の入江となれる處、潮滿つれば漾々として鏡の如く、稱して「松濤灣」と唱へ、灣の畔に島津齋彬公の結ばれし松濤庵あり。又近く巖窟もあり、庵後の山上に熊本神社を建つ。蓋し全島中最勝景の地なり。

▲八重嶽 屋久の島山の總名にして三峰秀づ。宮之浦嶽最も高く六千三百餘尺、永田嶽四千二百尺、栗生嶽六千二百五十尺、九州屈指の高山兀として半空を刺す。

▲泊如竹之墓 種子島の人幼少日蓮宗に入り京師に上りて法華を學び、後儒學を究め寛永十七年島津光久公に呼ばれ、祿三百石を食んで講義をなし、晩年歸島して明暦元年五月十五日八十歳にして死す。墓は本佛寺趾にあり。

仲 秋

如 竹

獨仰清光三五秋 天涯萬里憶周遊

呼童相對語京洛 昔日心知共上樓

第十三章 大島 郡

▲名瀬港 大島北岸の大邑にして北方に開き風浪に會するも錨抓善し、又港の東岸に一小灣あり。和船の泊地に適し、南洋航路の汽船必ず此處に寄航す。

▲南洲翁謫居址 翁、月照と入水して蘇生するや安政五年十二月大島潜居を命せられ翌六年正月十二日同郡龍郷に着し居る事三ヶ年にして歸鹿を許されたるも、文久二年六月久光公の怒に觸れ再び徳之島及び沖良永部和泊に遷されたり。和泊にては翁の居趾に碑を建て、別に村人南洲文庫を興して翁在島中の徳を頌す。何れも大洋の波濤高く芭蕉葉茂りて風光雄大、雄志を抱いて孤島に幽せられし、翁當年の襟懷偲ふに餘りあり。

▲硫黃島 鹿兒島灣口の南少西三十海里の海里島、硫黃嶽二千四百尺島の東偏にあり。源平盛衰記に「肥前國より鬼界島へ渡り硫黃を取て歸る商賈の便船」とあるより見れば治承元年平判官康頼、丹波少將成經、僧俊寛と三人別々の島に流されたるが、後この島に一所になりしとは事實なるべく、

成經、康賴歸京を祈りて建てたる熊野神社あり。千載集にこの島に於て咏める歌あり。

平 康 賴

さつと海沖の小島に我れありと親にはつけよ八重の潮風

鹿兒島縣案内終

肥薩鐵道開通式協賛會規則

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ肥薩鐵道開通式ノ舉行ヲ翼賛シ諸般ノ便宜ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ肥薩鐵道開通式協賛會ト稱ス
- 第三條 本會ハ事務所ヲ鹿兒島縣廳構内ニ置ク
- 第四條 本會ノ經費ハ會員ノ醵金、寄附金及雜收入ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 本會ハ鐵道開通式舉行後事務完了ト共ニ解散ス
- 第六條 本會經費ノ決算ハ評議員會ノ認定ヲ經テ之ヲ新聞紙ニ廣告ス但シ剩餘金アルトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ處分ス

第二章 事 業

第七條 本會ニ於テ施設スヘキ事業ノ概目左ノ如シ

- 一、來賓ヲ款待スルコト
- 一、縣下諸般ノ狀況ヲ紹介スルコト

肥薩鐵道開通式協賛會規則

一、縣下ノ案内記及統計表等ヲ編纂配付スルコト
二、其ノ他評議員會ニ於テ必要ト認メタル事項

第三章 會員

第八條 本會ノ會員ヲ別テ左ノ五種トス

一、特別名譽會員、金百圓以上ヲ醸出シタル者又ハ評議員會ノ決議ニ依リ會長ノ推薦シタル者

一、名譽會員、金參拾圓以上ヲ醸出シタル者

一、特別會員、金拾五圓以上ヲ醸出シタル者

一、正會員、金五圓以上ヲ醸出シタル者

一、贊助會員、金壹圓以上ヲ醸出シタル者

第九條 會員ハ徽章ヲ交付シ別ニ定ムル方法ニ依リ優遇スルモノトス

第十條 本會ニ特別ノ出資ヲ爲シ其ノ他功勞アル者ニ對シテハ特別ノ優遇ヲ爲シ且ツ評議員會ノ決議ヲ經テ其ノ功勞ヲ表彰スルモノトス

第四章 機關及權限

第十一條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會長一名 發起人會ニ於テ之ヲ推薦ス

本會ヲ代表シ會務ヲ統理ス

一、副會長四名 發起人會ニ於テ之ヲ推薦ス

會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

一、委員若干名 會長之ヲ囑託ス

上職ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ掌理ス

一、事務員若干名 會長之ヲ囑託ス

上職ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第十二條 本會ニ顧問若干名ヲ置ク

顧問ハ評議員會ノ決議ニ依リ會長之ヲ推薦ス

顧問ハ本會ノ事業ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ得

第十三條 本會ニ評議員若干名ヲ置キ發起人會ノ推薦ニ依リ會長之ヲ囑託ス

評議員ハ評議員會ノ議員トナル

會長ハ評議員ニ特別ノ事務ヲ囑託スルコトヲ得

肥薩鐵道開通式協賛會規則

第十四條 本會ニ常務評議員若干名ヲ置キ評議員會ニ於テ之ヲ選舉ス

常務評議員ハ常務評議員會ノ議員トナル

常務評議員ハ本會ノ事業施行ニ關シ會長ノ諮問ヲ受ケ其ノ他本會ノ事業ニ付意見ヲ述フ

第十五條 評議員會及常務評議員會ハ會長之ヲ招集シ會長ヲ以テ議長トス會長事故アルトキハ副會長ノ一人之ニ代ル

第十六條 評議員會ノ議ニ付スヘキ事項左ノ如シ

一、經費豫算ニ關スルコト

一、決算ニ關スルコト

一、會則ノ追加變更ニ關スルコト

一、顧問ノ提出スル意見ニ關スルコト

一、其他重要ナル事項

第十七條 常務評議員會ハ會長ニ於テ重要ト認ムル會務ニ付決議スルモノトス

第十八條 評議員會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ時宜ニ依リ常務評議員會ニ委任スルコトヲ得

第十九條 評議員會及常務評議員會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議

長ノ決スル所ニ依ル

第二十條 評議員會ノ權限ニ屬スル事項ニシテ會長ニ於テ急施ヲ要スト認メタルトキハ常務評議員會ヲシテ代ツテ之ヲ議決セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ常務評議員會ヲ招集スルノ暇ナキトキハ會長之ヲ專決スルコトヲ得但シ次回ノ評議員會ニ報告スルヲ要ス

第二十一條 會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ特別委員ヲ囑託シ又ハ有給書記ヲ置クコトヲ得

第二十二條 本會ニ地方委員長十三名並地方委員若干名ヲ置キ會長之ヲ囑託ス

地方委員長ハ郡市ニ於ケル會務ヲ掌理ス

地方委員ハ地方ニ於ケル會務ヲ處理ス

第二十三條 本會ノ事務細則其ノ他必要ノ規程ハ會長之ヲ定ム

肥薩鐵道開通式協贊會役員

會長 阪本 鈺之助

副會長 關屋 貞三郎

志々目 藤彦

有川 貞壽

染川 權輔

鹿兒島縣案内

○庶務部

部長 關屋 貞三郎

部員 兒玉 七之進

市來 正幹

山田 喜市

鮫島 雄介

安田 武彦

花田 幹吉

○編纂部

部長 有馬 純俊

部員 柳 內義之進

吉田 得藏

相良 安之助

淺田 清八郎

兒玉 東一

東 幸治

田 中國愛

弓削 幸太郎

有川 群五郎

河本 武夫

小宅 新

谷村 藤吉

遠藤 久次郎

日高 尙剛

今村 武兵衛

遠藤 利藏

北島 保治

山田 喜市

○接待部

部長 染川 權輔

部員 奧 常次郎

若松 吉次

池田 宗十郎

山下 源助

柳元 勝藏

折田 兼至

柳內 義之進

江口 休右衛門

村上 純

肝付 兼休

柴田 猶次郎

元吉 秀三郎

桑波田 景明

鶴岡 米治郎

岡部 龍太郎

續 眞

田尻 八十二

中馬 德平

松元 政次郎

篠原 熊次郎

折田 一郎

平田 二郎

池田 正義

上村 慶吉

佐佐木 寛

梶木 記秀

安田 武彦

鮫島 雄介

波江野 順藏

竹内 諭輔

枝元 四郎

松平 熊橘

本田 吉次

青木 幾熊

東 幸治

本田 休之助

鏡原 隼人

黒田 清健

黒田 清健

松田 健

門馬 豊次

山田 登代太郎

北島 保治

愛甲 兼遠

安田 爲倍

町田 實一

相良 伸右衛門

有馬 祐太郎

山下 惣右衛門

有馬 要助

池田 惟貞

神田 登

萩原 英助

赤星 雄熊

伊集院 與輔

小林 勇熊

岡 喜太郎

肥薩鐵道開通式協賛會規則

鈴木先太郎
江藤四郎八

竹内實光

橋口吉次郎

田畑鐵平

○設備部

部長 有川貞壽

部員 河野庄太郎

宮里正靜

山下喜兵衛

岩元貞太郎

山本辰之助

五代友繁

深見有彦

藤武喜助

枝元喜之助

義岡實義

折田一郎

松浦圓四郎

香川雄太郎

岩元善藏

山下榮吉

稻松貞一郎

津曲貞助

東野通祥

關外土

藤安新藏

竹内助右衛門

松田健

上野彦太郎

八島震

岡田龜之助

○餘興部

部長 飛岡卯一郎

部員 岡田龜之助

山下榮助

藤安辰次郎

大重利助

奥國彦

久米田新太郎

橋口吉次郎

梶木記秀

松元金次

青木愛熊

中馬長次郎

上田常芳

園田長春

岩元平次郎

山口兼雄

田畑鐵平

伊集院與輔

海江田金次郎

菊谷宗次郎

鹽田國美

沖雄熊

○會計部

部長 山本德次郎

部員 平田孝次郎

上井保

森田重秋

伊地知清隆

池端源藏

鎌田德助

兒玉誠之介

酒井清四郎

東條彦助

四本奎之助

崎元庄之助

瀬戸口源之助

○地方委員長

有川貞壽

森谷八千夫

大山綱任

竹下盛隆

郡山軍助

肝付忠一

丸茂藤平

肝付勇吉

中山春美

大窪七之丞

小野田祐介

別府良時

富田嘉則

○地方委員 各村長 其他

○評議員

奧 常次郎	大重利助	波江野 順藏	安田 爲 偉
愛甲 兼 達	町田 實一	若松 吉次	相良 伸右衛門
飛岡 卯一郎	有馬 純 俵	藤安 辰次郎	柳 內 義之進
小宅 新	折田 兼至	慶田 政太郎	海江田 金次郎
河野 庄太郎	宮里 正 靜	池田 惟 貞	山下 喜兵衛
池田 正 義	日高 尙 剛	山本 德次郎	上田 常 芳
村田 寅之助	義岡 實 義	原田 親 光	平田 孝次郎
志方 之 謙	本田 休之助 <small>農學博士</small>	玉 利 喜造	松田 健
岩崎 行 親	有馬 要 介	原 卓 爾	平田 二郎
山口 平 吉	水谷 千 波	長谷場 純 孝	柿木原 政 澄

肥後 幸 盛	松前 正 義	高原 篤 行	伊集院 與 輔
柚木 慶 二	弓削 幸太郎	山岡 國 吉	佐竹 義 文
中馬 辰次郎	坂本 元 明	赤星 雄 熊	奧田 榮之進
岩元 信兵衛	鯨島 慶 彦	日野 辰 次	武滿 義 雄
原田 耕 夫	竹下 盛 隆	藤井 九万三	大山 綱 任
丹羽 延 馬	田中 正 道	村上 純	上村 慶 吉
長野 武 熊	片山 吉 成	竹迫 常 範	百瀬 武 策
梶原 恒太郎	松本 教 意	樋渡 次右衛門	佐々木 寬
勝田 爲 成	續 眞	久木田 叶	元吉 秀三郎
郡山 萬之進	佐多 敬一郎	福留 彦 七	上田 義 高
外園 三次郎	有馬 三 藏	原口 清 吉	永田 哲 二
坂元 直 衛	丸山 壯 吾	志々目 榮四郎	日高 品
詫摩 治 敬	高木 正 七	兒玉 榮 壽	吉留 伸之丞
常松 與藤次	有村 三 介	是枝 誠 介	有村 七太郎

肥薩鐵道開通式協賛會規則

佐多平一	菊野吉次郎	入鹿山金次郎	黒松傳吉
宮内敬二	神田加一郎	宮里正哉	篠原益雄
宮里正芳	川崎市次郎	木原高秀	宮之原重
牧山盛綱	小山孝之丞	家村壯之丞	東郷壽勝
中村英吉	上村平角	西村種禮	池端久之助
本村直之	兒玉好熊	三浦安能	山内慶治
重安元	永田貞雄	砂泊兼照	瀬戸山良敏
松元嚴	牧元喜右衛門	沖島曾徳	大津大助
玉利禎祥	義永平内	桐原雄介	伊東嘉左衛門
野崎宏	坂田省三	早水九十郎	伊集院俊二
坂元清倫	飯尾暉偉	森山要一	伊藤祐祥
山下兼雄	山下庄左衛門	本田雄熊	阿蘇谷助次
是枝快房	猪方小彌太	小城親友	山崎峻
神崎磐松	川田義熊	芝國忠	伊達昌輔

菅田利右衛門	上村市二	東郷實彦	肥後竹熊
山下篤豊	山重太吉	西田傳次郎	川畑篤行
鯨島宗彰	東郷重成	國上時興	長野祐榮
日高傳藏	加治木健彦	石堂新藏	町田一平
竹内三平	小田次右衛門	平田禎	廣田幸吉
桑波田景明			

顧問

伯	伊地知正一郎
男爵	島津忠欽
男爵	島津隼彦
男爵	島津久明
男爵	島津長丸

男	男	男							
爵	爵	爵	爵	伊	大	吉	阪	野	太
島	鮫	島	瀨	久	田	元	元	島	田
津	島	津	地	保	清	純	純	丹	盛
貴	員	貴	好	利	一	熙	熙	藏	實
暢	規	暢	成	真					國

特別名譽會員

公	公
爵	爵
島	島
津	津
忠	忠
濟	重

明治四十二年十一月五日印刷
 明治四十二年十一月十日發行

編纂者兼

鹿兒島縣廳構内

肥薩鐵道開通式協賛會

東京市京橋區弓町二十四番地

印刷者

金子久太郎

印刷所

東京市京橋區弓町二十四番地
三協印刷株式會社

創刊明治拾四年(年中無休 紙面八頁)

鹿兒島新聞

本社新聞は九州に於て最も舊き歴史と深き勢力と廣き紙面とを有する地方新聞中の巨擘にして東京沖繩宮崎其他縣下各地に支局出張所を設け内外樞要の地には特置通信員ありて記事の確實と報道の敏速なるを保證し貳臺の輪轉機を運轉する發行部數と此れが廣告の効益とは今又敢て自費せざるべし且つ今回全國に於て未だ多く使用せられざる新活字採用に依て從來より更に一頁の記事を利益するは讀者なり

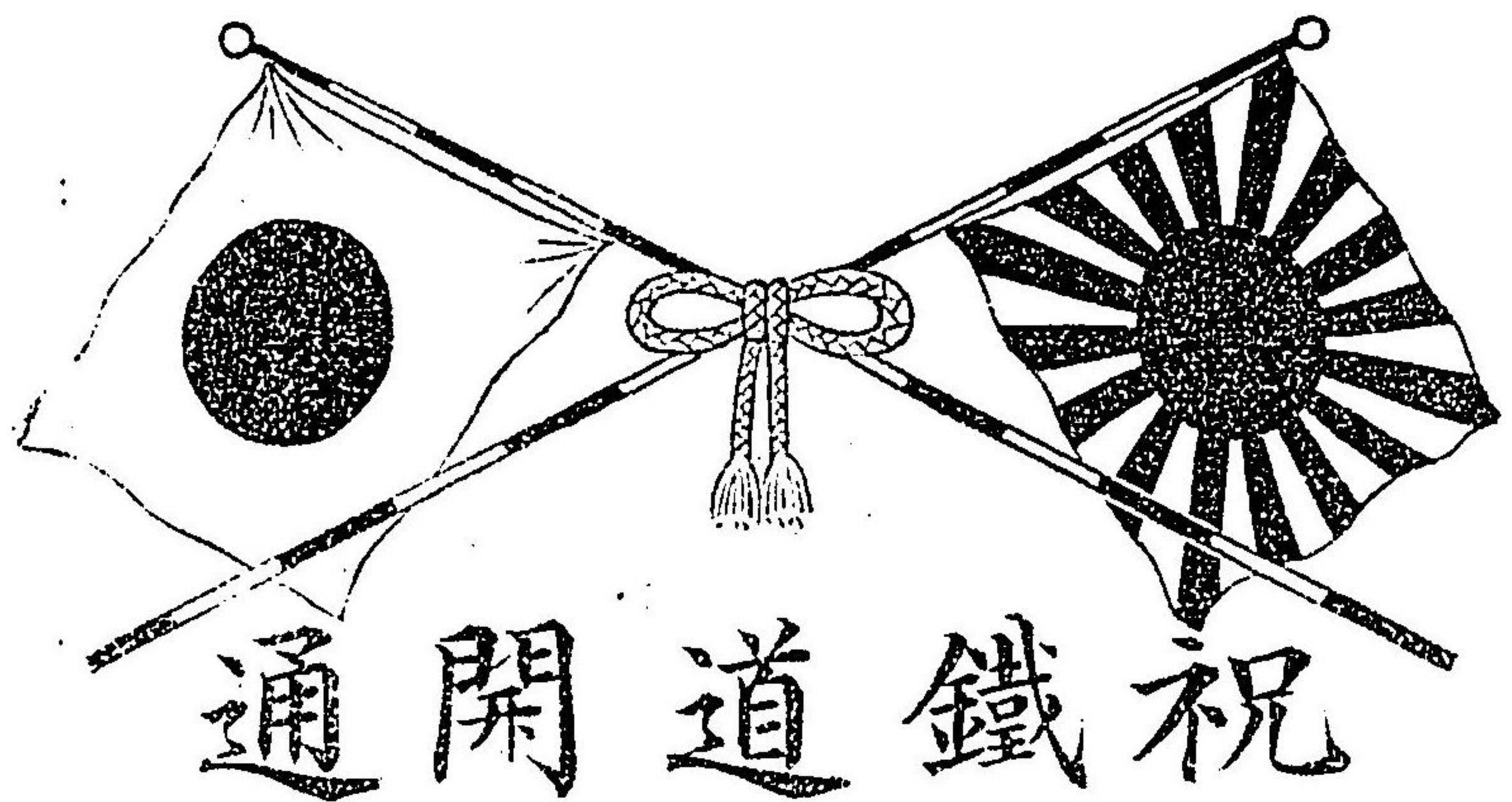
鹿兒島市山下町百七十一番地

鹿兒島新聞社

本社電話 編輯用 五〇四番
事務用 二〇三番

支局電話 川内 三三八番
宮崎 一三三番

(振替口座東京) 八八八六番



祝鐵道開通

資本金貳百萬圓

本店 鹿兒島市金生町

支店 大阪宮崎都城沖繩



株式會社

第百四十七銀行

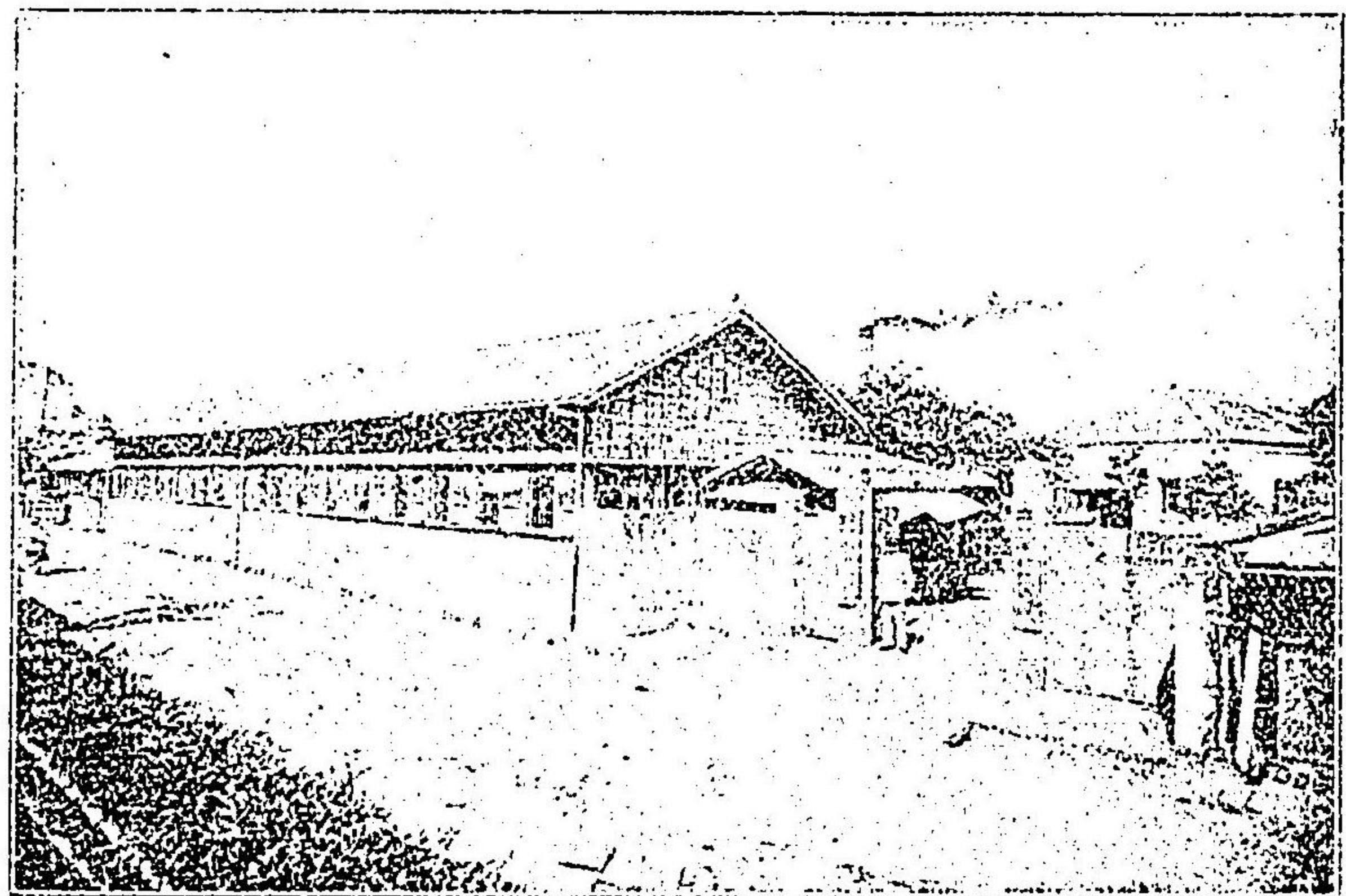
電一四七
話四六九

積立金參拾六萬圓

為替取組先内國滿韓

兩國樞要地

意匠新 薩染 薩 色不 摩 綉 綉 地質堅牢
 國產 薩 摩 綉 綉
 廉低格價



(部物織部一第)



實業一點張は我社の本領にして**公平中正**は我社の特長なり而して穩健の筆致と敏速の報道と豊富の材料に依つて多數讀者の眷顧に酬いん事は我社本来の主張とす
本紙の廣告力は偉大にして其の効能は極めて顯著なり

本紙定價 一枚一錢五厘、一ヶ月前金卅八錢、三ヶ月同九拾九錢 遞送料壹ヶ月金拾五錢
 ▲廣告料 ▲普通五號活字十七字一行二付金十八錢五回以上五分引 七回以上壹割引
 ▲甲種特別壹行五拾四錢 ▲乙種同參拾六錢

本社 株式會社 鹿兒島市六日町十六番戶
 電話 編輯用 (八四三番) 事務用 (八四三番)

社 團 法 人

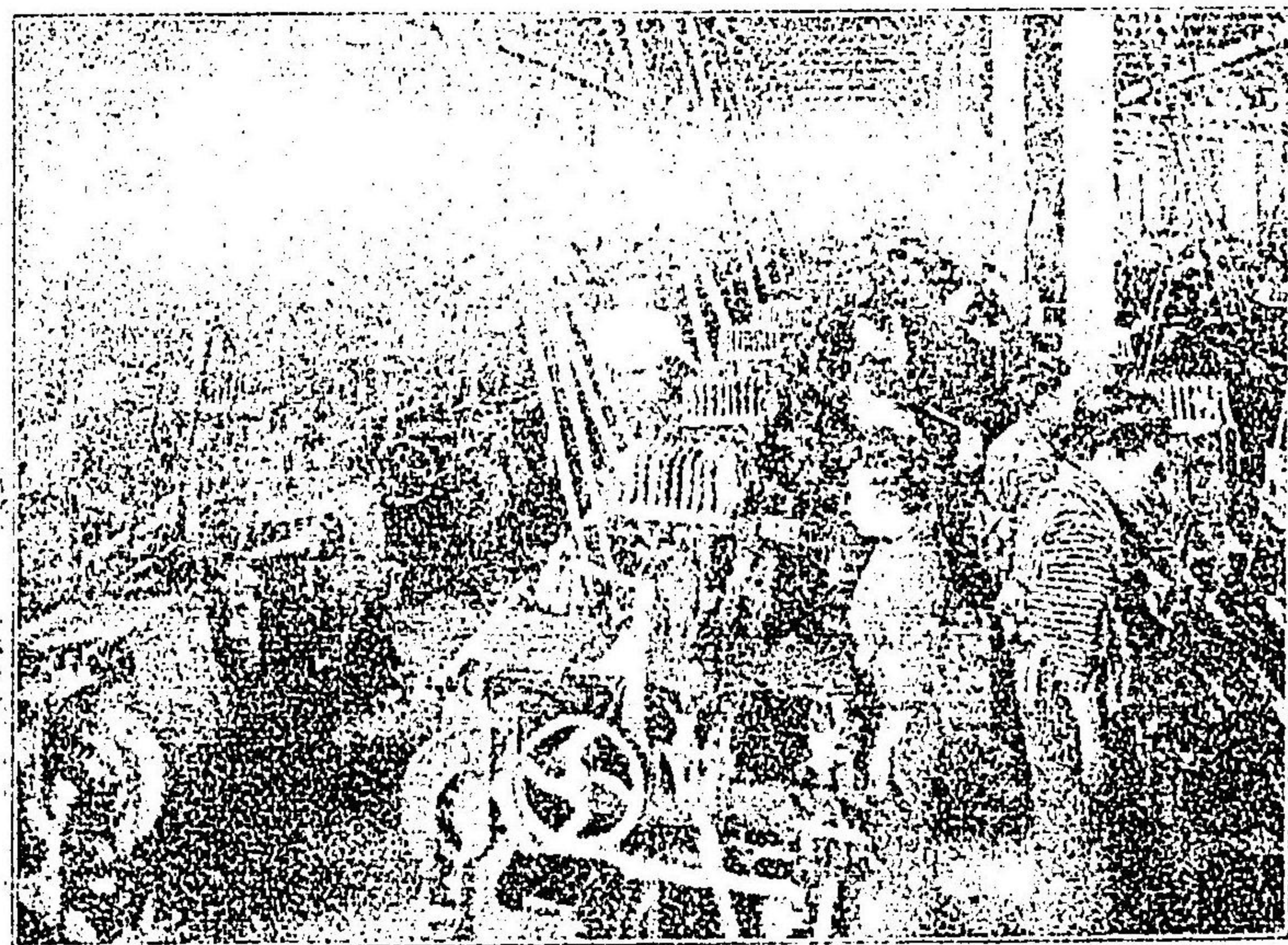
鹿 兒 島 市 武 橋 畔

鹿兒島授產社

陳 列 場

縱 覽 隨 意

(電 話 一 三 番)



(力 織 工 場 內 部)

棉 花

製 綿 商

真 綿



山 形 屋 綿 店

鹿 兒 島 市 石 燈 籠 通

營 業 電 話 六 九 番
工 場 電 話 六 三 三 番

鹿兒島市山下町千石馬場通

牧野直吉

同市天文館通

篠原直太郎

(電話六三五番)

同市吳服町

遠矢喜之助

自笑堂

書畫骨董

翠竹堂

東宮殿下特賜御買上光榮

米國シカゴ大博覽會併ニ
同國美術館ニ於テ有効賞
受領

國產 薩摩燒陶器

鹿兒島市西本願寺別院前

畫師山下雪山

場内清潔

玉突場朝日軒

準備完全

客室淨洒

御旅館朝日館

調度鮮麗

鹿兒島市廣口角

館主 本田はな

(電話八三三)

特色 畫工純精 價格低廉
烙金純精 價格低廉
印像鮮麗

國產 薩摩燒陶磁器商

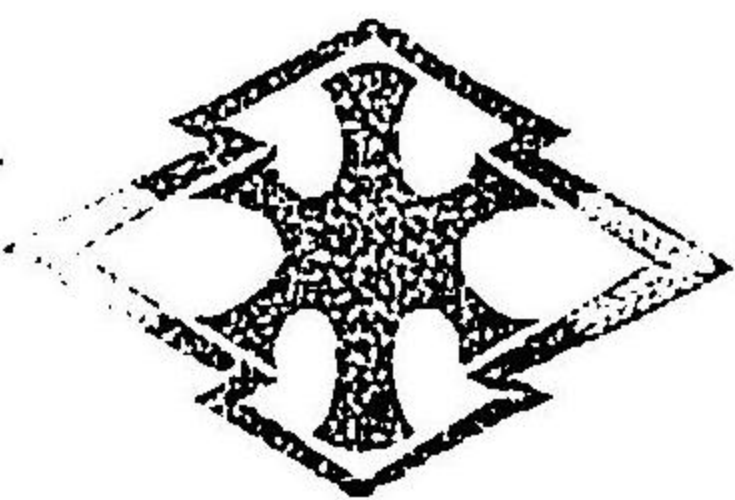
鹿兒島市東千石町天神馬場

川田春帆堂

電話(カワ)

電氣燈 電動力 供給
 電燈 諸器具 裝飾品
 電力 諸機械 附屬品

其他電信電話電鈴避雷針等電氣に關する一切
 の機械器具販賣修繕及工事設計監督并に受負



鹿兒島電氣株式會社

鹿兒島市六日町十三番地

電話 百三十七番
 發電略號(カケン)

本店營業所



店主

營業品目

和洋銅鐵 各種パンキ
 大工器具 各種ペンキ
 工業用品 諸色ペンキ
 度量衡器 其他金物一式
 金庫 臺秤

鹿兒島市大黒町石燈燭通

本店 今村武兵衛商店

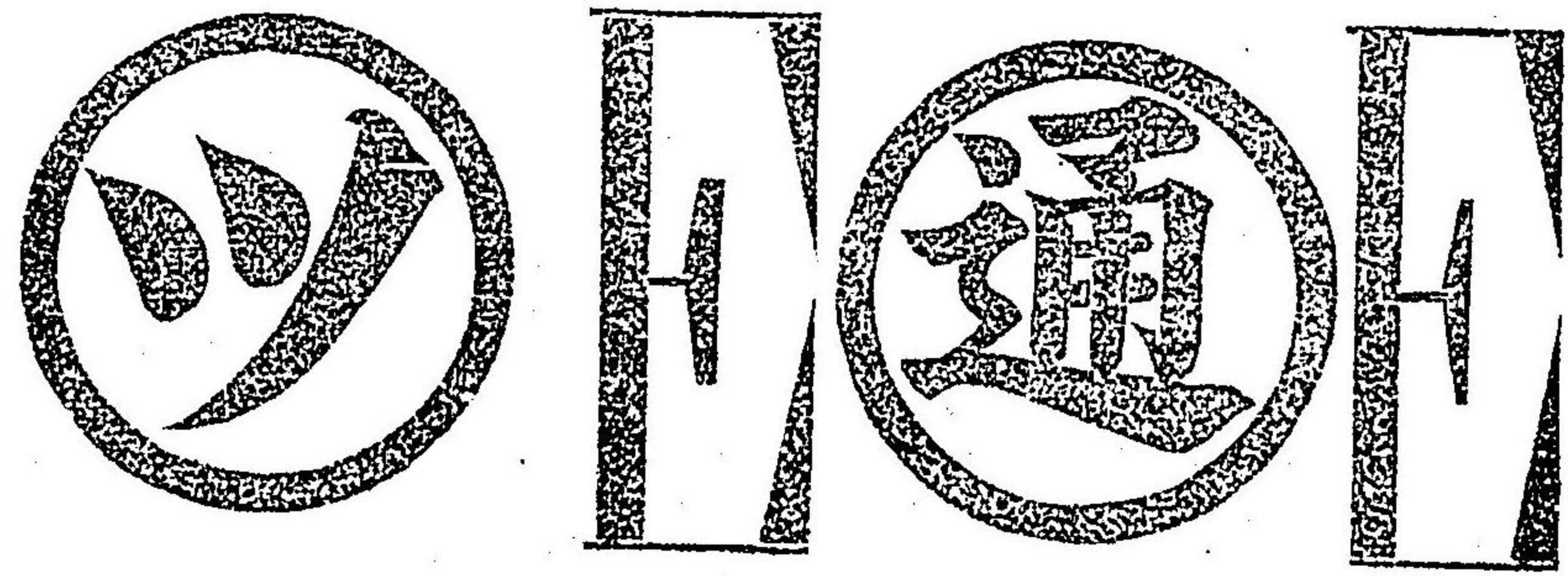
電話 一七七番
 振替貯金大阪七五九六番

同 和泉屋町立馬場通

支店 森 次兵衛商店

電話 五六六番

汽車積荷運送



鹿兒島驛前

內國通運株式會社

鹿兒島取引店

西村運送店

電話九四一番

山下町廣口

廣口荷集所

電話四五七番

琉球其他各縣特產漆器及
名產竹器諸油類卸小賣商

商標
永田屋事
濱田龜次郎

鹿兒島市吳服町

電話六百六番

●當本舖ニテ薩摩新名産漆器ヲ製造ス新新優美堅固佳良價格又甚ク低廉ナリ

●本舖販賣ノ琉球漆器ハ沖繩那覇支店ヨリ直送ノ優美堅良ノ器ナリ

●各縣産漆器ハ各其特産地特約店ヨリ直輸入ノ品質良好精撰ノ器ナリ

●各種瓶詰香油ハ本舖傳來ノ秘法ニ學理上ノ改良ヲ加ヘ特ニ精製セラル者ニシテ品質佳良芳香馥郁衛生

ニ適シ毛髮ヲ艶美ナラシメ永久腐敗ノ惧ナク實ニ理想的實用品ナリ又體裁優美ナルヲ以テ進物用

宜シ本品ニハ内務省大阪衛生試驗所ノ試驗報告證明書ヲ貼附セテ無双ノ優良髮油ナリ

念 紀 通 開



三 水間常次郎商店

鹿兒島市金生町納屋通

電話(一六五)電話三又三ツ
振替口座大阪(六六六壹)

商 品 略 示

最モ確實ニ信用ヲ重ンジ永遠ニ利益ヲ收メン爲多數ノ御注文ハ勿論如何程些少ノ御用命ニテモ熱心ト誠實トヲ以テ勉強仕リ候間希クバ鹿兒島ノ金物界水間商店アルコトヲ必ズ忘レ給ハザランコトヲ

萬打及物。和洋建築金物。
セメント。金庫。カンカン。
度量衡。釘。鐵。銅。鋼。各種
工業用品。鐵道用品。マニ
ラロツプ。土工用品。水道
用品。船舶用品。消火器外
金物附屬一切

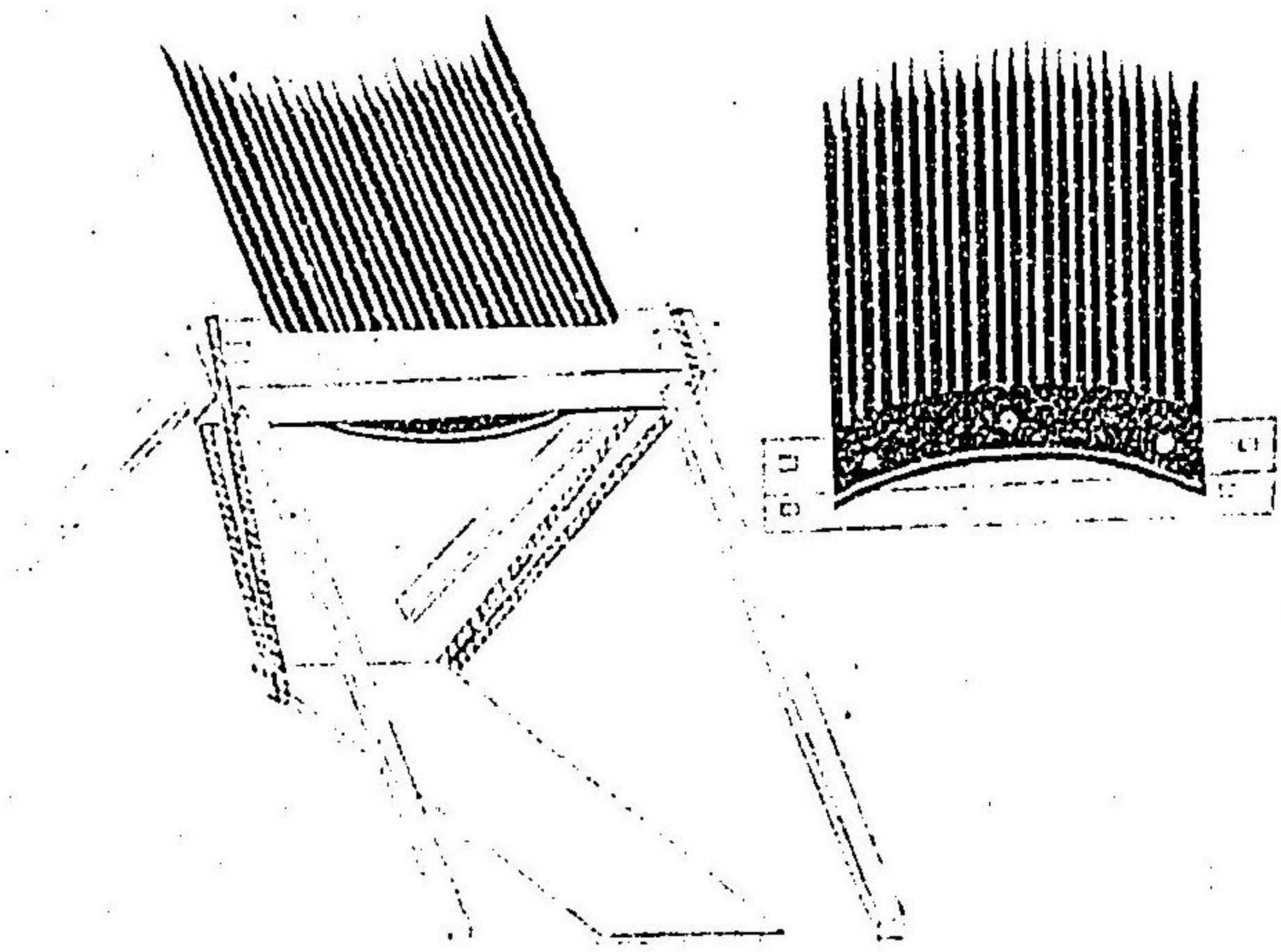
專賣特許
第五九七号

彎形稻扱

鋼一
鉄枚
製板

堅
牢
無
比

力
減
省



十五ケ年間修繕ヲ要セズ
製造元

日本農具株式會社
鹿兒島代理店

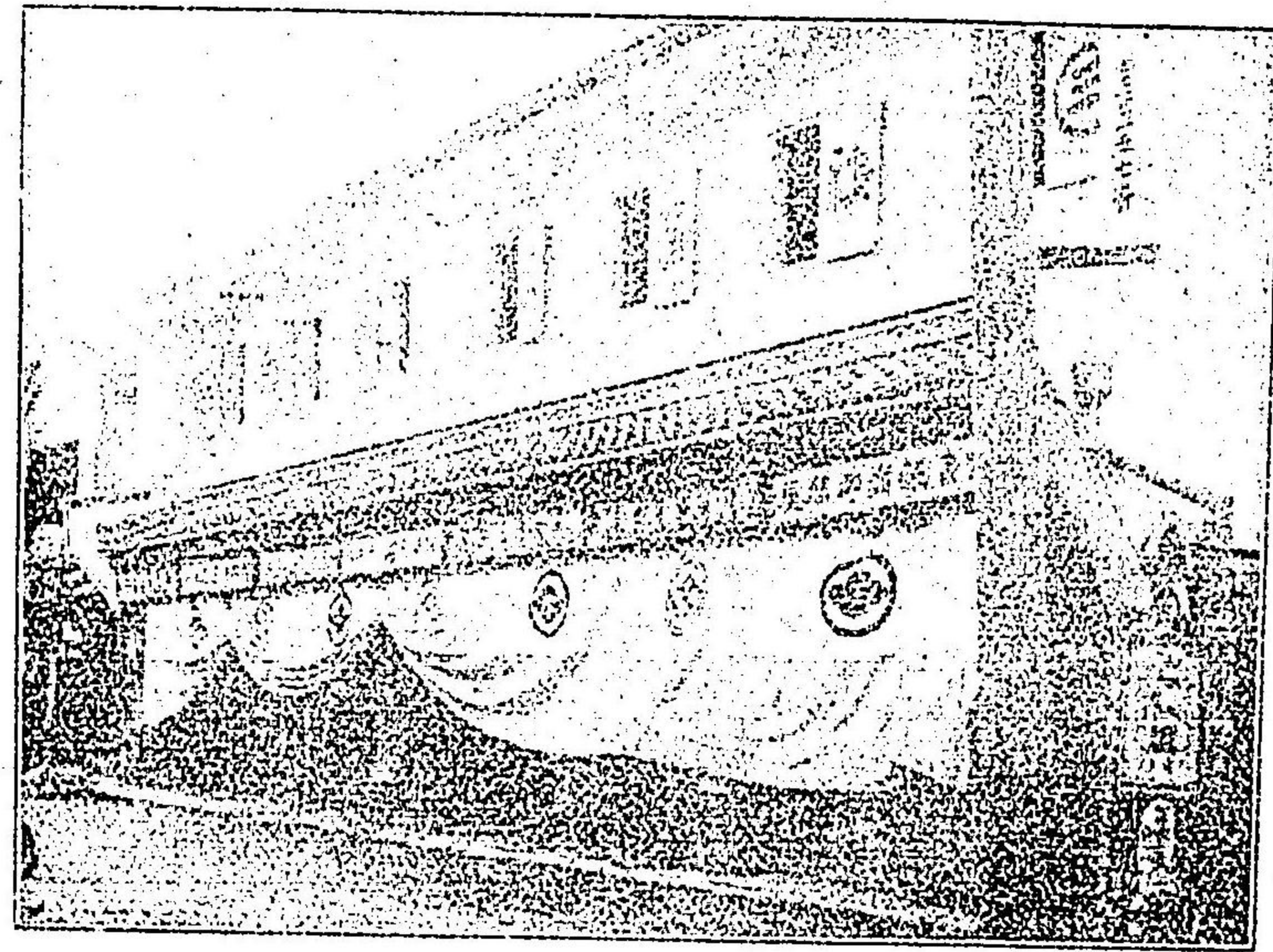
改良農具商會

鹿兒島市山之口町百四十五番戸

郡山誠之助
鮫島實

婦女子ニテモ一日扱六七石ヲ扱キ得ベシ
特約販賣店ハ縣下各郡村ニ在リ(定價金參圓除芥器金拾六錢)

祝 鐵 道 開 通



和漢洋藥醫療器械
繪具一式并二齒科材料

鹿兒島市吳服町六〇

三開社本店

店主 小牧德藏

電話 三五七

寫真原類
眼鏡類

確實

安全



大聲蓄音器
附屬品一切

履物卸小賣商

鹿兒島市吳服町八四

森音吉商

電話 四二三番

薩摩特產含銀錫器

舊藩主御所有谷山
 産ノ含銀正錫ヲ以
 テ製作セル本縣特
 産錫器ハ地質堅牢
 光澤艶麗銀器モ及
 ハス同業組合ヲ設
 ケテ濫造ヲ戒飭シ
 價格ヲ廉ニ確實ヲ
 旨トシ悉ク正札ヲ
 以テ高需ニ應シ候
 間多少ニ不拘御用
 命奉仰候 敬白

製 作 品

茶 器 酒 器 水 差 燒 耐 蒸 溜 器 等 一 切

六日町旭通 星山武八郎 電話五一二	山下町御殿下 橋 金谷庄吉 電話	六日町旭通 高山三左衛門 電話	六日町旭通 山崎袈裟五郎 電話八六六	山 下 町 興業館前 松元伊兵衛 電話	六日町旭通 福永谿山堂 電話九五一	大黒町新町通 桐原庄之助 電話	仲町西本願寺 前 江田薩摩堂 電話
-------------------------	---------------------------	-----------------------	--------------------------	------------------------------	-------------------------	-----------------------	----------------------------

全 國 陶 磁 器 商

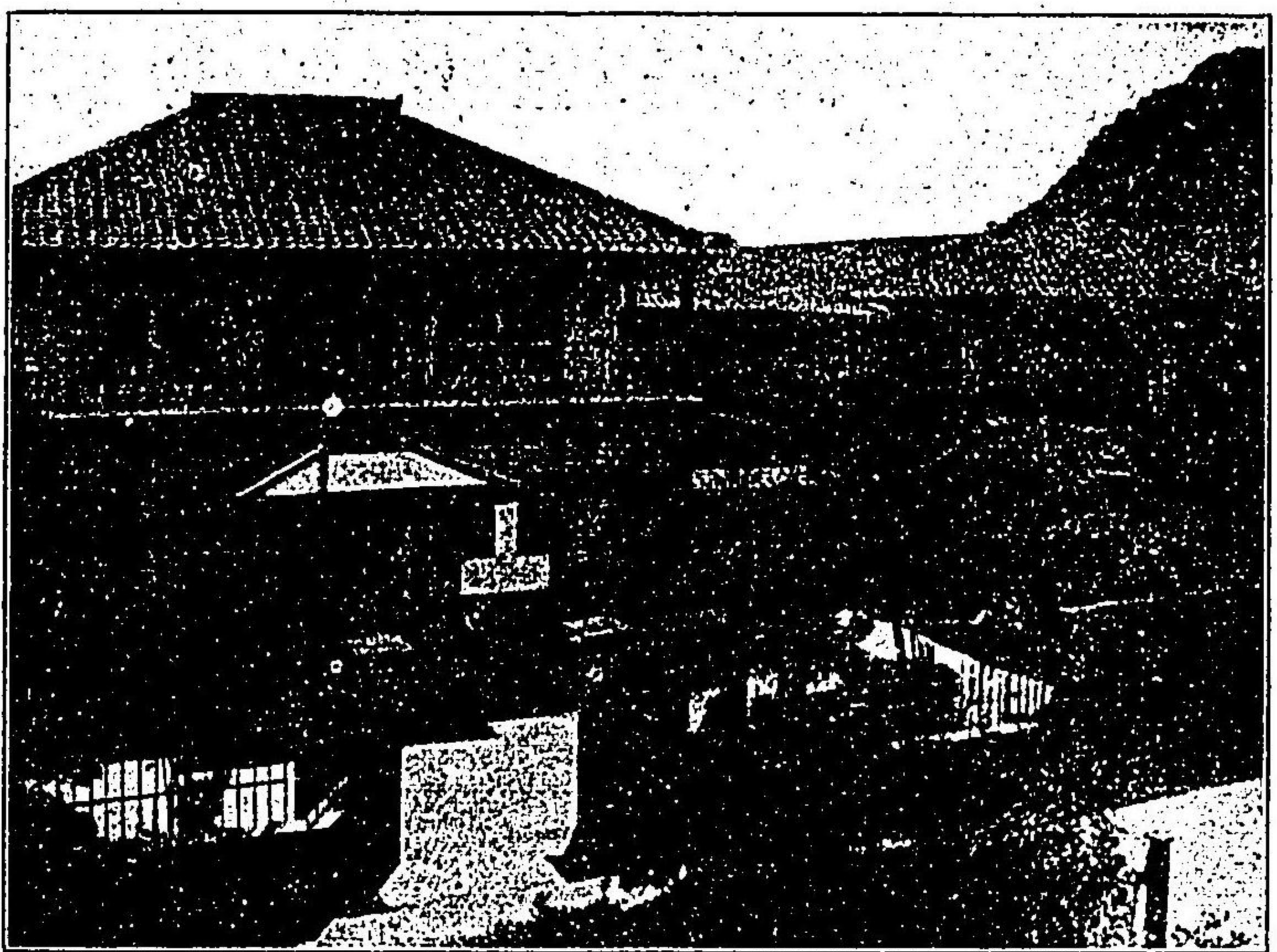
御

薩摩燒

平岡本商店

鹿兒口 市 中 町 石 燈 籠 通 上
振替 座 東 一 四 五 六 番

國 産 薩 摩 燒



外科、婦人科、産科

鹿兒島市山下町二之丸

赤星病院

(電話二二二三)

院長 赤星雄熊

金子齒科醫院は材料の撰擇
確實丁寧を主として治術に
従事す

鹿兒島市山下町二百十一番戸

院主 齒科醫 金子孫四郎

院長

内科主任

佐佐木

寛

副院長

醫學博士
小兒科主任

佐佐木直介

内科小兒科専門

鹿兒島市東千石町一四七

佐佐木病院

電話六〇二番

ほねつぎ内科外科

入院隨時

鹿兒島市中町四十一番戸

明日山醫院

電話六四六番

院主 明日山秀夫

宮原眼科病院

診察時間

午前九時ヨリ十二時迄

午後二時ヨリ五時迄

日曜祭日ハ正午十二時迄

入院隨意

院長 ドクトル 宮原武熊

鹿兒島市西千石町
電話六三一一番

外科。梅毒。淋病。痔疾。皮膚病。
陰囊水腫。

烏丸醫院

鹿兒島市船津町

院主 從七位 勳五等 烏丸一郎

婦人科、産科、外科

赤星錦江醫院

鹿兒島市山之口町地蔵角

院主 赤星彌藤次

電話八三八番

鹿兒島市西千石町

前田眼科醫院

入院 隨意

院主 醫學得業士 前田甚一郎

鹿兒島市平ノ町千石馬場通 (電話二六二番)

耳鼻咽喉專門 中村病院

診察室病室増築入院治療差支ナシ

外科

淋病
梅毒
婦人科
二入院隨時
自炊賄附

鹿兒島市樋ノ口町三官橋通角

山下國堂醫院

電話參〇八番

院主 山下猛之進

院長

醫學得業士

崎元良夫

內科小兒科
花柳病
專門

梅毒胎毒
淋病下疳

鹿兒島市中ノ平通

崎元醫院

内科小兒科

鹿兒島市下龍尾町二五

眼科耳鼻咽喉科專門

鹿兒島市西千石町高見馬場

牧田醫院

電話七一二番

院主 牧田靜彦

武滿眼科耳鼻咽喉科院

入院隨時

院主 大學撰科卒業
醫學得業士

武滿雲藏

鹿兒島市吳服町角

硝子器製造業
板硝子直輸入



高野硝子店

電話五百五十五番

鹿兒島全市下錦江灣下ノ風景一眸ニ集マル

城山公園

和洋料理
御料

浩然亭

岩元直助

電話二二五番

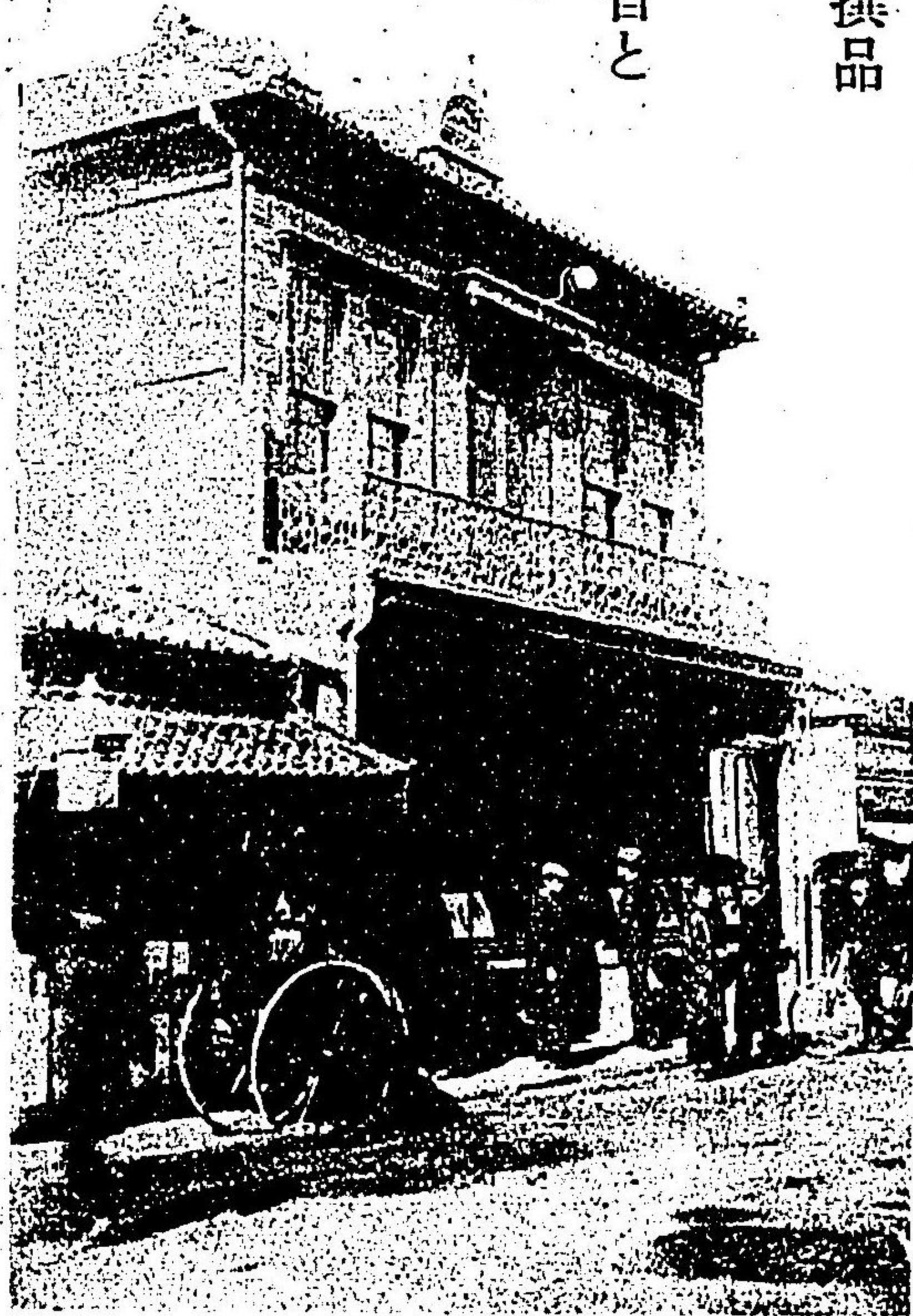
洋服裁縫

地質は英佛製の精撰品

裁縫は精巧緻密を旨とす

流行は倫敦、紐育
よりの特信に據る

鹿兒島市御着屋



枝元洋服店

電話 三三六番
振替貯金口座大阪三九一三番

高等旅館

山城屋

鹿兒島市築町

山下直太郎

電話 三二九番

南洲館

鹿兒島市山下町

小野嘉平

電話 一一五番

花屋旅館

鹿兒島市山下町

安庭ツ子

電話 七一〇番

明治旅館

鹿兒島市東千石町

久保正暎

電話 四一〇番

黑砂糖泡盛米大豆雜穀卸商

鹿兒島市泉町百四十番戶

吉田得藏商店

電話二一七番
發電略號(キ)

吉印

黑砂糖泡盛米穀雜貨商

沖繩縣那霸區西

吉田支店

發電略號(キ)

誠實を旨とし大に勉強仕候間多少に不拘
御用命奉願上候

鹿兒島市高見馬場通
電話八百八十九番

内科専門

森醫院

院主 森三木

薩摩名産

カルカン

第五回内國勸業博覽有功賞牌
第二回全國菓子品評會有功賞牌

受領

内科小兒科専門

素養堂醫院

院長 指宿圭三

電話九百六十一番
鹿兒島市生産町八二

製造元祖

御菓子司

鹿兒島市
廣馬場通 明石屋

電話二五一番



季節向流行品は常に漏れなく取揃へ
居り候間多少に不拘御用命奉希候尙

薩摩上布 大島紬

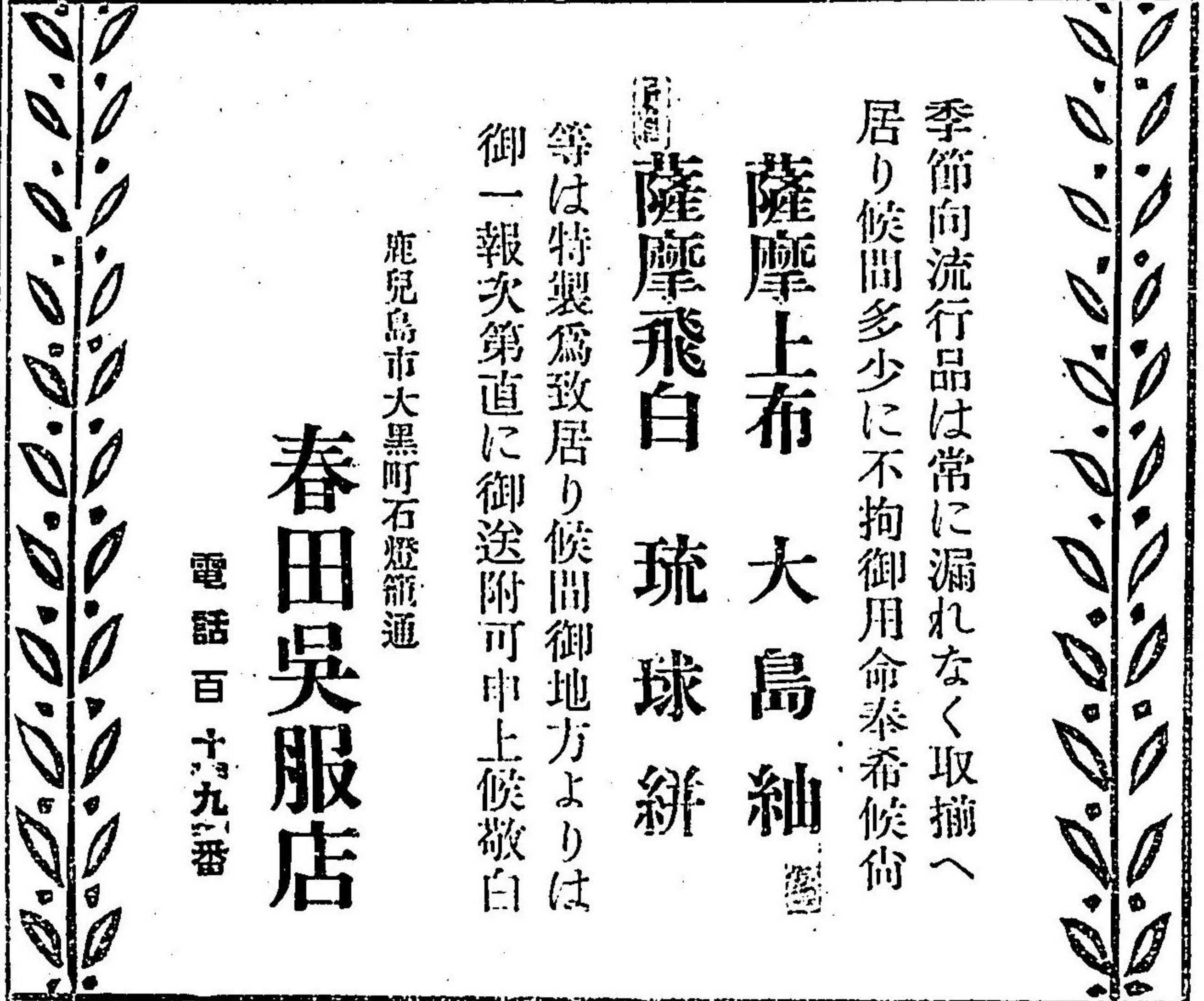
薩摩飛白 琉球緋

等は特製爲致居り候間御地方よりは
御一報次第直に御送附可申上候敬白

鹿兒島市大黒町石燈籠通

春田吳服店

電話百十九番



御旅館



鹿兒島市東千石町
電話九五九番

ふくや旅館
野下早次郎

丸屋旅館 東千石町 緒方ハル
電話四四四番

東陽旅館 山下町 前田サエ
電話九三八番

山福旅館 東千石町 篠原スマ
電話七一九番

有水旅館 東千石町 水萬ゲサ
電話七〇七番

一力旅館 天神馬場通 高野エイ
電話七四六番

鶴屋旅館 天文館通伊勢小路 大川内スガ
電話六三六番

御旅館

(順 八 口 一)

紫雲館 仲町 (電話八二二番)
濱崎 德市 千石館 吉田 英助 東千石町 (電話五六二番)

服部旅館 服部 誠之助 龍潜館 染川 キク 東千石町 (電話三六二番)

濱田旅館 濱田 夕力 薩州館 山下 スガ 易居町 (電話三六七番)

大迫旅館 大迫 熊太郎 都旅館 有田 次助 生産町 錦江橋畔 (電話四五五番)

吉田旅館 吉田 英助 右田旅館 右田 ミツ 東千石町 館屋小路 (電話七五一番)

各御旅館

併テ今回肥薩鐵道開通ニ際
シ客室改修及ヒ器具等改良仕一層確實御可憐ニ御
取扱可仕候間倍舊績々御投宿御引立ノ程伏テ奉懇
願候 敬白

鹿兒島市堀江町舊會所
筋通馬場下貳軒目

松元旅館

海産物賣買問屋

松元作次郎 店商

電話(マサ)又(マ)

岩元正亮商店

郵便切手賣下所

鹿兒島市山下町廿一番戸
舊御殿ノ下第一中學校後 (電話五百廿七番)

紙墨筆及謄寫版炭酸紙丈量繩
椅子卓子器具類其ノ他雜貨商
諸官衙御用達

國產 薩摩絣 併ニ 縞織販賣

本工場製織品ハ名譽銀牌受領

本場 久留米絣 併ニ 縞販賣代理店

本品ハ產地有名ナル織物會社ノ製品ナリ

卸小賣

價格柄合は御報次第代金引
替小包にて御送附致し候

商標



田代本店

鹿兒島市天神馬場通二官橋東へ入
明治旅館隣電話九百四十二番

分工場 田代織物部

同市樋ノ口通

鹿兒島市中之平通

前檢事 正七位 辯護士 松山留助

(電話參百拾六番)

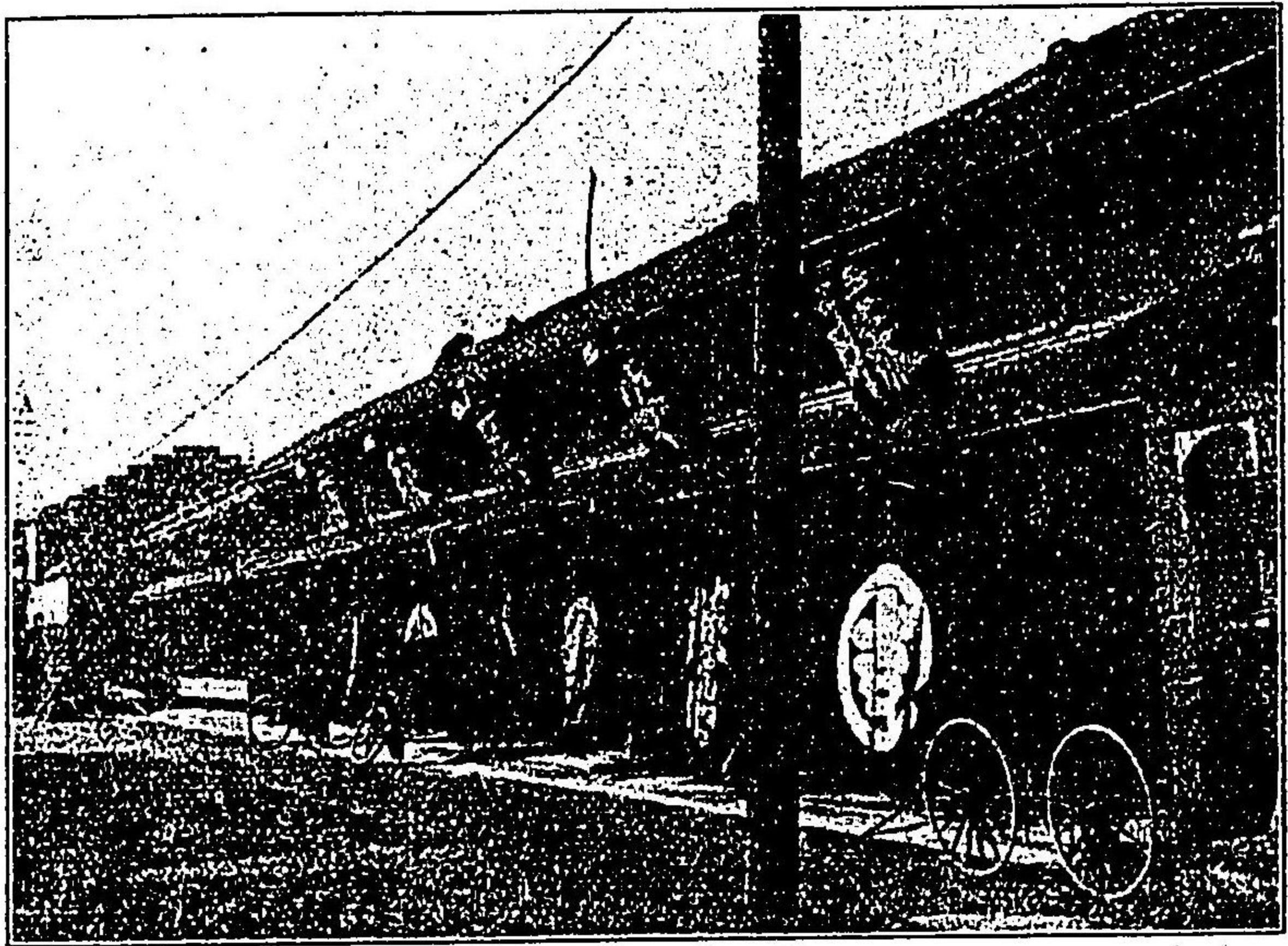
砂糖、米穀
鶏卵、焼酎 商

煙草元賣捌所

米穀、鶏卵、仲買、業
醬油、味噌、菜種、油
製造各種肥料、吳服、子
煙草、鹽元賣捌所

鹽元賣捌所

米穀、鶏卵、仲買、各種肥
料、吳服商、鹽元賣捌所



鹿兒島市住吉町海岸

カ 中山本店

大隅國嶺南郡志布志町

カ 中山本店

大隅國岩川町

カ 中山本店

大隅國始良郡敷根町

カ 中山本店

大隅國肝煎郡百引町

カ 中山本店

發電略號(カシ)或ハ(カ)
電話二一九番

發電略號(シシ)又ハ(シ)

發電略號(カネカ)或ハ(カ)

發電略號(シキ)或ハ(シ)

發電略號(モシ)或ハ(モ)

薩摩上布 大島紬

薩摩飛白 琉球緋

其他季節向流行品種々取揃へ居り候
間何卒御用被仰付度願上候地方より
の御注文は御一報次第早速御届可申
上候

鹿兒島市仲町

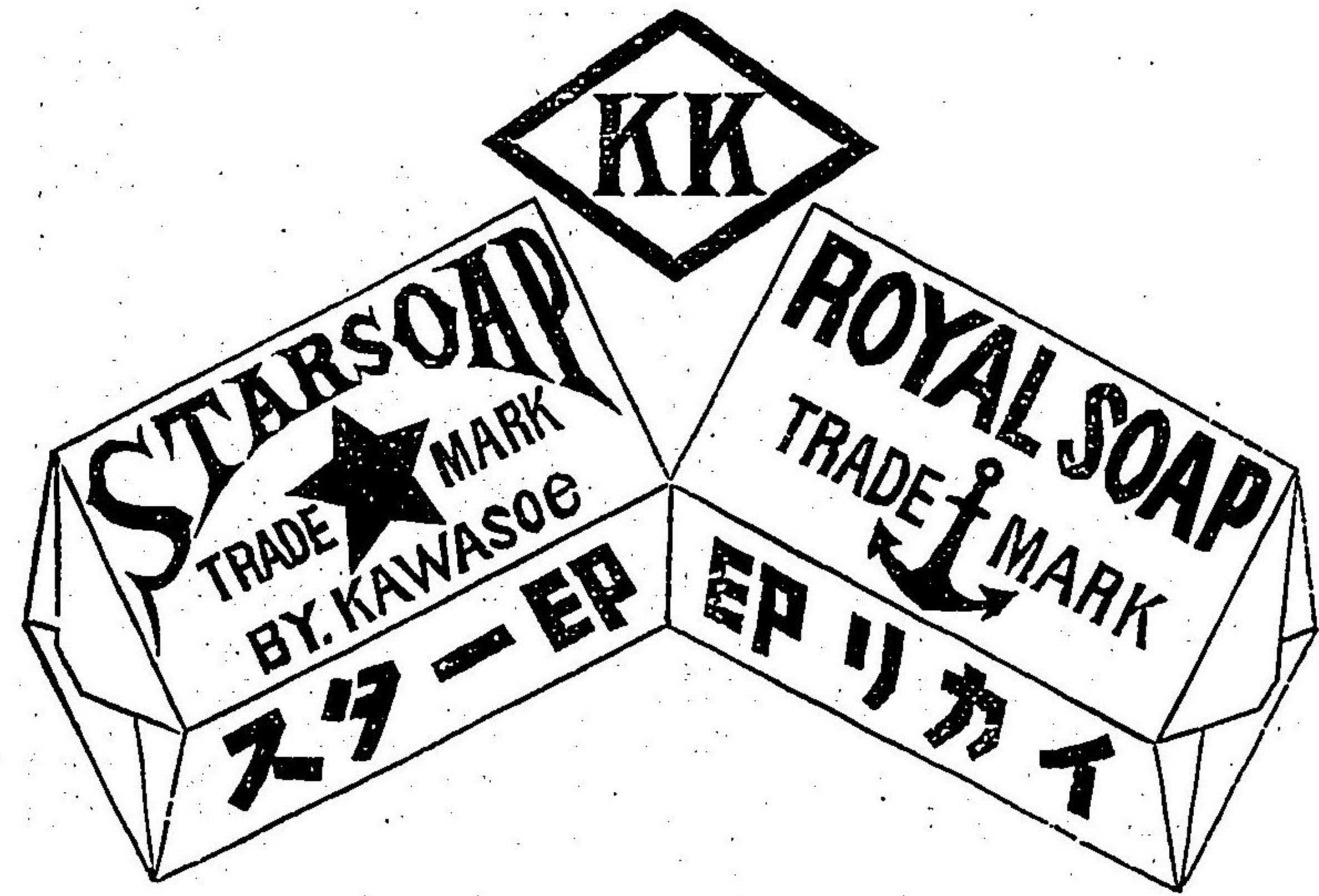
吉 藤安吳服店

電話貳拾九番
話五百五十六番
振替貯金大阪五五二五

御旅館

宮地彦三本店
宮地彦三支店

薩摩枕崎町

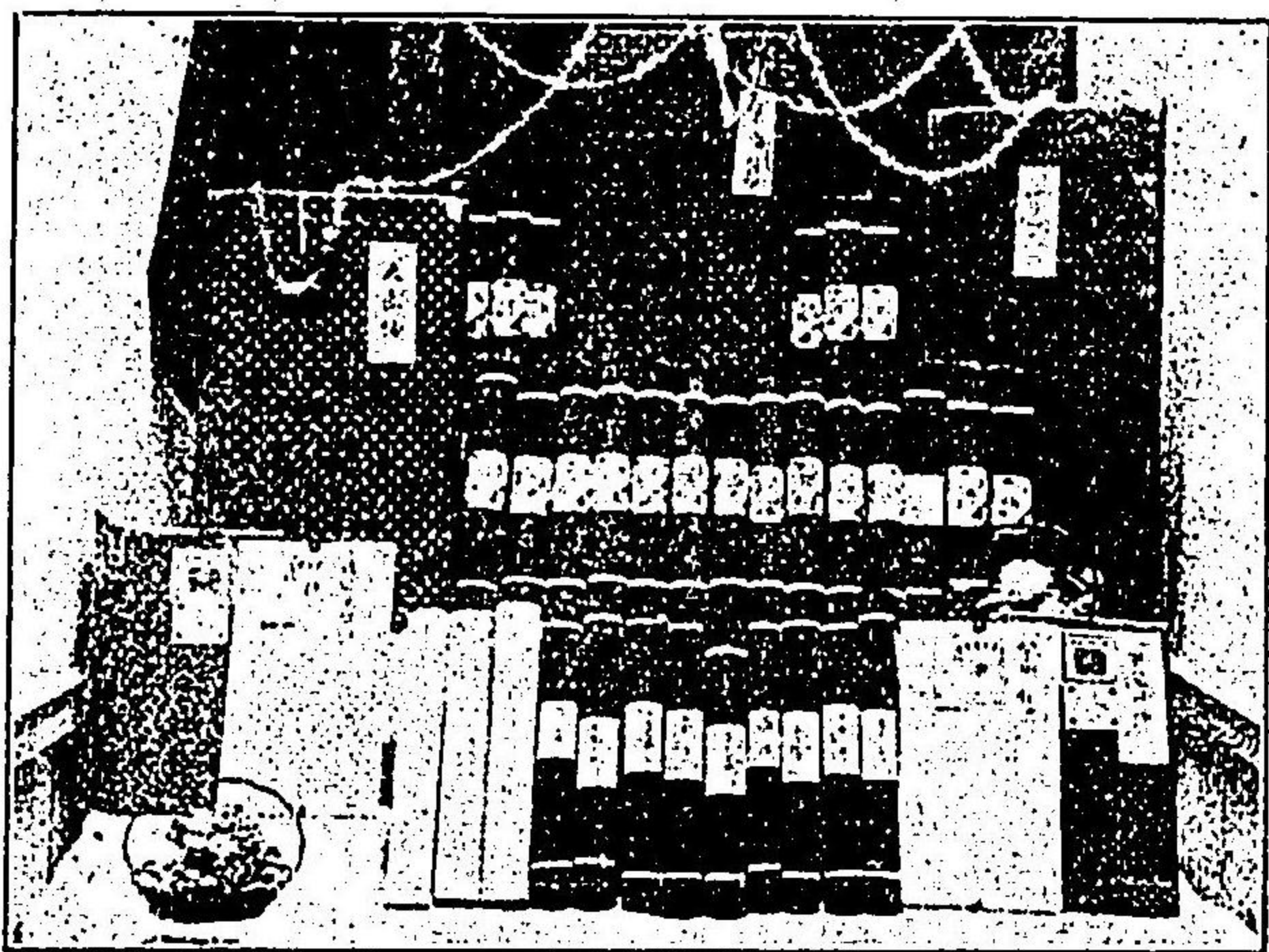


商卸鹼石種各外内

川添石鹼製造所

鹿兒島市東千石町中座角

電話
振替貯金口座
番



當店は常に本場大島紬、琉球紬、
 薩摩上布、薩摩飛白、琉球紺等
 の國産を始め流行の呉服類洩れな
 く何時も潤澤に取揃居候各地方よりの
 御注文は小包郵便にて迅速に御届可申
 上候

營業案内は御申越次第送呈仕候

鹿兒島市金生町

岩 山形屋呉服店

電話御部一五〇番 小賣部六三番 五五九番
 振替貯金口座東京四二〇九番 大阪一七九五番

嶄新なる呉服物は申す迄も無之大
 島紬。琉球紺。薩摩上布。授産場製薩摩紺
 類は精良と低廉とを期し充分に取揃へ居候に付
 き何卒御來觀被成下度奉願上候

山下呉服店
 小賣部 陳列部
 御部 陳部
 陳列部
 ネル部

電話 御小賣部(參〇〇番) 陳列部(五參參番)
 時裝(御注文案内書)御一報次第早速郵呈可仕
 候間何卒御申込み被下度候

鹿兒島市柳町停車場前

陶弘山



薩摩燒製造販賣窯元

隈元陶器所

電話九〇參番

洋服調進所

羅紗地は絶えず輸入致し居り候裁縫は獨得の技術これあり確實取扱仕候

鹿兒島市仲町角

◆TE. 京屋洋服店

發信略語(エツ) 電話三五三番

羅紗販賣商

◆TE. 京屋羅紗部

電話三五三番

改良葬具製造請負業

鹿兒島市山之口町

上野商會

天文館通り

野上音楽隊本部

アサヒビール特約店

名譽正銀牌



嘉納治右衛門造釀

和洋酒類 洋食料品 内外罐詰
 西洋菓子 清凉飲料 シトロン
 サイダー 平野水類 卸小賣商

陸軍御用達

日高善之助商店

有功銅牌
七草正宗



増本酒造合名
會社醸造

鹿兒島市中町八拾九番 電話壹貳四番
 振替貯金口座東京壹九五六番發信略語(○)又ハ(ヒ)

大洋商船株式會社

本社 大島郡名瀬村伊津部
 支店 鹿兒島市生産町五〇

電話一三六番

大島郡各離島航路

定期航海毎月一回

新不老丸

噸數七七一噸

大島郡川邊十島航路

定期航海毎月一回

仁壽丸

噸數四三五噸

但定期航海後大島郡各離島、沖繩、八重山、群島、毎月一回以上航海セシム

帽子。洋傘。メリヤス類。毛布。敷物。

其他舶來雜貨。和洋酒。和洋食品。

各種ノ罐詰一切

鹿兒島市中町旭通

藤武洋物店

店主藤武喜助

(電話六十五番)

③ 商品種目 ③

鯉節鹽干魚 賣買問屋

多少ニ不拘御注文ニ應シ候間御用命奉願候

鹿兒島市仲町魚市場通

電話八百貳拾七番
電番(シモ)シ

海產物商

③

下川三太郎

海產物 賣買問屋 鯉節商

各府縣御注文ニ應ス多少共御用命奉願候

鹿兒島市泉町

④

今井嘉市商店

電話九〇一番
電略(イマ)

和洋家具製造

本店

鹿兒島市金生町
(カヂキ町通)

嫁入道具一式

大津勇熊

うるし各種塗料

出張店

鹿兒島市仲町
(ヤサイ町通)

電話
電略(オツ)又ハ(オ)

干魚類 鯉節 海產物委託賣買問屋

鹿兒島市住吉町(ボサド通)

⑥ 大磯幸兵衛商店

電話八六四番
電略(オイ)(イ)



鹿兒島郵船株式會社
鹿兒島市築町三十三番地

資本金百五十萬圓
電話四八番

海運業

大阪 大阪市西區立賣 堀南道六丁目一 番地	薩摩丸 一、〇三噸〇
沖繩 沖繩那霸西區卅 五番地	大阪神戸鹿兒島間
神戶 神戸市築町三 出張所丁目	沖繩丸 一、三噸〇
大島取扱店	金澤丸 一、三噸〇
株式共和組大島名瀬 會社共利組金久村	大阪神戸鹿兒島 大島名瀬沖繩間
池畑回漕店同	運輸丸 一五二噸
各港 大阪神戸鹿兒 島大島名瀬 沖繩及久米 宮古八重山諸島	海城丸 二八七噸
	久米宮古 八重山諸島

弊店は鹿兒島唯一の
洋酒食料品店

販賣品目

- 和洋酒類
- 洋食料品
- 内外罐詰類
- 洋食器具
- 内外國產煙草
- 洋菓子類
- 果實類種々
- 化粧品類

島屋商會

鹿兒島市仲町御着屋通り

振替貯金 大阪三二四九番
電話 四二五番

商 木 材

支店

父 鹿兒島市西千石町二十一番地
 ② 臺灣 基隆 牛稠港 庄

鹿兒島市生産町拾壹番戸

外山本店

(電話 二五七番)

- 一、杉材、松材、樅板、槻材檜材其他平木類一切
- 一、能代産(○)器械挽四分板六分板八分板屋根板及床框類種々
- 一、注文材、如何様デモ製材可致候

登 録 商 標

骨粉及諸肥料販賣

鹿兒島市住吉町
 稻松商店

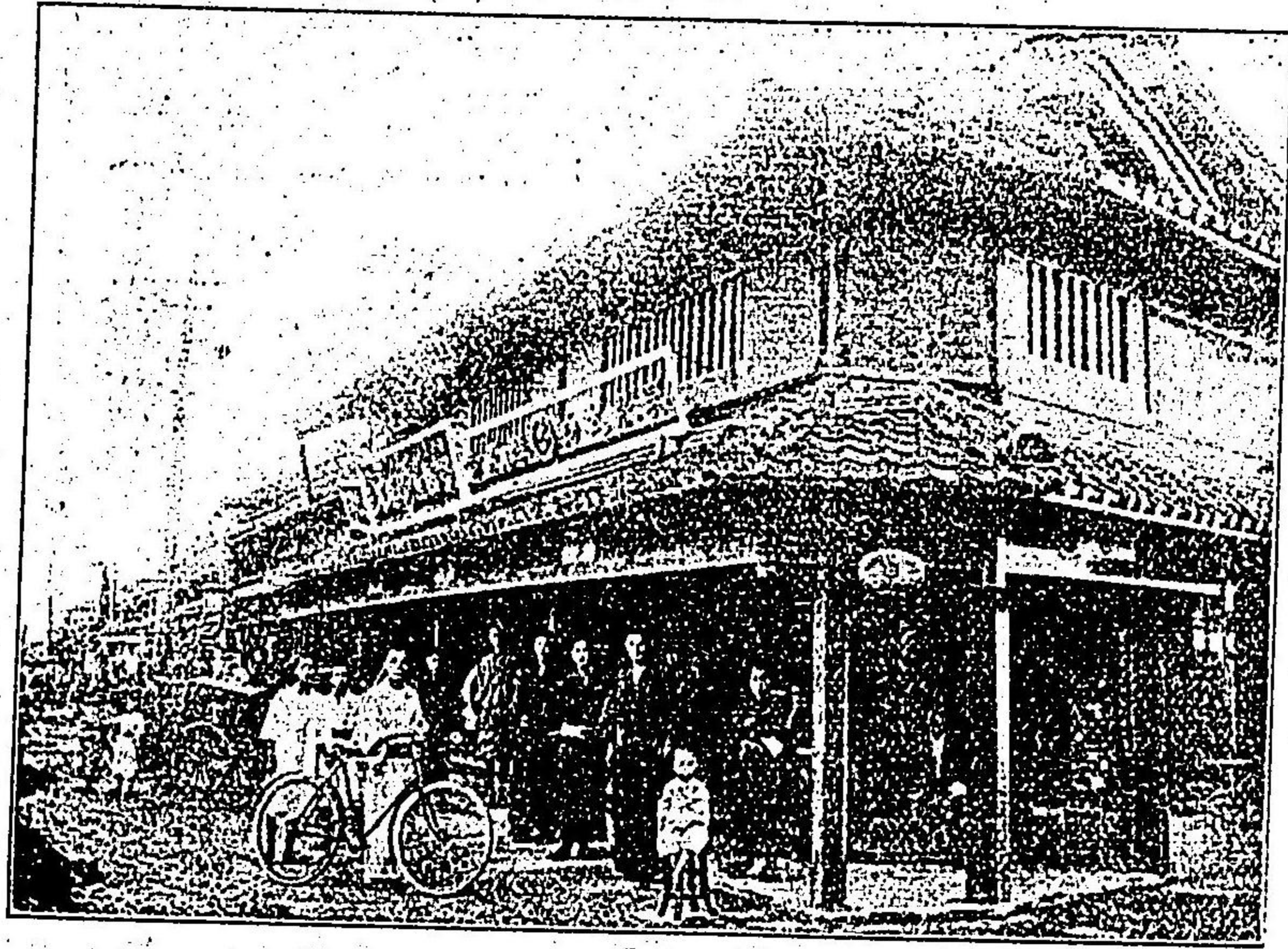
播州多木製燐酸肥料特約 一手販賣
 驅蟲防臭消毒濟ドアルス

兼倉庫業并
 委託販賣業

店主 稻松 熊吉

電話一五〇番
 電話(中)

祝全通



汽車は全通せり。海陸交通機關の完成を得たる。我が鹿兒島市は茲に新たに大なる發展をなさんとす。

此の便宜によりて各織物産地との距離も一層接近せられたれば。茲に弊店は此の機會を利用して益々奮勵を以て平素の御愛顧に酬ひんことを期す。

由來品質精選にして價格の低廉なる應接懇篤にして萬事に熱誠なる弊店の特色は必ずや各位の御満足を得るものと密かに信ず。

正確附
鹿兒島市立馬場通り四ツ角
多松屋吳服店

電話 貳五六一番
振替口座大阪三三六二番

清酒焼酎
醬油味噌
酢釀造元
内米穀
販賣業

九
藤安釀造店

鹿兒島
住吉町

電話三〇番
話三六

賣販造製靴等高

品質精良!!! 價格低廉



意匠嶄新!!! 技術卓絕

鹿兒島市吳服町石燈籠通

店靴屋梗桔

山 口 才 次 郎
電 話 三 四 二 番

商標登錄

松

筆墨
文具

郵高



鹿兒島市東石町寶榮堂川商會電話二六六番



一 資本金貳拾萬圓

鹿兒島市六日町八阪神社前

株式會社 **鹿兒島貯蓄銀行**

電話 一三二番

一 積立金三萬五百圓

白

登録

の骨粉肥料

商標

(青繩掛)は何故農界に歓迎
さる、か？

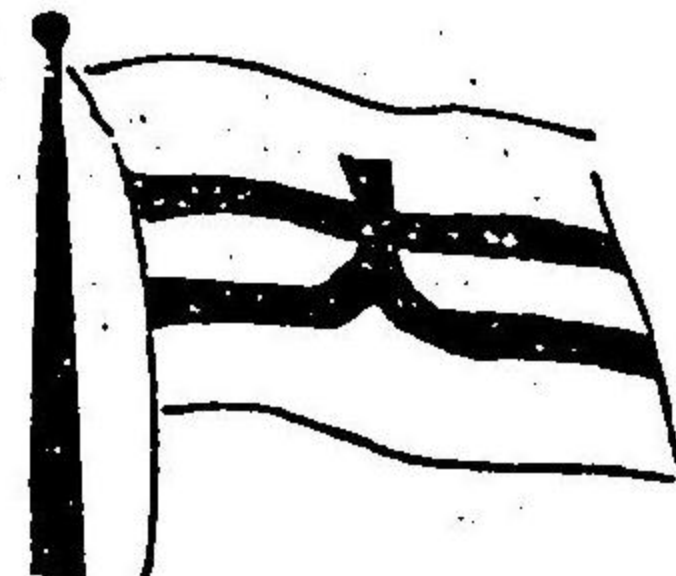
柘目正確。俵装完全。
原料精撰。價格勉強。
の特色を有するが故なり

酸曹肥料各種
大豆粕、種子粕
其他各種

鹿兒島市築町海岸

米穀荷受業 **野口幸之助商店**

電話 一八番
電略 (又ハノシマ)



明治拾七年立

大坂商船株式會社

鹿兒島支店

電話一〇二番及八五〇番
各船內娛樂設備アリ

!!! 鹿兒島出帆海路案内 !!!

- 直行神戸大阪行 每月八回以上
使用船一、二〇〇噸以上平壤丸、廣連丸、馬山丸、宮島丸
- 油津神戸大阪行 每月拾五回
細島丸、八〇〇噸以上京城丸、義州丸、琉球丸、出帆 隔日定期隔數日
豐後、伊豫、讚岐各港行ハ細島ニテ接續ス
- 大島沖繩行 每月八回以上
使用船一、二〇〇噸以上平壤丸、馬山丸、廣連丸、宮島丸
- 基隆行 每月二回
使用船一、六〇〇噸宮島丸
- 大島各島行 每年上半期中每月二回以上
大島、沖繩、宮古、八重山ニ寄港ス
- 種子島屋久島行 每月十回
鹿兒島夜十一時出帆西表同上



鹿兒島市千石街

河原仁右衛門商店

電話五四六番

白灰製造業

製造工場 肝屬郡古江

- 商 品 概 目
- 一、左官材料一式
 - 一、生石灰木炭各種
 - 一、 日本セメント
 - 一、土木用品一式

石灰貯藏場

鹿兒島市州崎濱

皇太子殿下御買上光榮賜

肥薩鐵道開通式萬歲

滋養御菓子

鹿兒島市中町野菜町通

三洋和菓

商號 大坂屋本店

賞薩摩名産カルカン

鹿兒島市吳服町通

領薩摩譽せんべい

大坂屋支店

電話(シ)

弊店發明ノ譽せんべい及鹿兒島名所せんべいハ種

々苦心ノ結果出來ノ品ニシテ腐敗ノ憂ナキハ勿論手輕御土

産トシテハ最モ便利ナリ

本品ハ畏多クモ明治四拾年皇太子殿下御行啓ノ節御買上ノ光

榮ヲ賜フ

電話(ハ) 八〇三番

營業品目

和洋書籍、雜誌、文房具、
製圖器械、運動器具、其
他各種

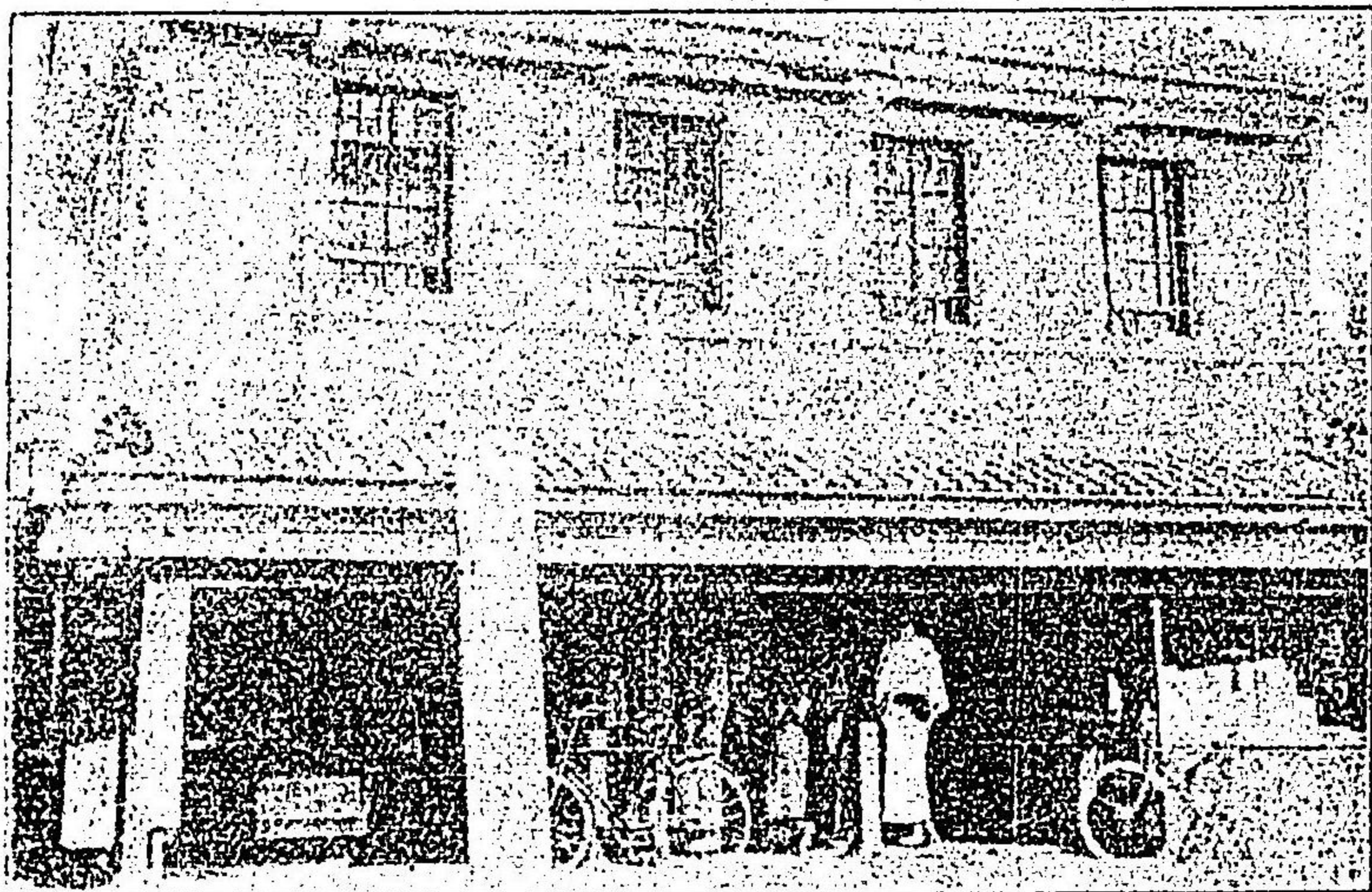
鹿兒島市仲町

書肆 谷村藤吉

電話五六番

第七高等學校造士館内
俱樂部附屬文具及雜貨

谷村販賣部



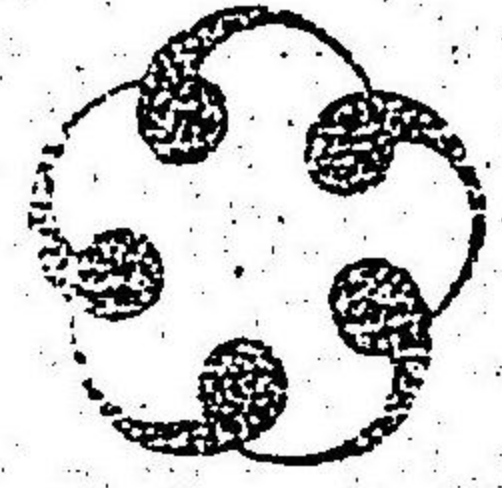
資本金七十七萬圓
積立金七百七拾貳萬圓

本店

大阪市東區
淡路町二丁目

支店

東京 麹町支店
大阪 西區支店
同 南區支店
堺 支店
神戶 宮前支店
西宮 支店
和歌山 支店
大隈 支店
大島 支店



株式會社

浪速銀行鹿兒嶋支店

支店長 愛 甲 兼 達

鹿兒嶋市築町三番戶 電話(五番)四六七番

一為換取組先ハ内國及清韓兩國樞要ノ地ニ有之候
一諸預リ金諸貸出金爲換荷爲換代金取立保護預リ
金銀塊國債證券買入等精々御便利ニ取扱可申候

- ▽新川の清流に瀕み、霧島の靈峰を仰ぎ△
- ▽風光絶美湯質佳良、保養の最好地也△
- ▽附近一帯名所舊蹟多く最も散策に適す△

始良郡西國
分村日當山

明治溫泉

- ▽國分驛より約貳拾町△
- ▽鹿兒嶋神宮を距る約拾五町△
- ▽奈氣木杜を距る約四町△

鹿兒島市吳服町

十文字屋

電話百〇七番
振替東京一三五〇番
口座

多少に拘らず

御用命

奉願上候

本店

京都市

新町

今出町

上ル

蒙

宮内

省御買

上ノ榮

各博覽會

共進會

優等賞牌受領

吳服帯地ゝ最

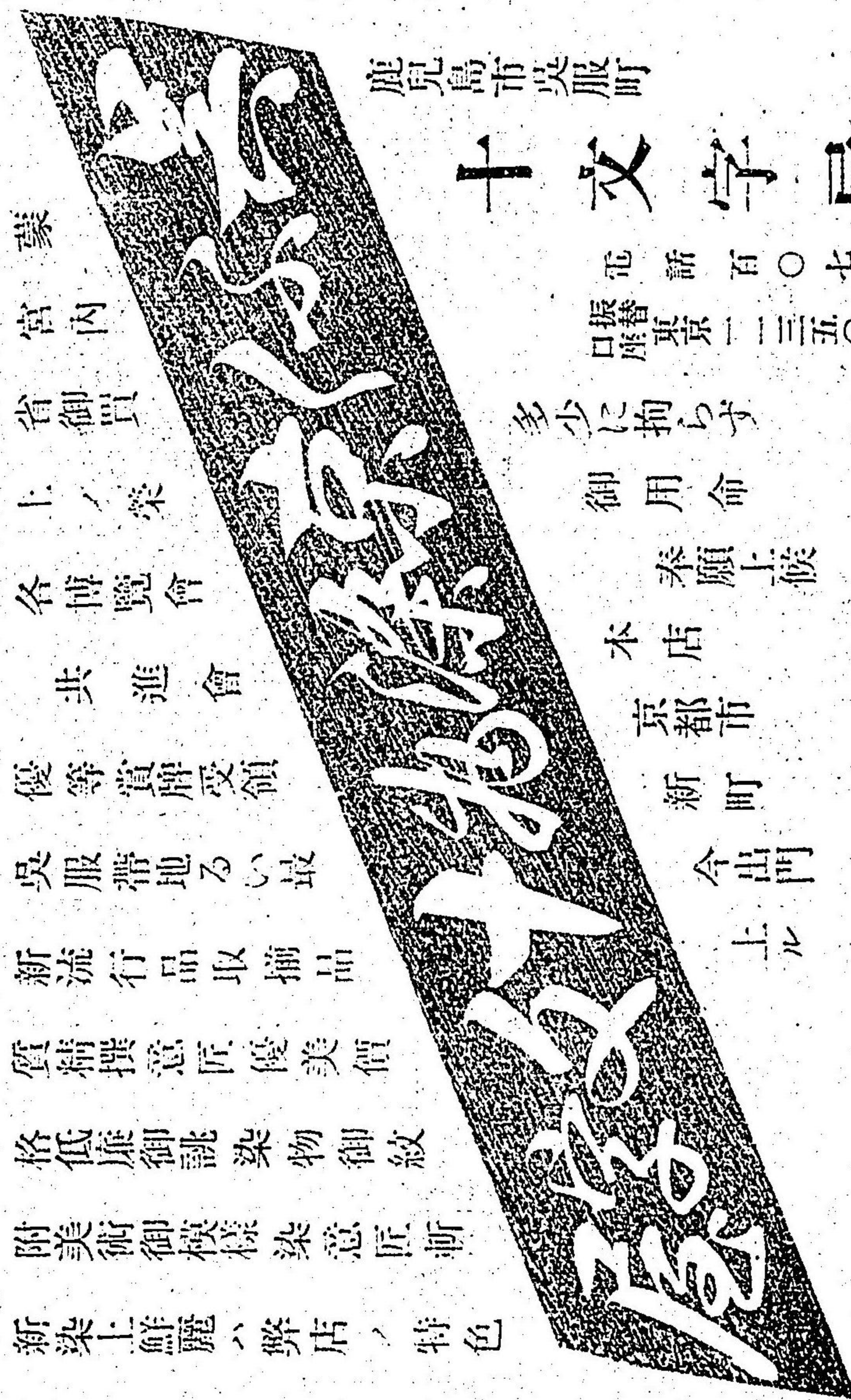
新流行品取揃品

質精撰意匠優美價

格低廉御誂染物御紋

附美術御模様染意匠斬

新染上鮮麗ハ弊店ノ特色



三製糖株式會社
神戸増田製粉所
米國スタンダード石油指定販賣

製品特約販賣

鹿兒島市旭通

有川商店

電話(五四三)

營業目業

→○←

燐 泡 内

寸 盛 外

綿 昆 砂

布 糖

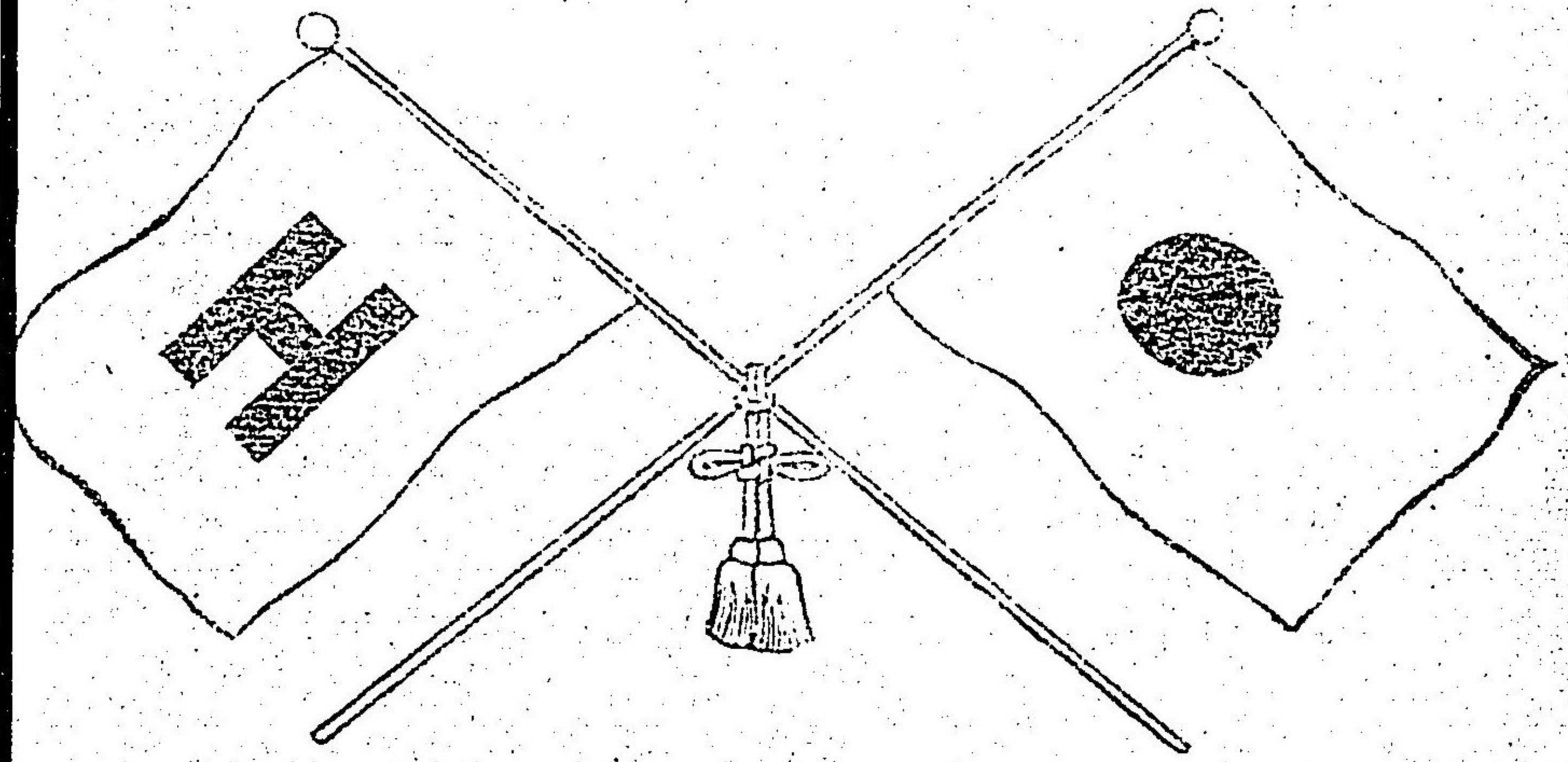
其 米 石

他 利 油

雜 堅 素

品 粉 麵

祝肥薩線全通



公債現物問屋

ビルブローカー

信託部

有價證券並ニ倉庫證券擔保貸借
紹介土地賣買紹介並ニ管理
荷爲替取組其他金融事項

販賣部

鹽元賣捌並ニ東洋製鹽株式會社
代理販賣
臺灣鹽特約販賣

代理部

萬歲生命保險株式會社
代理店

鹿兒島市山下町二九、廣口



合資會社 林商店

電話二二二、二三四番
振替口座大阪七〇七番

吳服太物洋反布總糸卸商

鹿兒島市六日町朝日通

龜甲屋

森 治兵衛商店

電話 四拾七番

京都市下京區油小路通綾小路下ル

同 仕入本店

電話 壹千貳拾番

大阪市東區備後町壹丁目

同 仕入支店

電話 東七百七拾壹番
振替 大阪六百八拾七番
口座



薩摩名產

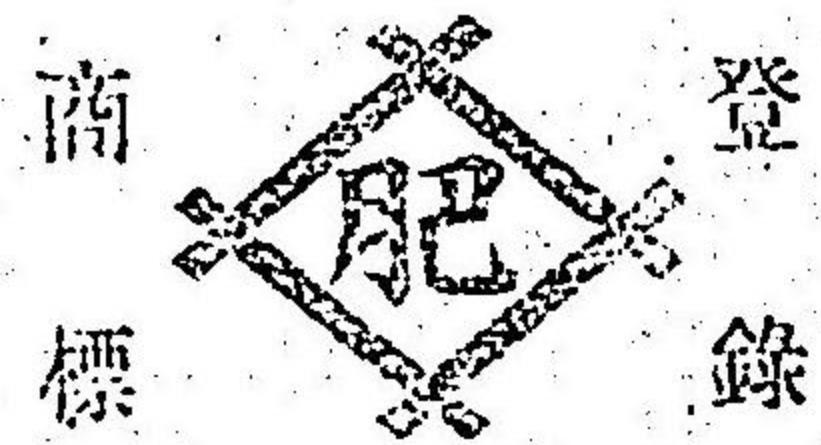
清酒 燒酎

釀造販賣所

鹿兒島市柳町拾七番地
今相良商店

電話 四四二番

弊店販賣ノ養老酒ハ風味最モ佳良ニシテ
衛生上無比ノ好飲料酒ナリ尚ホ料理用ト
シテモ味淋ニ劣ラズ



骨粉肥料
蒸製骨粉
種子油粕製粉

硫曹肥料 大豆粕 種子油粕
細工骨粉 除虫油 原料荒骨
其他各種肥料

鹿兒島市小川町
鹿兒島肥料合資會社

電話(キヒ)電話壹〇八番

鹿兒島市稻荷町字瀧之上
瀧之上製場

電話 七〇九番

長崎市權島町伊藤竹三郎方
社員出張所

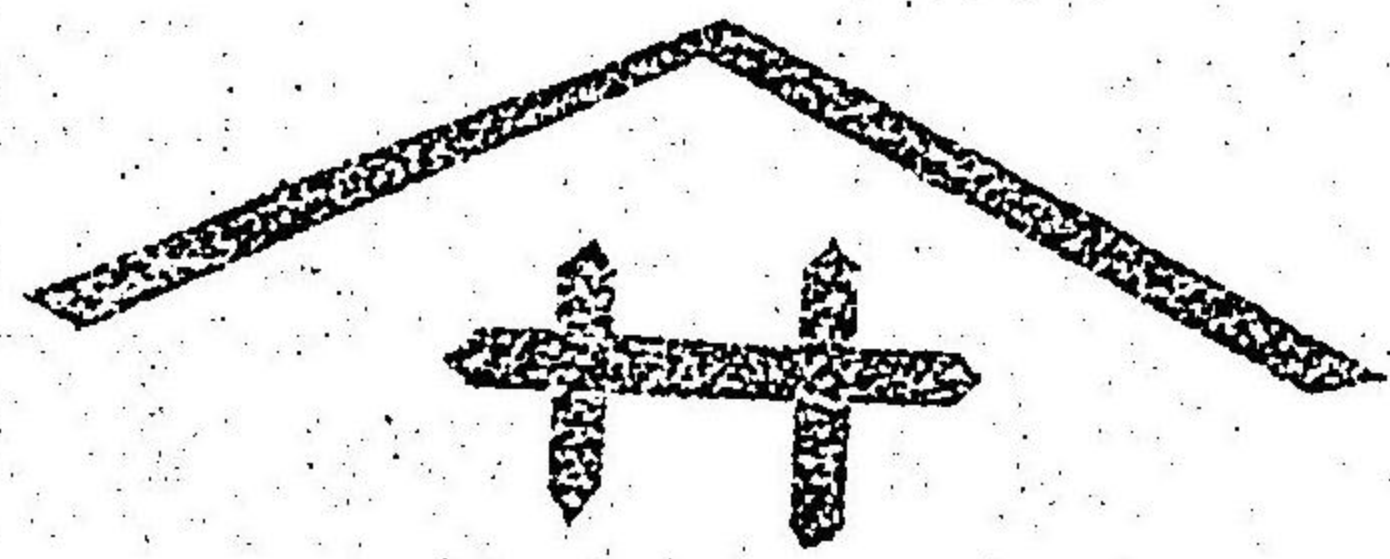
電話 五八二番

同 市木鉢郷字餅石
長崎製場

電話 五七番

●確實親切機敏の三點は弊店信用の基礎に御座候

商標



- 内國砂糖
- 米穀
- 雜穀
- 鯉節其他
- 海產物
- 林產物

鹿兒島市住吉町七拾貳番戸海岸通り

齋藤友次郎商店

電話 六五〇番
電略(サイト)又ハ(サ)

●右各種の委託賣買は弊店の最も特長と自信仕候

大 阪 商 船 株 式 會 社 汽 船 荷 客 元 扱 所
 鹿 兒 島 郵 船 株 式 會 社 汽 船 荷 客 元 扱 所
 大 洋 商 船 株 式 會 社 汽 船 荷 客 元 扱 所
 廣 運 株 式 會 社 汽 船 荷 客 元 扱 所

其他内外各汽船荷客取扱並ニ荷爲換取組仕候

平 海 陸 運 漕 業

鹿兒島港築町旭通海岸

平川運漕部本店

同港住吉町石燈籠通海岸

平川運漕部支店

店主 平川 淺太郎

電信略號(ヒラ)又(ヒ)
 電話番號 三五二番
 本店連接 三五二番
 電話番號 三五二番

古着小袖類
新仕立着類
新古洋服類

鹿兒島市石燈籠通中町角

尾下商店

電話 一五八番

營業品目
古着、小袖、新仕立男女袴
婦人コート、インパズ、新蚊帳
新古蒲團、其他新仕立物類一切

鹿兒島市堀江町石燈籠通
山形屋古着商店

岩元平次郎本店
(電話一五番)

大阪市東區備後町壹丁目

岩元平次郎支店
(電話東三五二八番)

大島郡名瀬村字金久百二十二番地

岩元平次郎支店

鹿兒島市平野町二十二番戸

岩元紬織工場
(電話一六番)

大島紬買次商

紬織業

岩仕入商

開業廣告

砂糖類各種卸商 並雜貨類

但シ黒糖ノ如キハ琉球大島沖永良部島徳ノ島喜界島與論島ノ各産

弊店儀從來黒糖委託賣買業相營ミ來リ候處今回肥薩鐵路全通ヲ機トシテ前項ノ通卸販賣業開店仕候ニ就テハ賣品仕入方ノ儀凡テ各産地ヨリ輸入仕申候間品質精撰薄利ヲ主トシ大方諸彦ノ御便利ヲ圖リ弊店發展ノ基礎トシテ大飛躍勉強可仕候間前日ニ倍シ御引立ノ程伏シテ奉希候謹言

鹿兒島市堀江町五十二番戸廣馬場通り

石燈籠通り南入ル東側

全

黒砂糖委託賣買業
各種砂糖並ニ雜貨卸商

山崎本店

電話二〇三番
電略ヤマアハヤ

天下一品無双
清酒
標高緑萺
名譽
長四海
鹿兒島市仲町
中村支店
電話七四八

發賣元
醸造元
福岡縣三浦郡大溝村
中村常太郎

大阪尼崎汽船元扱所
 鹿兒島糸田汽船元扱所
 其他各汽船荷客取扱所
 鐵道貨物運送取扱所

鹿兒島市住吉町海岸

陸海運送業

共連組回漕店

發電 (キヨ) 又 (キ)
 電話 三百〇四番
 電話 六百〇三番

祝肥薩鐵道開通式

鹿兒島縣始良郡加治木町アミ掛橋東へ入ル

號商 小杉藥舖 小杉恒右衛門

發電略號 (コスキ) 又ハ (三)

各醫士諸君ニ對シテハ代金未支拂ノ通般
 藥品以テ販賣スルニ當リテハ一切藥品
 一、鐵業、土工、用メイト及ヒ火藥、附屬品
 一、切、諸名家賣藥並ニ洋酒類、一切
 一、血、精、類、但シ赤貧者ニハ無料ニテ施給ス
 一、願、精、廉、價、ヲ、以、テ、販、賣、ス、仰、希、ク、ハ、借、荷、ノ、愛、
 一、顧、ヲ、給、ラ、ン、コ、ト、ヲ、
 仰、純、良、藥、品、ニ、ア、ラ、ザ、レ、バ、販、賣、シ、テ、責、任、
 商、則、チ、告、白、セ、シ、ハ、大、方、諸、賢、ノ、風、評、ヲ、知、ラ、ル、
 不、所、ナ、リ、爾、來、十、餘、年、其、間、百、難、ヲ、排、シ、不、
 以、控、不、屈、彼、岸、ニ、達、セ、サ、レ、バ、止、マ、ガ、ル、精、神、シ、カ、
 五、號、ヲ、發、布、シ、テ、大、幸、ニ、以、テ、四、十、年、法、律、第、三、十、
 一、切、一、類、品、藥、良、純、機、械、用、醫、獸、二、醫

鹿兒島市易居町

號商 小杉藥舖支店(但四十二年夏期開始)

電話番號七三二番

和洋油料理

大門口

青柳樓

電話二三〇番

九州酒、灘酒ニ及ハストノ誤リタル先
入思想、打破セラレタリ

銘酒

有楽

鹿兒島市支店
首藤
電話四四四番

品質、其方醇ヲ以テ、鹿兒城ヲ敬馬倒セシ
タル清酒界ノ覇者ヲ見ヨ

營業種目

活版印刷簿記製本

各縣統計
同 年 報
同 月 報
諸 雜 誌

諸官衙簿記臺帳
銀行手形
諸野引イッキ應用
其他諸印刷

鹿兒島市金町山形屋吳服店北隣

佐々木龍勢堂

主 佐々木 伊四郎
電話番號「四二九」
鹿兒島市金町山形屋吳服店北隣
振替口座(六四二六)

大黒天印 甲斐産葡萄酒

●天下に名聲轟々たる大黒天印甲斐産葡萄酒は純粹生葡萄酒にして藥用に適し品質の純良なるは世已に定評あり醸造經過年限に依り三種に區別す 金線拾年 銀線五年 赤線三年

日印 養帝國葡萄酒

●品質の精良なると價格の低廉なるとは既に他の幾多甘味葡萄酒を壓倒して斯界に唱ふるに至れり然れども弊店は尙之を以て足れりとせず種々原料の精選に勤め以て滿天下愛飲諸彦の高唱に背かざらんことを誓ふ

大黒天印 宮崎葡萄酒液

●長井、下山兩博士の指導の下に創製せる本液は滋養に富める葡萄酒の葉汁なれば他の飲料に比類なき卓越せる特色を有し毫もアルコール分を含まず芳香美味にして衛生に適し日常之を飲用せば消化力を助け筋肉を肥し滋養補血に偉大の効あり

宮内省御用達 發賣元 東京日本橋 通旅籠町 甲斐産商店 宮崎 光太郎

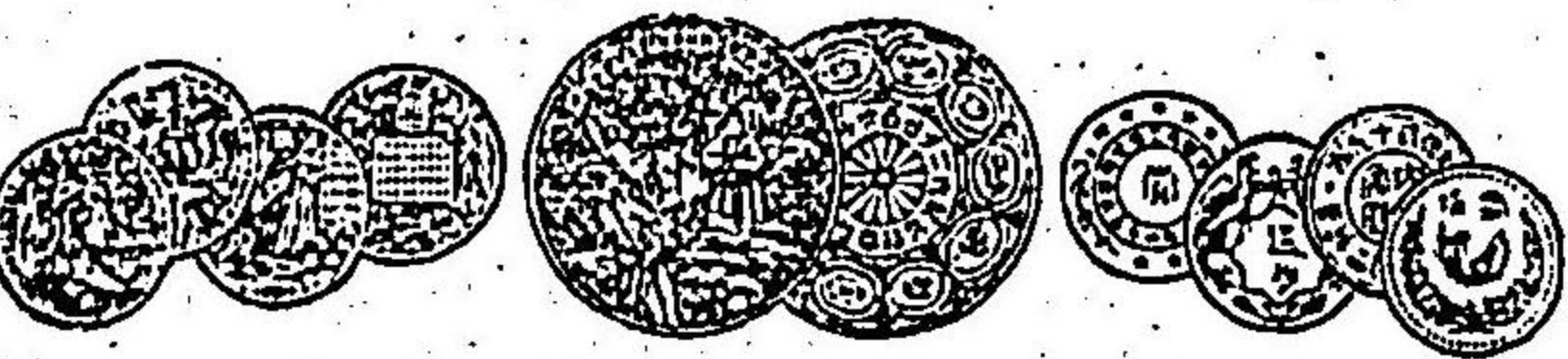
鹿兒島縣下 一手販賣特約店 加野分店 振替口座大阪五五九三番 電話一五三

九曜正宗

は弊店が多年理論と實際とに鑑み熟練なる技術者をして醸造せしめたる。斯業
 界の模範酒なり
 は唯に風味の絶美なるに止まらず醸造精純を極めれば衛生上有益無害、酔
 ふて害なく真に百薬の長なり

九曜正宗

は品質醇良、風味絶美、天下稀有の醇酒なり故に各地博覽會、共進會、品評會
 等に於て常に優等最上の賞牌を受領し現に九鐵列車食堂の専賣清酒なり
 は改良を加へ試験に試験を経て理想的醇良酒なるを確信して之を江湖に勦
 ひ一夜造と大に其選を異にす



宗正曜九

元賣發造釀

店本宗正曜九 號商錄登

郎一壽岡西

町屋米市本熊

番〇二七一阪大座口替振 番八十百話電

店理代賣發

店分野加

通旭市島兒鹿

番三九五五阪大座口替振 番三十五百話電

英國政府衛生委員の報告に曰く

世に若し簡單にして

滋養ある食物を求めんとせばパン、

チーズ及ビール然らざれば

キリンビール

パン、バター及ビールを用ふるに優るもの

断じて無かるべきを信ず、と

而して此所説に恰當する醇良なる麥酒は

實に我がキリンビールなり

(倫敦ホスピタル雜誌所載)

元 賣 發

屋 治 明 社 會 名 合

店 理 代 賣 發

店 分 野 加

本領

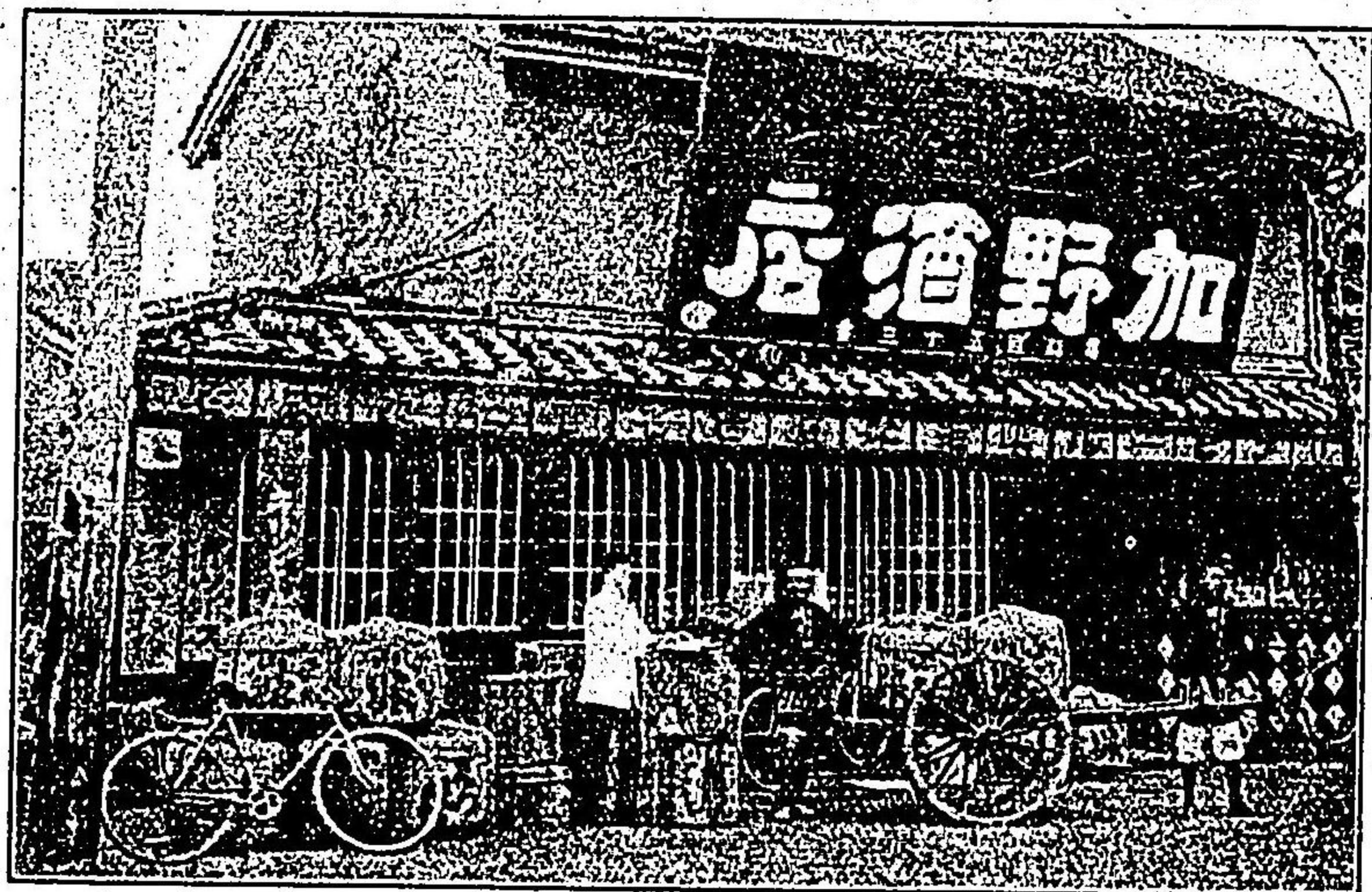
常に内外新奇の美酒佳肴を店頭へ開店以來數年間に品質の精撰價額の低廉を本領として貫徹し幸に破格の御愛顧を得て最も盛大に最も確實に發展したる弊店は更に強固なる基礎の上に愈其本領を發揮し御愛顧の萬一に酬ひ可申候

商 品

弊店が發賣する和洋酒、食料品、洋菓子、化粧品類は何れも著名確實なる其醸造元或は直輸入元と特約し總て專賣品のみを取扱ふが故に其責任自ら明かにして品質の純良最新なるは他に其比類を見ず特に銘酒界の霸王たる富久娘と麥酒界の泰斗たるキリンビールは鹿兒島宮崎沖繩三縣下發賣代理店として逸品を備へ最も江湖の賞讃を得申居候

配 達

市内は如何に僅少の御注文にても極めて迅速に配達し遠隔の地は夫れ々海陸の運送便にて御用達可仕若し物品の運搬を不便なりとせらるゝ場合は商品券を以て最も御手軽に御便宜相計り可申上候



鹿兒島市旭通
加野分店
電話一五九番
振替口座大坂五九番

覺城上流の紳士は何故に富久娘を愛用せらるゝか



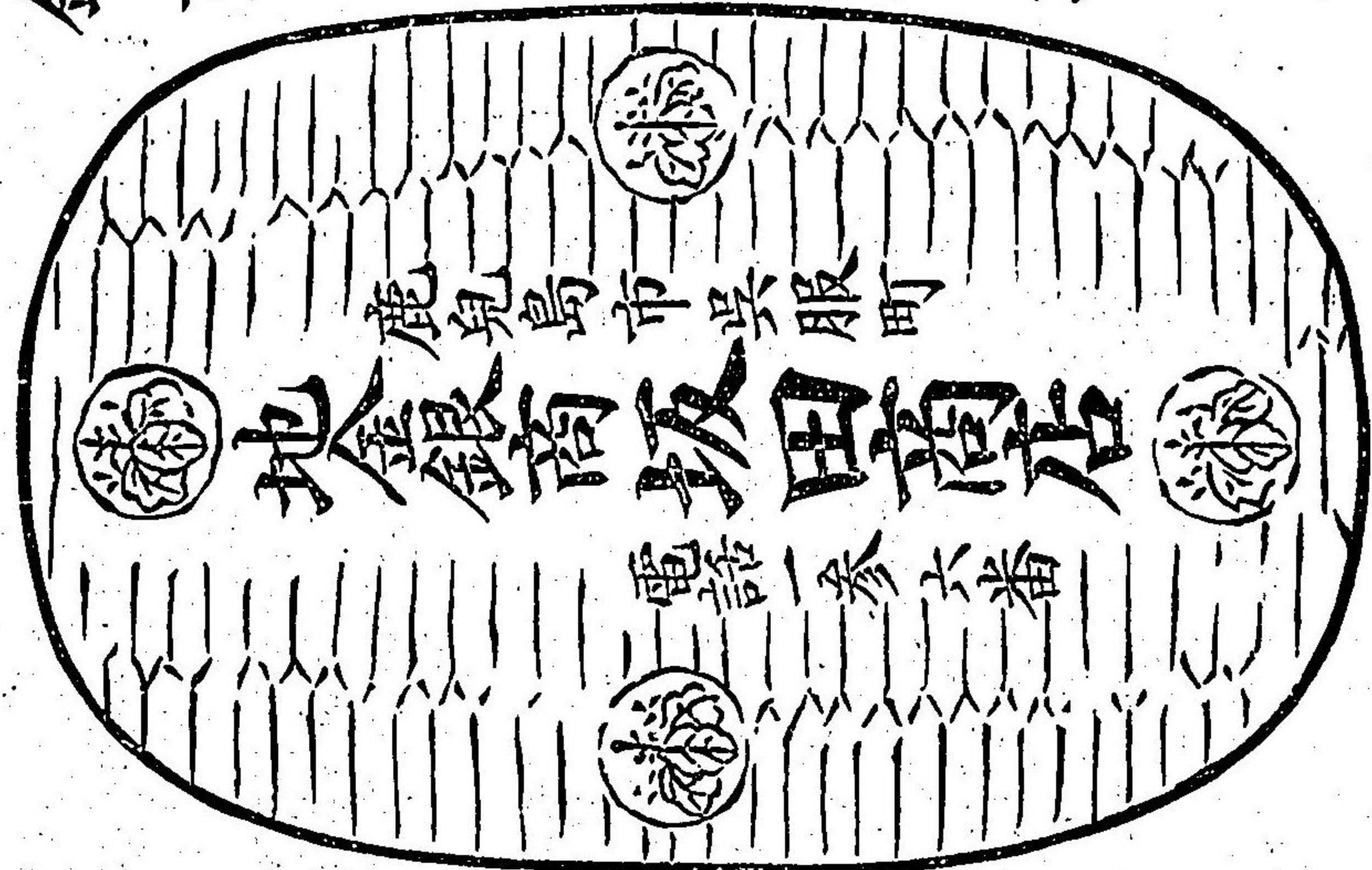
製造元 花本甚右衛門
發賣元 加野分店
鹿兒島市旭通
電話一五九番

製造元 花本甚右衛門
攝津灘新在家

發賣代理店 加野分店
鹿兒島市旭通
電話一五九番

愛飲家にして未だ富久娘の美味を知らざる人ありや

礦業用青化用分折用品



公債株券賣買



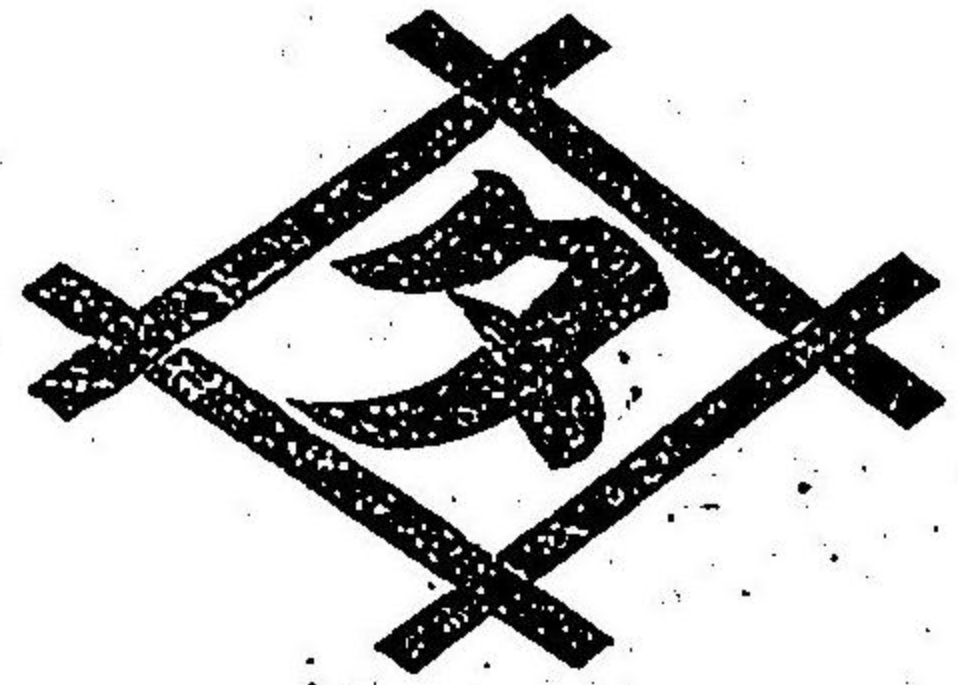
博熊
多本
醬油卸商

鹿兒島市大黒町

加野分店
醬油部

電話七三三番
電略(力)三

記 號



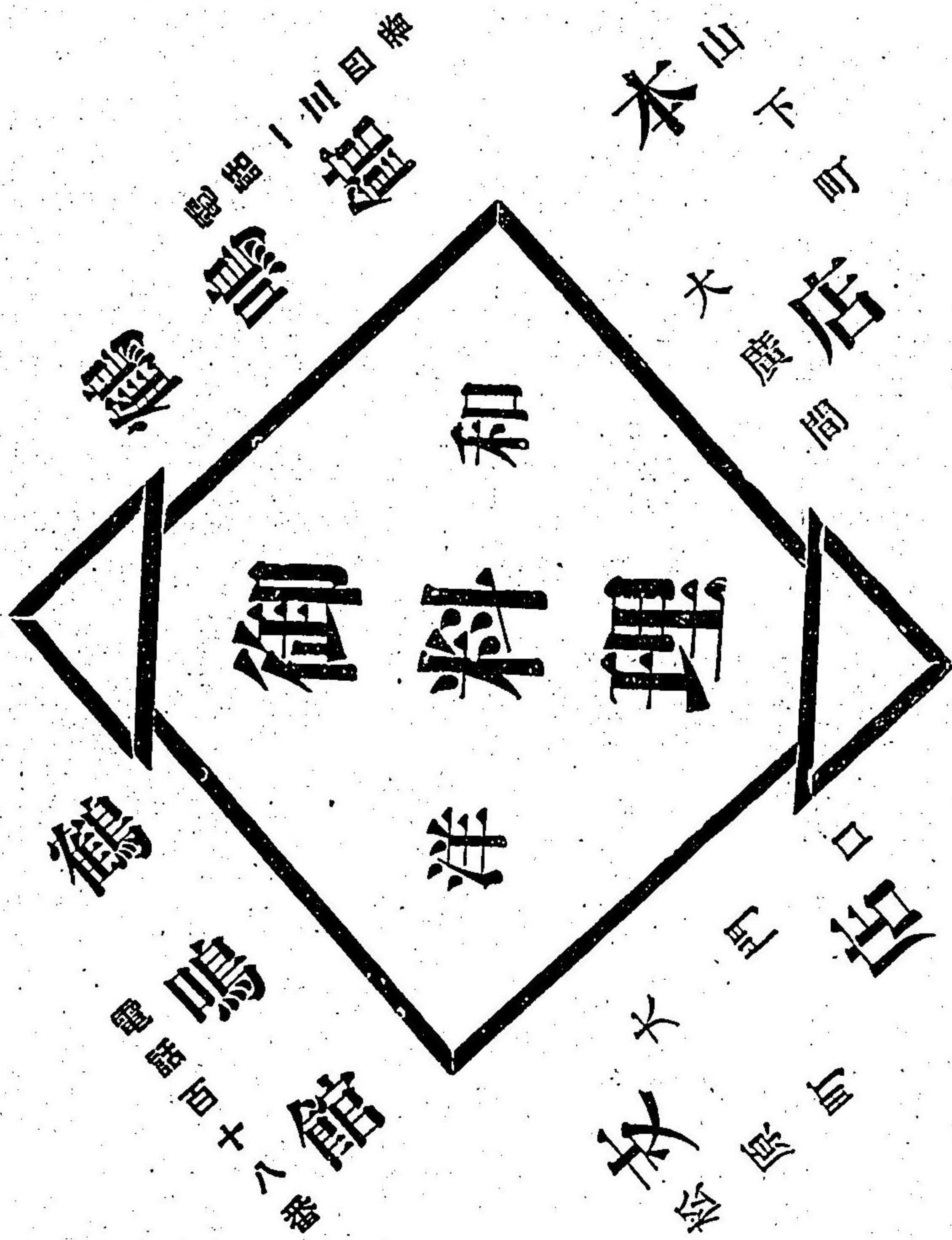
鐵道貨物
運送取扱

鹿兒島驛前

盛運舍運輸本店

店主 田中慶次郎

電話六三九
電略七イ



ライジング・サン石油特約販賣
日本燐寸製造株式會社製品燐寸

鹿兒島
宮崎
沖繩
三縣下一手發賣元

鹿兒島市金生町七(舊加治木町通)

矢福崎直太郎商店

電話四三三番

内外砂糖、素麵、昆布、米利堅粉、其外荒物類
一切卸小賣商

大

砂糖泡盛内外米穀及雜貨商
 沖繩縣那覇西
大坪商店

砂糖泡盛及内外米穀商
大坪商店
 電話西一〇四

大阪市西區立賣堀南通六丁目
大坪岩次郎
 電話(二〇八)又(九〇九)

砂糖類一切泡盛内外米穀
 白米類及油メレン粉
 素麵其他雜貨一切卸商
 味噌醬油醸造販賣商

鹿兒島縣鹿兒島市潮見町五十七番戶
 電話(ヲ)又(ヲツ)

◎松元鍋屋 縣下同業者中
 此の往古開業以來百餘年
 此の所居市郡村へ拾餘
 人の職工にて製造致居
 候製造力の豊富なる如
 何なる多量の注文も速
 可應設備相整居候
 登錄

商號
 ◎松元金
 物商店 松元金
 致候取引業務の發展
 而も誠實なる出荷に
 して信用を博し居候之
 湖の特色として私居者
 の大に誇りとする次第
 後尙一層奮勵以御厚意
 誓申候



小賣部 一三三番
 工場部 一三九番
 卸部連 一三九番
 發售部連 (マ)又(マツ)

鹿兒島市江八番
 石燈籠通
松元宗二商店

振替貯金口座
 東東八二二番
 大阪一六四六〇番

廣告

純良 泡盛 錦江釀造販賣 瓶壺 入詰 共

右今般沖繩ヨリ熟練ナル職工ヲ連來リ從來泡盛ノ製法ト當地燒耐ノ造法トヲ折衷釀造致シ候處幸ニ風味芳香衛生無害ノ醇酒ヲ得今回ヨリ精々勉價ヲ以テ廣ク發賣仕候間多少ニ不拘御注文被成下度奉希候也

鹿兒島市鹽屋村二百一拾二番地

泡盛 販製 賣造

今 我 部 政 補

電話番號(七四一)

鯉節商 海產物委託賣買業

鹿兒島市住吉町



岡崎七二商店

電信略號(七) 電話九百番